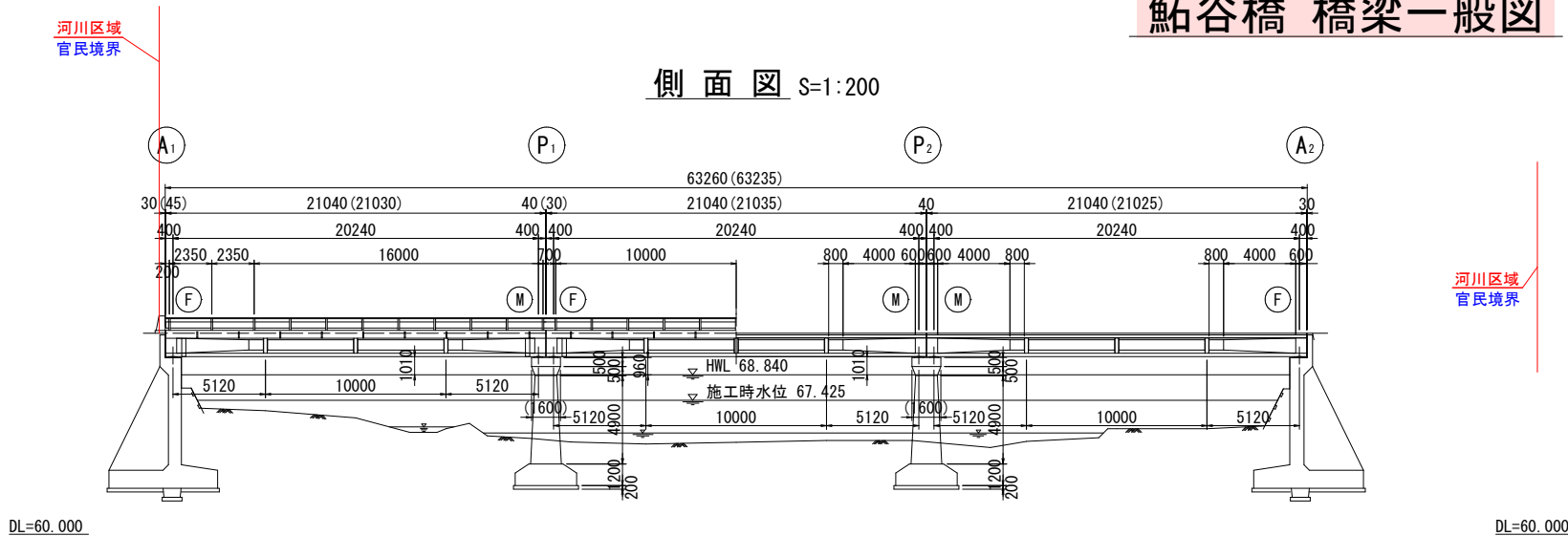


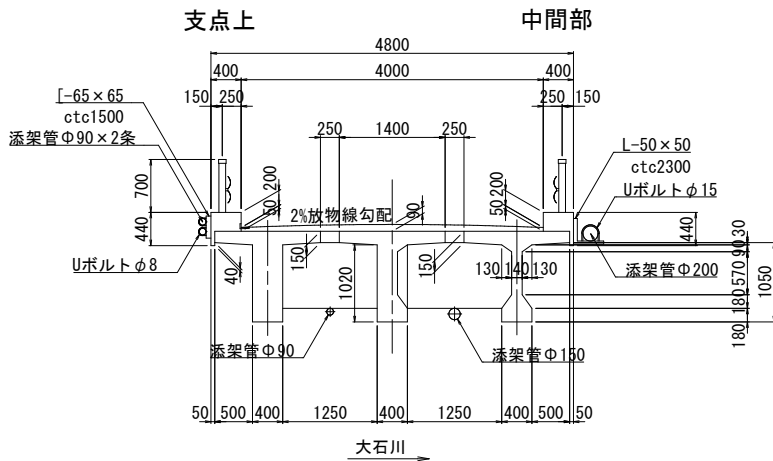
鮎谷橋 橋梁一般図

側面図 S=1:200

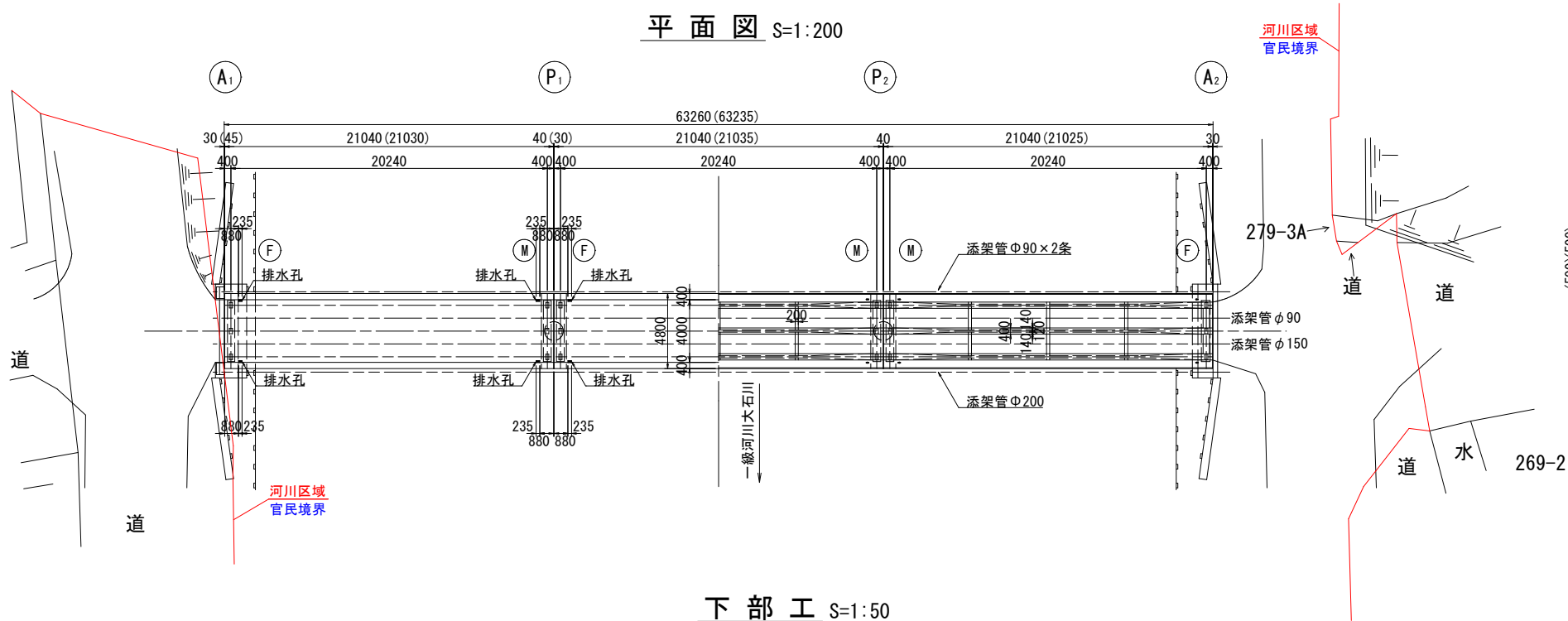


(※ 土中部及び河川HWLは、既存資料図面よりトレースしたものである。)

断面図 S=1:50

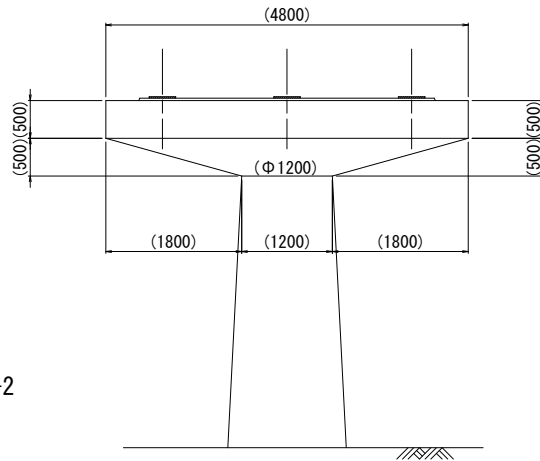


平面図 S=1:200

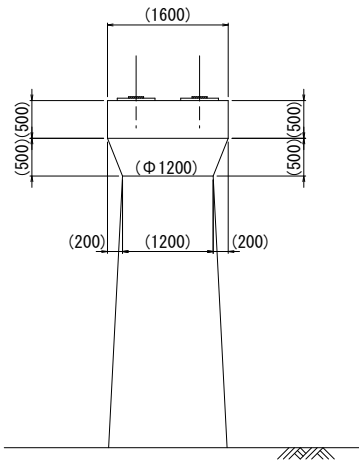


P1, P2橋脚 S=1:50

正面図



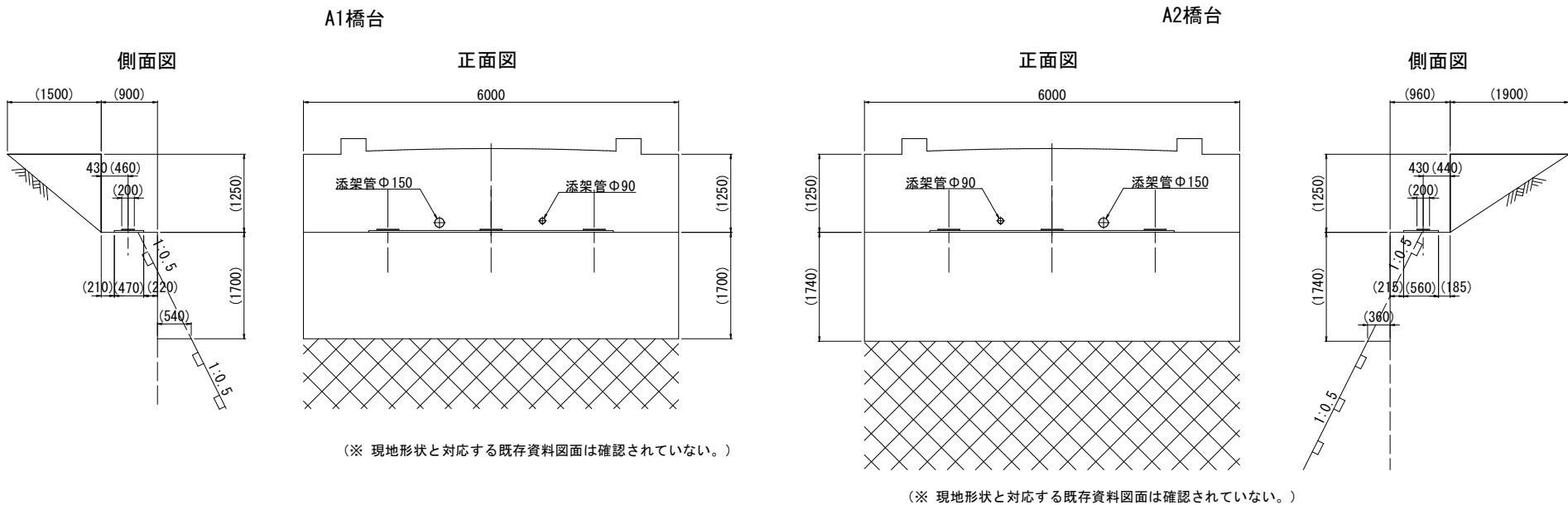
側面図



(※ 現地形状と対応する既存資料図面は確認されていない。)

(※ 現地形状と対応する既存資料図面は確認されていない。)

下部工 S=1:50



設計条件

橋 格	2等橋 (TL-14)
路線名	関川村道 セツ谷郷51号線
交差物件	大石川
竣工年月	昭和44年3月
適用基準	上部工：S36年プレストレストコンクリート設計施工指針 (推定) 下部工：S41年道路橋下部構造設計指針調査及び設計一般編 (推定)
橋 長	63.2 m
桁 長	21.04 m
支間長	20.3 m
上部工形式	PCボスステンションT型単純桁
下部工形式	橋台：RC控え壁式橋台 橋脚：張出式橋脚
幅員構成	0.400 + 4.000 + 0.400 = 4.800m
斜 角	90°
道路線形	R=∞
縦断勾配	1%未満
横断勾配	2%放物線
舗 装	コンクリート舗装 t=50~90mm

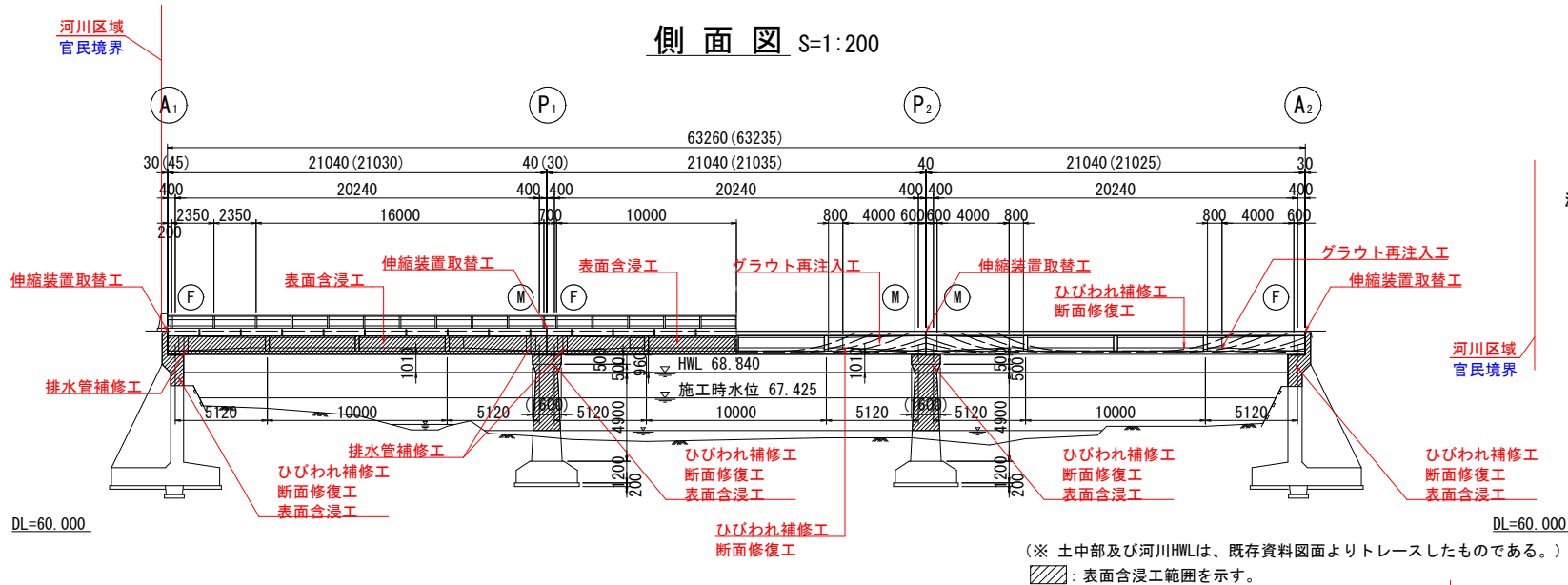
注記

- 図面は、現地形状調査の結果及び既存図面、道路台帳附図より復元したものである。
- カッコ () 内の数字は、現地形状調査の結果であり既存資料図面が確認できない若しくは異なる場合に記載している。
- 支承の固定・可動条件 (F：固定、M：可動) は、既存図面及び現地計測により判断した。
- 図面中の河川区域・官民境界はH24年度国土調査結果を反映した集成図をもとに挿入したものである。

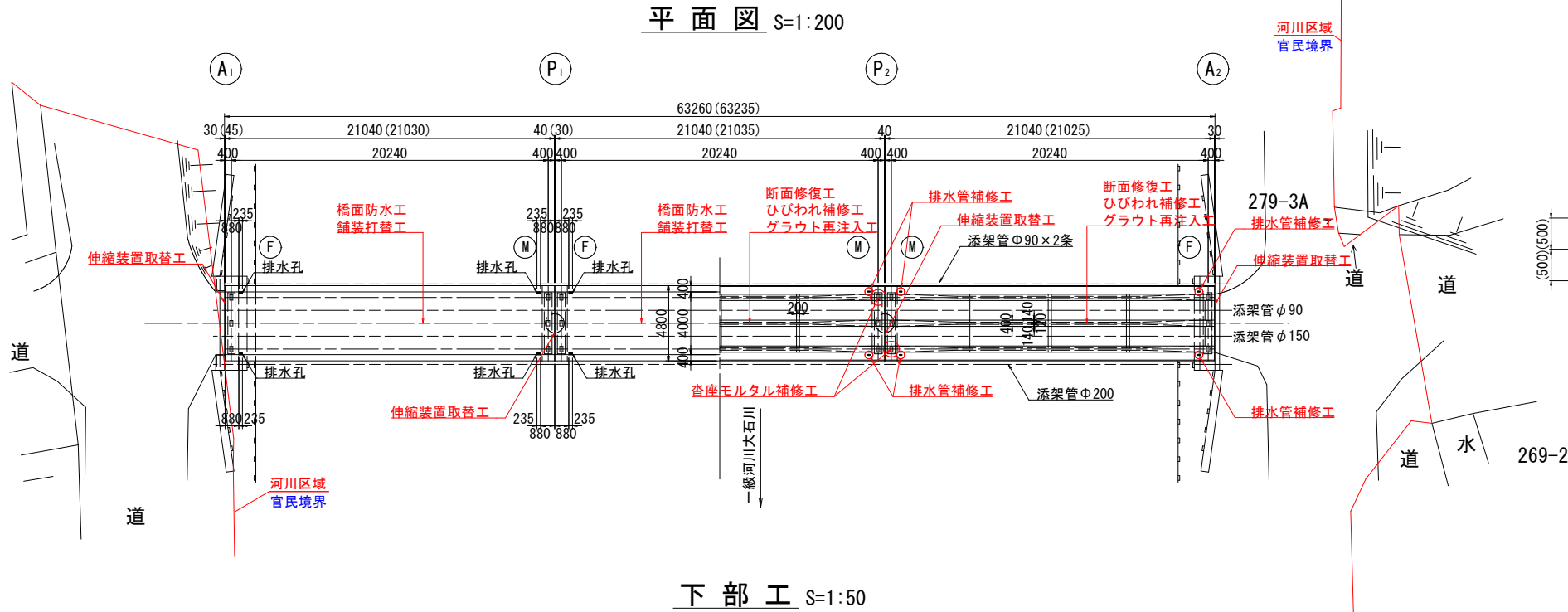
令和 6年度 工事番号	補第1号
村道 セツ谷郷51号線	関川 町 岩船 市 鮎谷 地内
鮎谷橋補修工事	
鮎谷橋 橋梁一般図	
縮 尺	図面全 23 葉の 1
測 量	令和 2 年 3 月 日 主 任 技 術 者
設 計	株式会社 キタック 令和 2 年 3 月 日 主 任 技 術 者 (門 口)
関 川 村	

鯨谷橋 補修対策一般図

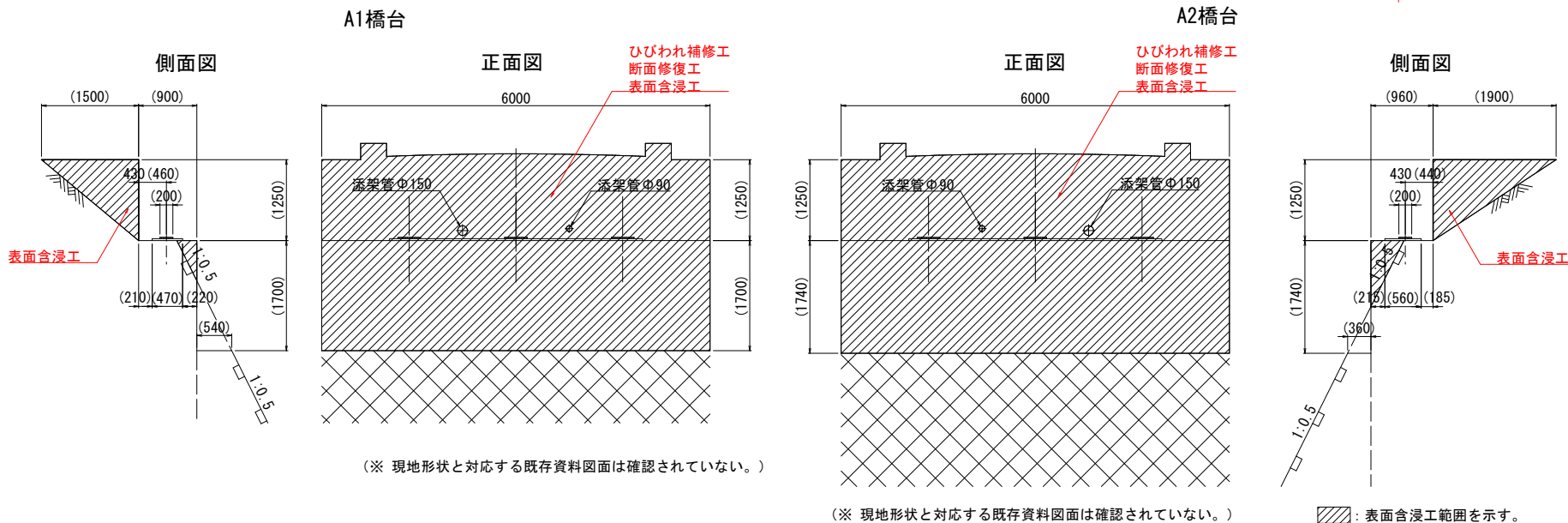
側面図 S=1:200



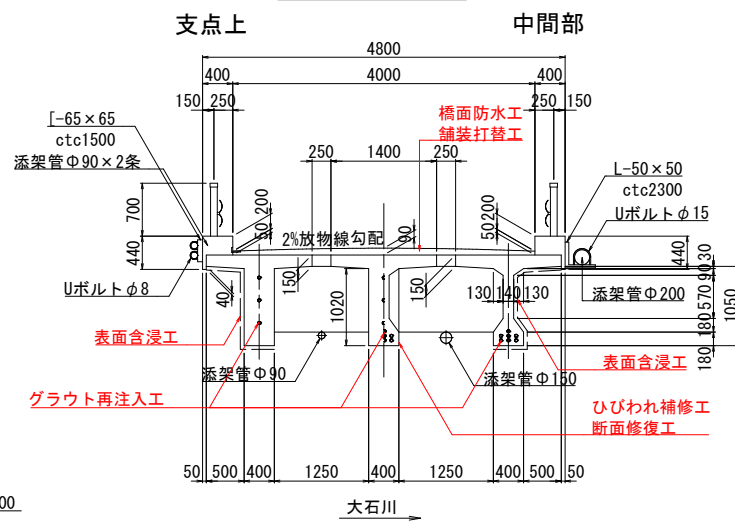
平面図 S=1:200



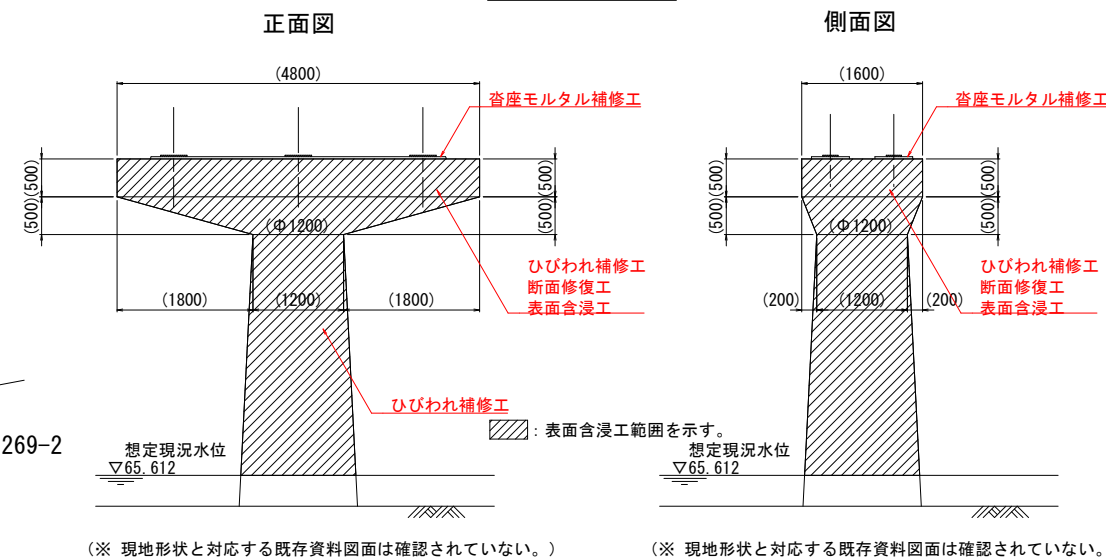
下部工 S=1:50



断面図 S=1:50



P1, P2橋脚 S=1:50



- 注記)
- 図面は、現地形状調査の結果及び既存図面、道路台帳図面より復元したものである。
 - カッコ（ ）内の数字は、現地形状調査の結果であり既存資料図面が確認できない若しくは異なる場合に記載している。
 - 支承の固定・可動条件(F：固定、M：可動)は、既存図面及び現地計測により判断した。
 - 図面中の河川区域・官民境界はH24年度国土調査結果を反映した集成図をもとに挿入したものである。

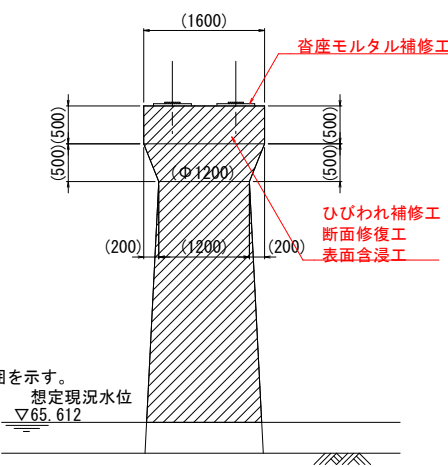
補修工数量表

位置	工 種	単位	第1径間	第2径間	第3径間	合 計
上部工	断面修復工(左官工法)	m2	1.1	0.8	1.2	3.1
"	ひびわれ補修工(注入工法)	m	24.0	7.6	30.9	62.5
"	表面含浸工	m2	85.3	85.3	85.3	255.9
"	グラウト再注入工	L	167.0	167.0	167.0	501.0
下部工	断面修復工(左官工法)	m2	0.3	2.5	0.3	3.1
"	ひびわれ補修工(注入工法)	m	1.0	34.3	37.2	72.5
"	表面含浸工	m2	17.7	35.4	54.4	107.5
"	沓座モルタル補修工	箇所	2	2	1	5
橋面	橋面防水工	m2	81.4	81.4	81.4	244.2
"	舗装撤去工	m2	84.2	84.2	84.2	252.6
"	舗装復旧工	m2	81.4	81.4	81.4	244.2
"	排水管補修工	箇所	4	4	4	12
"	伸縮装置取替工	m	4.2	4.2	8.4	16.8

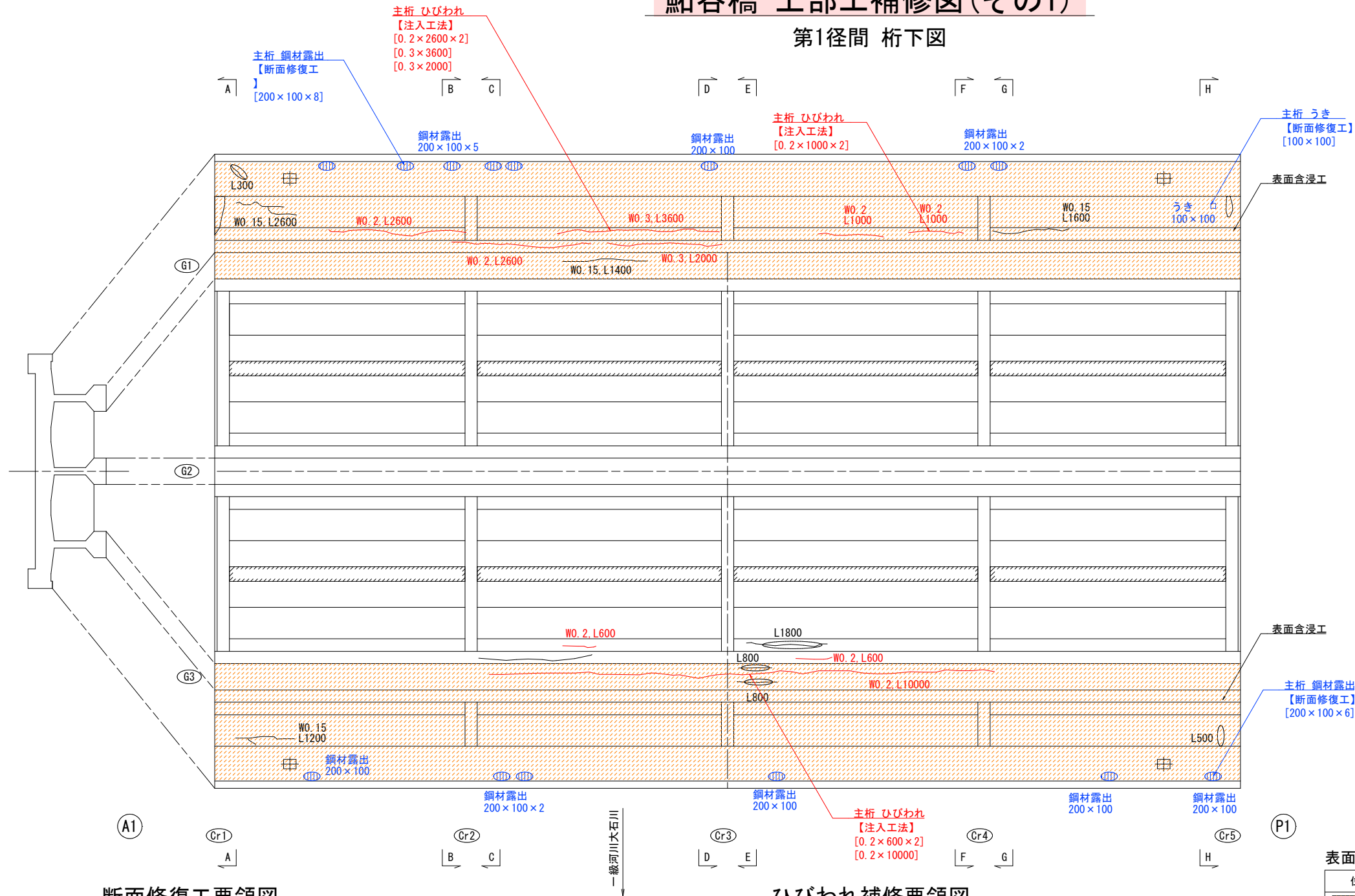
設計条件

橋 格	2等橋(TL-14)
路線名	関川村道 セケ谷郷51号線
交差物件	大石川
竣工年月	昭和44年3月
適用基準	上部工:S36年プレストレストコンクリート設計施工指針(推定) 下部工:S41年道路橋下部構造設計指針調査及び設計一般編(推定)
橋 長	63.2 m
桁 長	21.04 m
支間長	20.3 m
上部工形式	PCボス トテンションT型単純桁
下部工形式	橋台:RC控え壁式橋台 橋脚:張出式橋脚
幅員構成	0.400 + 4.000 + 0.400 = 4.800m
斜 角	90°
道路線形	R=∞
縦断勾配	1%未満
横断勾配	2%放物線
舗 装	コンクリート舗装 t=50~90mm

側面図



第1径間 桁下図

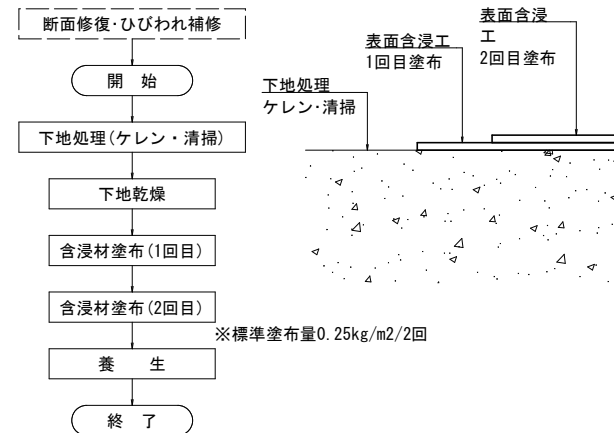


位置	幅(mm)	長さ(m)	箇所	延長(m)	補修工法
G1	0.20	2.60	2	5.20	注入工法
〃	0.30	3.60	1	3.60	〃
〃	0.30	2.00	1	2.00	〃
〃	0.20	1.00	2	2.00	〃
G3	0.20	0.60	2	1.20	〃
〃	0.20	10.00	1	10.00	〃
合 計				24.00	

位置	幅(m)	長さ(m)	箇所	面積(m2)	備考
G1	0.10	0.10	1	0.010	うき
〃	0.20	0.10	8	0.160	鋼材露出
G3	0.20	0.10	6	0.120	〃
合 計				0.290	

1. =

断面修復・ひびわれ補修

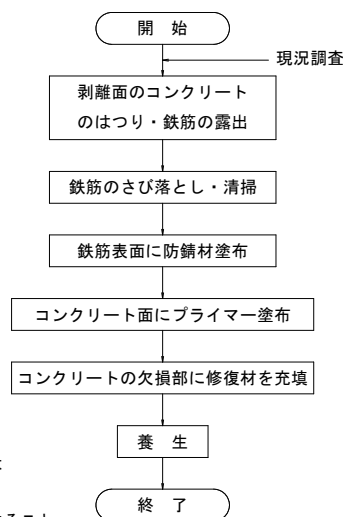


位置	面積 (m ²)	備考
 G1	42.644	
 G3	42.644	
合 計	85.288	

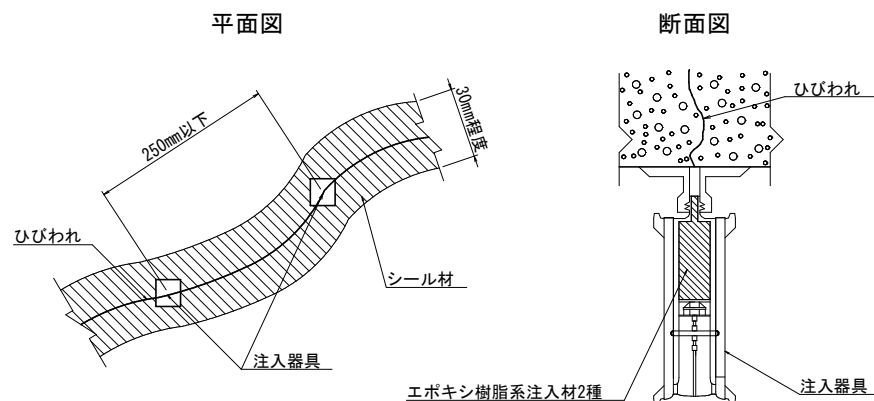
損傷の種類	表 示	損傷の種類	表 示
ひびわれ		う き	
剥 離		漏 水	
鉄筋露出		変形・欠損	
遊離石灰		そ の 他	

(剥離・鉄筋露出、うき)

開始

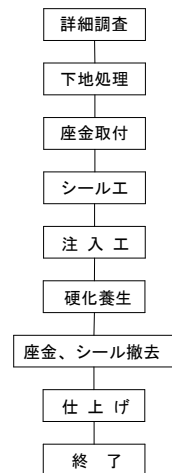


【注入工法詳細図】



注 1 下

詳細調査



注記)

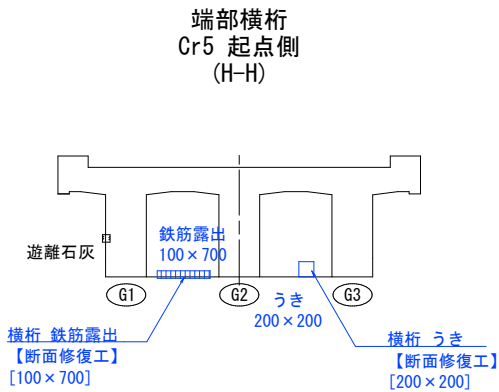
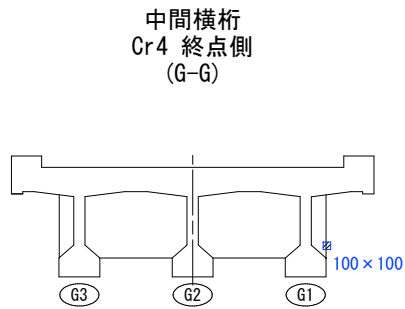
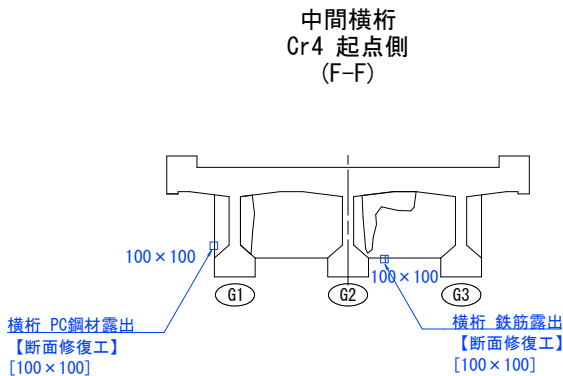
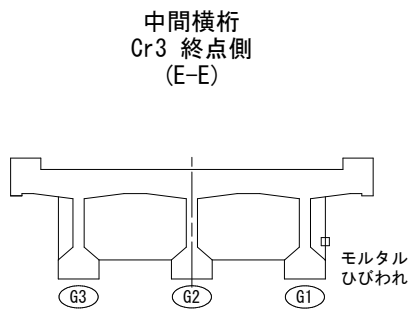
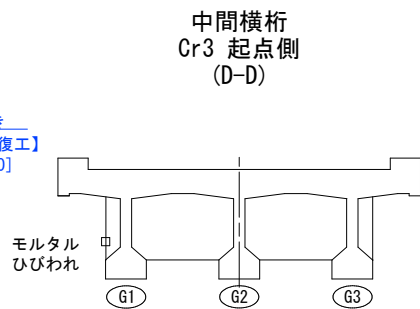
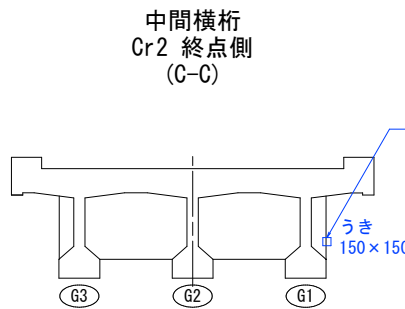
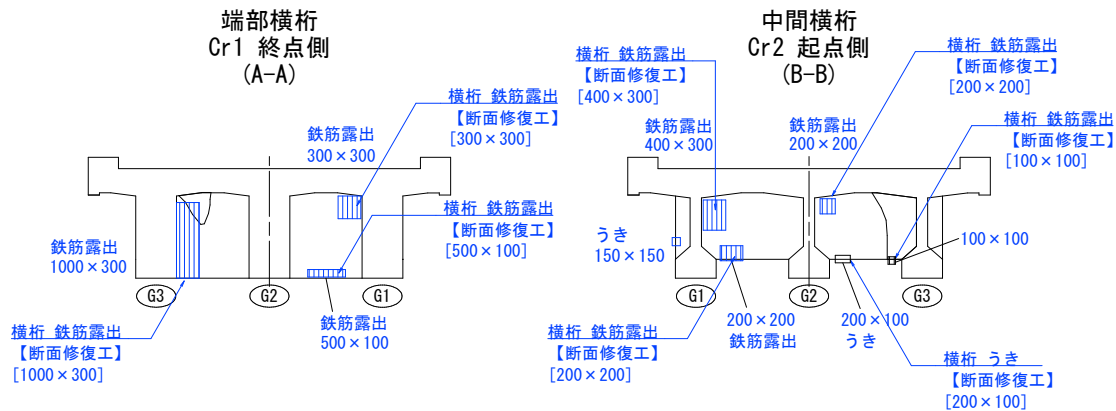
1. 本図面における桁下図は、路面からの透視図として作図したものである。
2. 断面修復およびひびわれの補修範囲は、近接目視や打音検査により損傷範囲を確認したうえで適切に見直しを行うこと。
3. 断面修復部のはつり深さは最外縁鉄筋の裏側までを標準とし、損傷状況に応じて適切に見直しを行うこと。
4. 既設コンクリートのはつりの際は、マイクログラックが生じないよう留意し、浮き石等を除去するとともにひびわれ等が確認された場合には別途補修を行うこと。また、既設鉄筋を切断しないこと。
5. はつり範囲に土灰等の異物混入が認められた場合はこれを除去のうえ、断面修復を行うこと。
6. 既設鉄筋の腐食が著しく、大きく断面欠損が生じている場合は監督員と協議のうえ別途補修を行うこと。
7. 既設鉄筋のかぶり厚不足箇所は増打ちにより鉄筋かぶりを確保すること。
8. 表面含浸工の施工前にはコンクリート表面の汚れや付着物をケレン・清掃により除去し、その後十分に乾燥させること。また、ジャンカや欠け、気泡が見られる場合は下地補修を行うこと。
9. 表面含浸材は、下地の状況により塗布回数や増やすなどにより、均質な塗膜が形成されるよう適宜調整すること。

※ 遊離石灰を伴う補修対象ひび割れは、表面の遊離石灰を除去して行うこととする。

- ※浮き・剥離が既設鉄筋に達し、かつ鉄筋に発錆が認められる場合には防錆処理を施すこと。
- ※断面修復範囲は、補修前に打音点検により浮きの範囲を確認し決定すること。
- ※鉄筋かぶり不足箇所は、増打ちにより鉄筋かぶりを確保すること。

鮎谷橋 上部工補修図(その2)

第1径間 横桁図



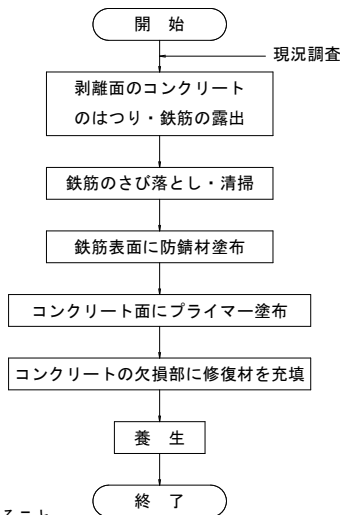
断面修復工数量表

位置	幅 (m)	長さ (m)	箇所	面積 (m2)	備考
Cr1	1.00	0.30	1	0.300	鉄筋露出
〃	0.30	0.30	1	0.090	〃
〃	0.50	0.10	1	0.050	〃
Cr2	0.40	0.30	1	0.120	〃
〃	0.20	0.20	1	0.040	〃
〃	0.20	0.20	1	0.040	〃
〃	0.10	0.10	1	0.010	〃
〃	0.20	0.10	1	0.020	うき
〃	0.15	0.15	1	0.023	〃
Cr4	0.10	0.10	1	0.010	鉄筋露出
〃	0.10	0.10	1	0.010	PC鋼材露出
Cr5	0.10	0.70	1	0.070	鉄筋露出
〃	0.20	0.20	1	0.040	うき
合 計				0.823	

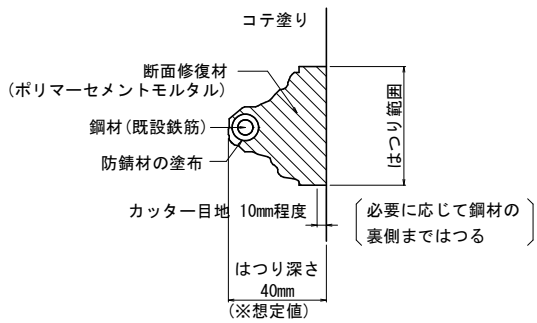
断面修復工要領図

(剥離・鉄筋露出、うき)

施 工 フ ロ ー



左官工法



- ※浮き・剥離が既設鉄筋に達し、かつ鉄筋に発錆が認められる場合には防錆処理を施すこと。
- ※断面修復範囲は、補修前に打音点検により浮きの範囲を確認し決定すること。
- ※鉄筋かぶり不足箇所は、増打ちにより鉄筋かぶりを確保すること。

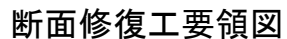
損傷の凡例

損傷の種類	表 示	損傷の種類	表 示
ひびわれ		う き	
剥 離		漏 水	
鉄筋露出		変形・欠損	
遊離石灰		そ の 他	

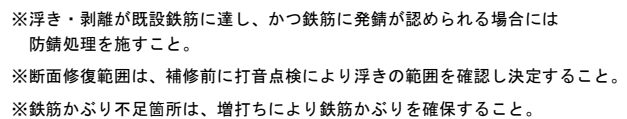
- 注記)
- 断面修復およびひびわれの補修範囲は、近接目視や打音検査により損傷範囲を確認したうえで適切に見直しを行うこと。
 - 断面修復部のはつり深さは最外縁鉄筋の裏側までを標準とし、損傷状況に応じて適切に見直しを行うこと。
 - 既設コンクリートはつりの際は、マイクロクラックが生じないよう留意し、浮き石等を除去するとともにひびわれ等が確認された場合には別途補修を行うこと。また、既設鉄筋を切断しないこと。
 - はつり範囲に木片等の異物混入が認められた場合はこれを除去のうえ、断面修復を行うこと。
 - 既設鉄筋の腐食が著しく、大きく断面欠損が生じている場合は監督員と協議のうえ別途補修を行うこと。
 - 既設鉄筋のかぶり厚不足箇所は増打ちにより鉄筋かぶりを確保すること。

令和 6年度 工事番号	補第1号
村道 七ヶ谷郷51号 筋 岩船 町 鮎谷 地内	
鮎谷橋補修工事	
鮎谷橋 上部工補修図(その2)	
縮 尺	図 示
測 量	令和 2 年 3 月 日
設 計	株式会社 キタック
関 川 村	

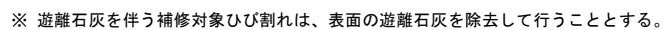
第2径間 桁下図



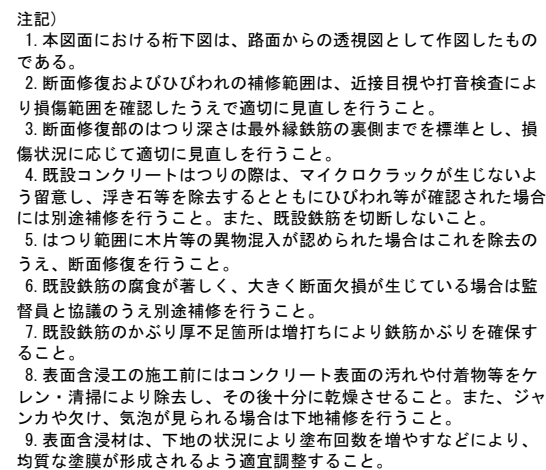
施工程序



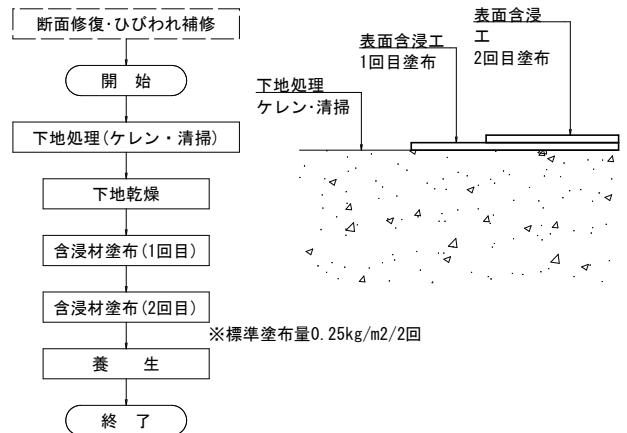
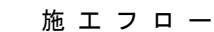
断面図



施 工 フ ロ ー



表面含浸工要領図



表面含浸工数量表

位置	面積 (m2)	備考
 G1	42.644	
 G3	42.644	
合 計	85.288	

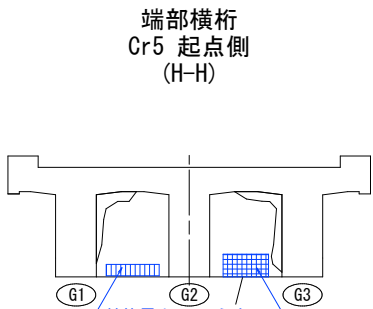
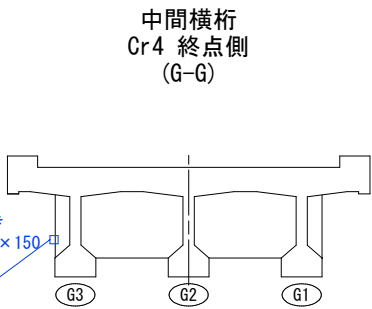
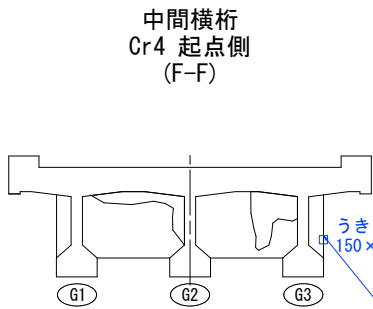
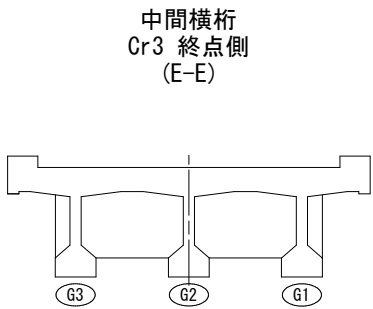
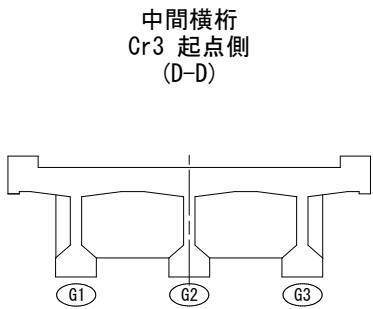
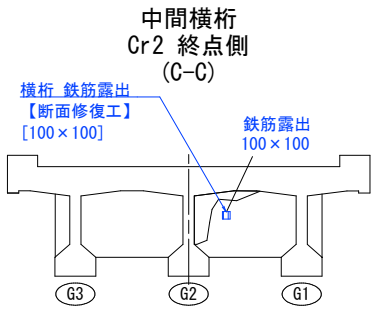
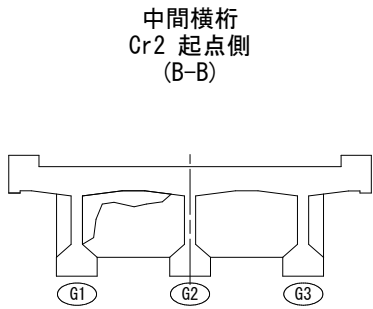
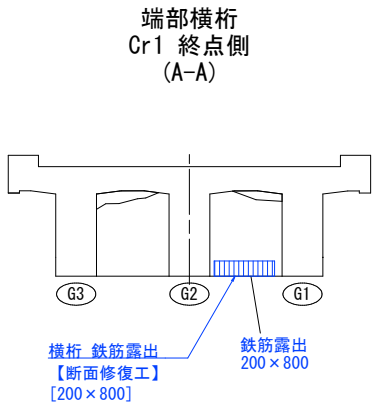
損傷の凡例

損傷の種類	表 示	損傷の種類	表 示
ひびわれ		う き	
剥 離		漏 水	
鉄筋露出		変形・欠損	
遊離石灰		そ の 他	

令和	6年度 工事番号	補第1号	
村道 七ヶ谷郷51号	(国) 岩船 筋 市	(県) 関川 町 (市)	飯谷 地内
飯谷橋補修工事			
飯谷橋 上部工補修図 (その3)			
縮 尺	図 示	図面全 23 葉の	5
測 量		令和 2年 3月 日	主 任 技 術 者
設 計	株式会社 キタック	令和 2年 3月 日	主 任 技 術 者 (門 口)
関 川 村			

鮎谷橋 上部工補修図(その4)

第2径間 横桁図



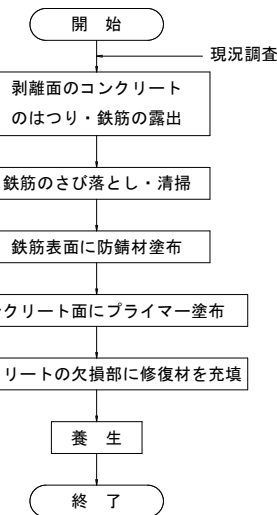
断面修復工数量表

位置	幅 (m)	長さ (m)	箇所	面積 (m2)	備考
Cr1	0.20	0.80	1	0.160	鉄筋露出
Cr2	0.10	0.10	1	0.010	〃
Cr4	0.15	0.15	1	0.023	うき
Cr5	0.70	0.15	1	0.105	鉄筋露出
〃	0.30	0.60	1	0.180	うき
合 計				0.478	

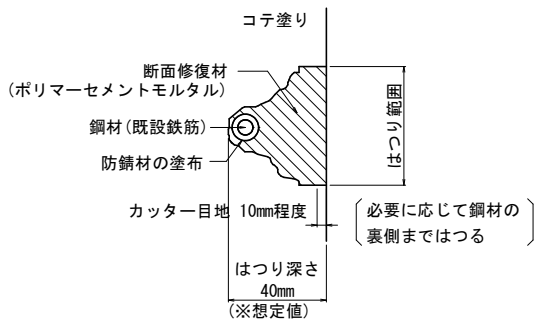
断面修復工要領図

(剥離・鉄筋露出、うき)

施エフロー



左官工法



- ※浮き・剥離が既設鉄筋に達し、かつ鉄筋に発錆が認められる場合には防錆処理を施すこと。
- ※断面修復範囲は、補修前に打音点検により浮きの範囲を確認し決定すること。
- ※鉄筋かぶり不足箇所は、増打ちにより鉄筋かぶりを確保すること。

損傷の凡例

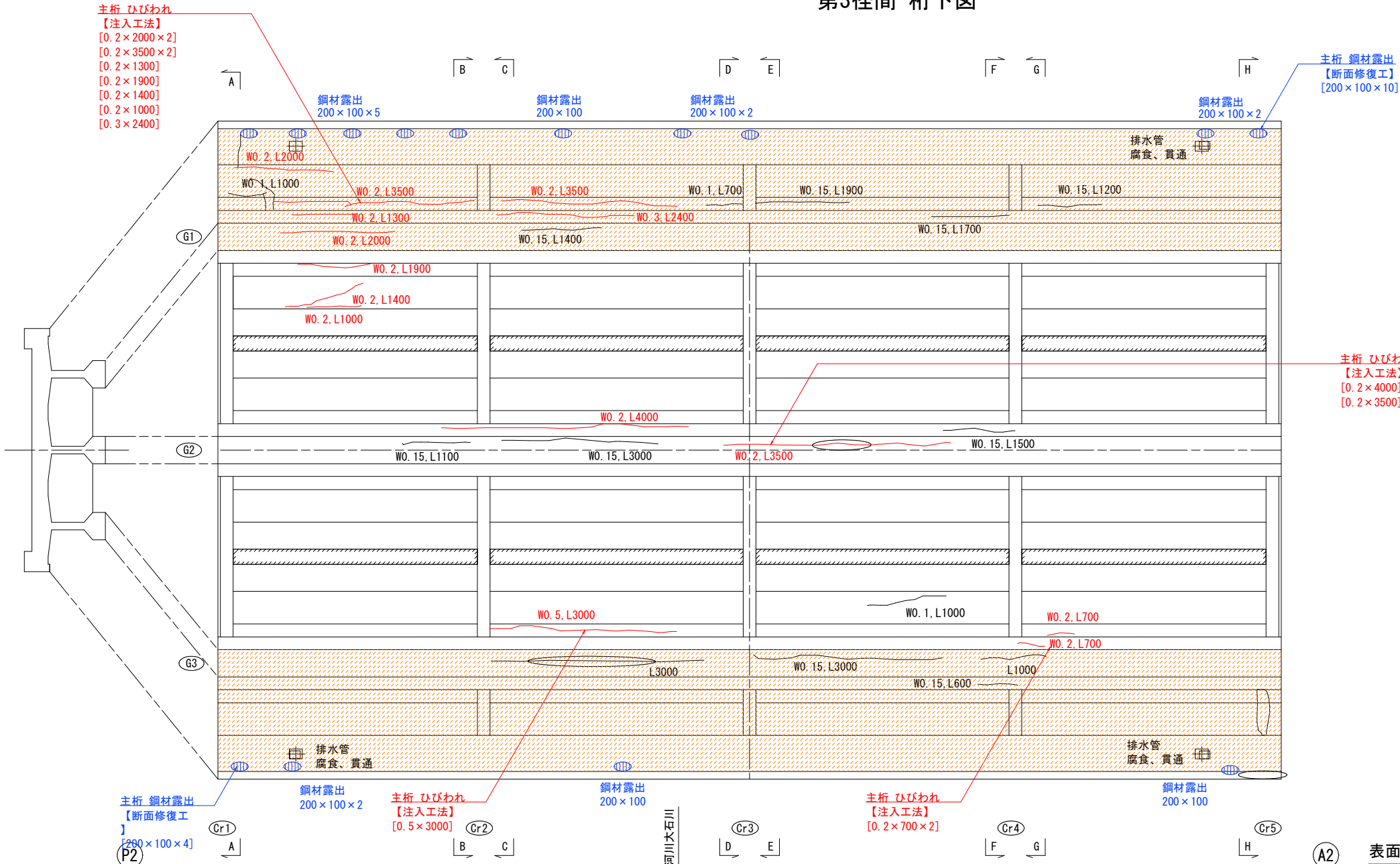
損傷の種類	表 示	損傷の種類	表 示
ひびわれ		う き	
剥 離		漏 水	
鉄筋露出		変形・欠損	
遊離石灰		そ の 他	

- 注記)
- 断面修復およびひびわれの補修範囲は、近接目視や打音検査により損傷範囲を確認したうえで適切に見直しを行うこと。
 - 断面修復部のはつり深さは最外縁鉄筋の裏側までを標準とし、損傷状況に応じて適切に見直しを行うこと。
 - 既設コンクリートはつりの際は、マイクログラックが生じないよう留意し、浮き石等を除去するとともにひびわれ等が確認された場合には別途補修を行うこと。また、既設鉄筋を切断しないこと。
 - はつり範囲に木片等の異物混入が認められた場合はこれを除去のうえ、断面修復を行うこと。
 - 既設鉄筋の腐食が著しく、大きく断面欠損が生じている場合は監督員と協議のうえ別途補修を行うこと。
 - 既設鉄筋のかぶり厚不足箇所は増打ちにより鉄筋かぶりを確保すること。

令和 6年度 工事番号	補第1号
村道 七ヶ谷郷51号 筋 岩船 市 関川 町 鮎谷 地内	
鮎谷橋補修工事	
鮎谷橋 上部工補修図(その4)	
縮 尺	図 示
測 量	令和 2 年 3 月 日 主 任 技 術 者
設 計	株式会社 キタック 令和 2 年 3 月 日 主 任 技 術 者 (門 印)
関 川 村	

鮎谷橋 上部工補修図(その5)

第3径間 桁下図



ひびわれ補修数量表

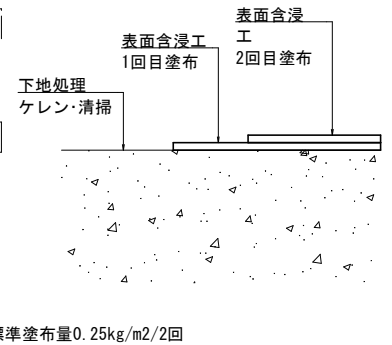
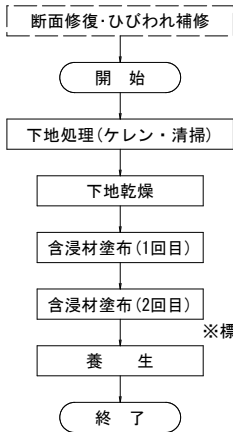
位置	幅(mm)	長さ(m)	箇所	延長(m)	補修工法
G1	0.20	2.00	2	4.00	注入工法
"	0.20	3.50	2	7.00	"
"	0.20	1.30	1	1.30	"
"	0.20	1.90	1	1.90	"
"	0.20	1.40	1	1.40	"
"	0.20	1.00	1	1.00	"
"	0.30	2.40	1	2.40	"
G2	0.20	4.00	1	4.00	"
"	0.20	3.50	1	3.50	"
G3	0.50	3.00	1	3.00	"
"	0.20	0.70	2	1.40	"
合 計				30.90	

断面修復工数量表

位置	幅(m)	長さ(m)	箇所	面積(m2)	備考
G1	0.20	0.10	10	0.200	鋼材露出
G3	0.20	0.10	4	0.080	"
合 計				0.280	

表面含浸工要領図

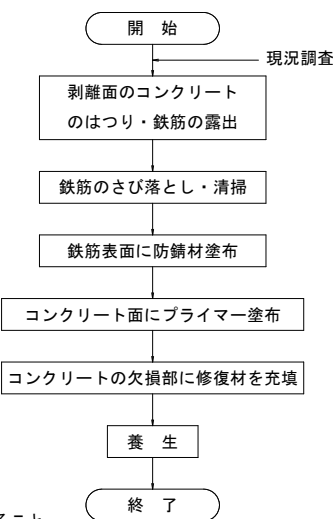
施 工 フ ロ ー



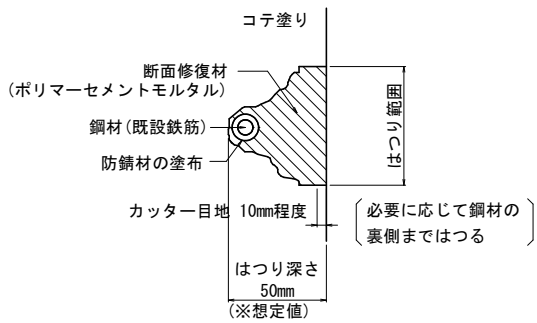
断面修復工要領図

(剥離・鉄筋露出、うき)

施 工 フ ロ ー



左官工法

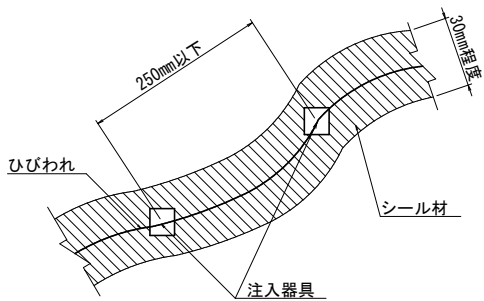


- ※浮き・剥離が既設鉄筋に達し、かつ鉄筋に発錆が認められる場合には防錆処理を施すこと。
- ※断面修復範囲は、補修前に打音点検により浮きの範囲を確認し決定すること。
- ※鉄筋かぶり不足箇所は、増打ちにより鉄筋かぶりを確保すること。

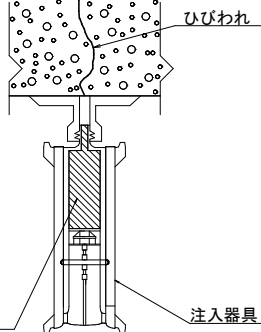
ひびわれ補修要領図

【注入工法詳細図】
(ひびわれ幅0.2mm~1.0mm)

平面図



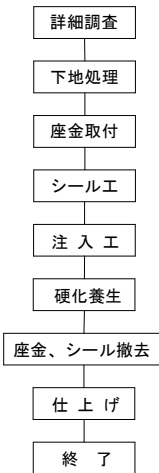
断面図



※ 遊離石灰を伴う補修対象ひび割れは、表面の遊離石灰を除去して行うこととする。

施 工 フ ロ ー

注 入 工



表面含浸工数量表

位置	面積(m2)	備考
G1	42.644	
G3	42.644	
合 計	85.288	

- 注記)
1. 本図面における桁下図は、路面からの透視図として作図したものである。
 2. 断面修復およびひびわれの補修範囲は、近接目視や打音検査により損傷範囲を確認したうえで適切に見直しを行うこと。
 3. 断面修復部のはつり深さは最外縁鉄筋の裏側までを標準とし、損傷状況に応じて適切に見直しを行うこと。
 4. 既設コンクリートのはつりの際には、マイクログラックが生じないように留意し、浮き石等を除去するとともにひびわれ等が確認された場合には別途補修を行うこと。また、既設鉄筋を切断しないこと。
 5. はつり範囲に木片等の異物混入が認められた場合はこれを除去のうえ、断面修復を行うこと。
 6. 既設鉄筋の腐食が著しく、大きく断面欠損が生じている場合は監督員と協議のうえ別途補修を行うこと。
 7. 既設鉄筋のかぶり厚不足箇所は増打ちにより鉄筋かぶりを確保すること。
 8. 表面含浸工の施工前にはコンクリート表面の汚れや付着物をケレン・清掃により除去し、その後十分に乾燥させること。また、ジャンカや欠け、気泡が見られる場合は下地補修を行うこと。
 9. 表面含浸材は、下地の状況により塗布回数を増やすなどにより、均質な塗膜が形成されるよう適宜調整すること。

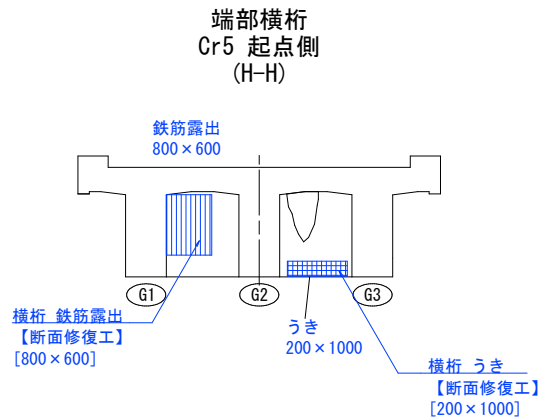
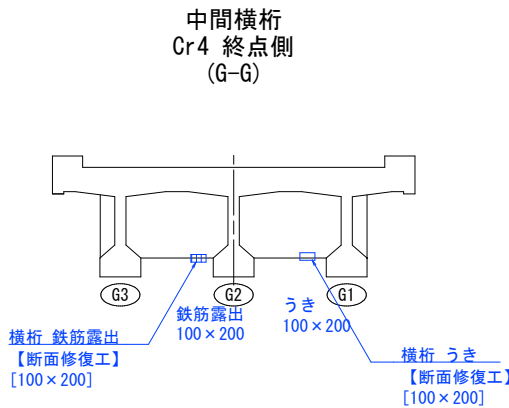
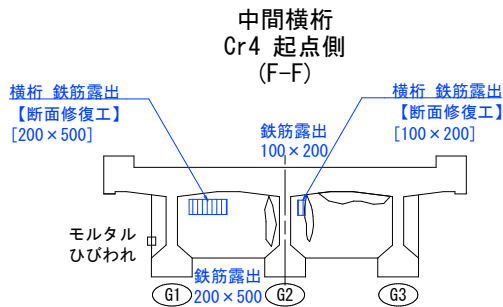
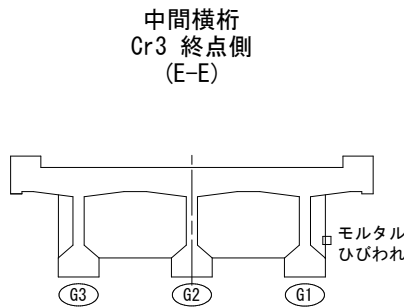
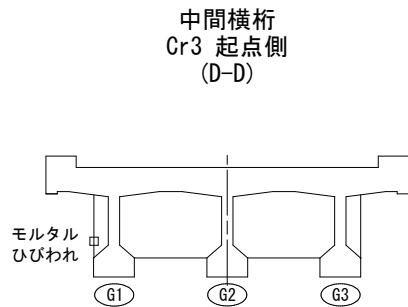
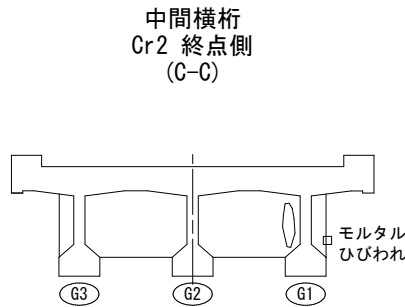
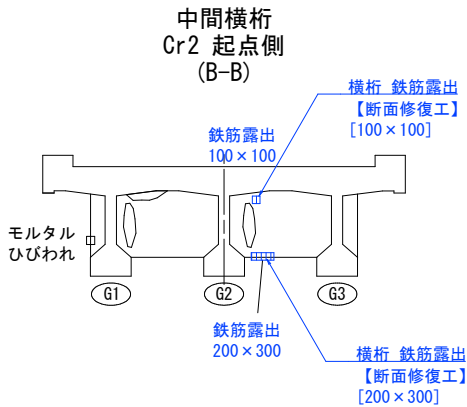
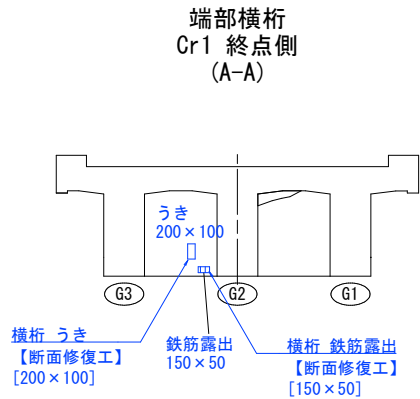
損傷の凡例

損傷の種類	表 示	損傷の種類	表 示
ひびわれ		うき	
剥離		漏水	
鉄筋露出		変形・欠損	
遊離石灰		その他	

令和 6年度 工事番号		補第1号	
村道	七ヶ谷郷51号	橋 梁	鮎谷 地内
鮎谷橋補修工事			
鮎谷橋 上部工補修図(その5)			
縮 尺	図 示	図面全 23 葉の 7	
測 量		令和 2 年 3 月 日	主 任 技 術 者
設 計	株式会社 キタック	令和 2 年 3 月 日	主 任 技 術 者
関 川 村			

鮎谷橋 上部工補修図(その6)

第3径間 横桁図



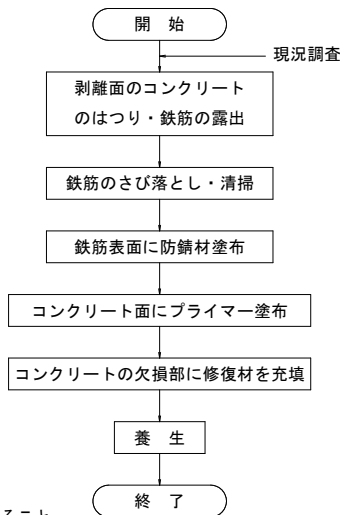
断面修復工数量表

位置	幅 (m)	長さ (m)	箇所	面積 (m2)	備考
Cr1	0.20	0.10	1	0.020	うき
"	0.15	0.05	1	0.008	鉄筋露出
Cr2	0.10	0.10	1	0.010	"
"	0.20	0.30	1	0.060	"
Cr4	0.20	0.50	1	0.100	"
"	0.10	0.20	1	0.020	"
"	0.10	0.20	1	0.020	"
"	0.10	0.20	1	0.020	うき
Cr5	0.80	0.60	1	0.480	鉄筋露出
"	0.20	1.00	1	0.200	うき
合 計				0.938	

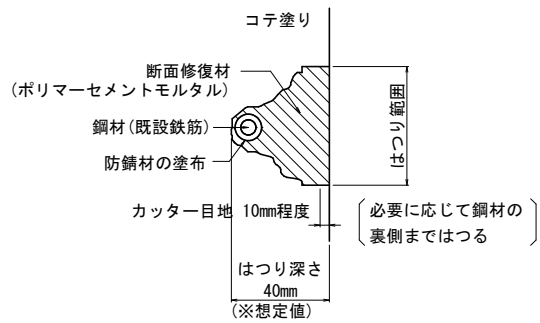
断面修復工要領図

(剥離・鉄筋露出、うき)

施 工 フ ロ ー



左官工法



- ※浮き・剥離が既設鉄筋に達し、かつ鉄筋に発錆が認められる場合には防錆処理を施すこと。
- ※断面修復範囲は、補修前に打音点検により浮きの範囲を確認し決定すること。
- ※鉄筋かぶり不足箇所は、増打ちにより鉄筋かぶりを確保すること。

損傷の凡例

損傷の種類	表 示	損傷の種類	表 示
ひびわれ		う き	
剥 離		漏 水	
鉄筋露出		変形・欠損	
遊離石灰		そ の 他	

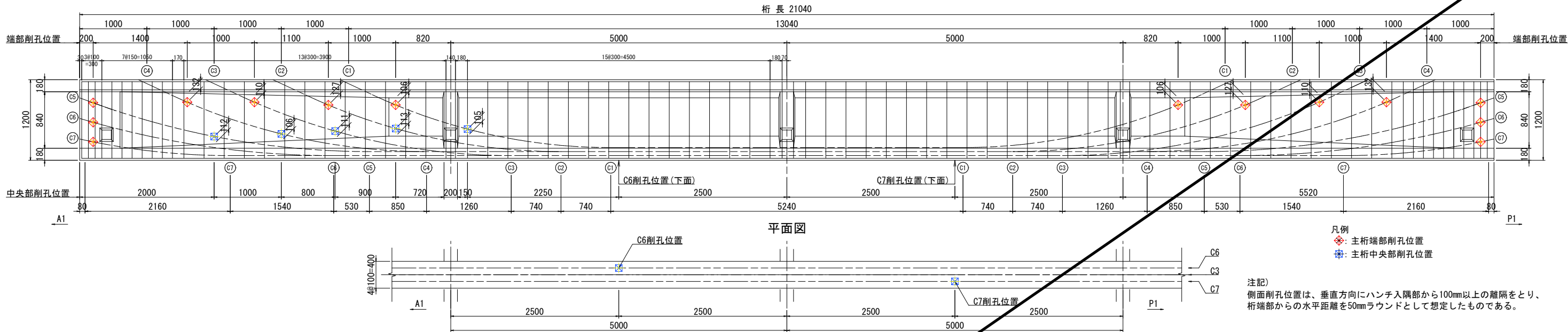
注記)

- 断面修復およびひびわれの補修範囲は、近接目視や打音検査により損傷範囲を確認したうえで適切に見直しを行うこと。
- 断面修復部のはつり深さは最外縁鉄筋の裏側までを標準とし、損傷状況に応じて適切に見直しを行うこと。
- 既設コンクリートはつりの際は、マイクログラックが生じないように留意し、浮き石等を除去するとともにひびわれ等が確認された場合には別途補修を行うこと。また、既設鉄筋を切断しないこと。
- はつり範囲に木片等の異物混入が認められた場合はこれを除去のうえ、断面修復を行うこと。
- 既設鉄筋の腐食が著しく、大きく断面欠損が生じている場合は監督員と協議のうえ別途補修を行うこと。
- 既設鉄筋のかぶり厚不足箇所は増打ちにより鉄筋かぶりを確保すること。

令和 6年度 工事番号		補第1号	
村道 七ヶ谷郷51号		鮎谷 地内	
鮎谷橋補修工事			
鮎谷橋 上部工補修図(その6)			
縮 尺	図 示	図面全 23 葉の 8	
測 量		令和 2 年 3 月 日	主 任 技 術 者
設 計	株式会社 キタック	令和 2 年 3 月 日	主 任 技 術 者
関 川 村			

鯨谷橋 PCグラウト再注入工詳細図(その1)

主桁側面 削孔位置図 S=1:30

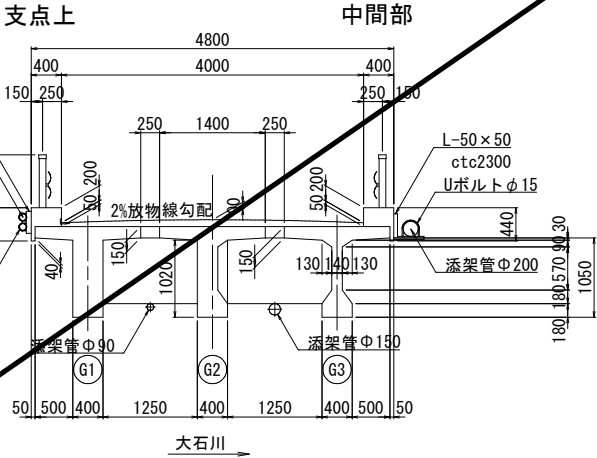
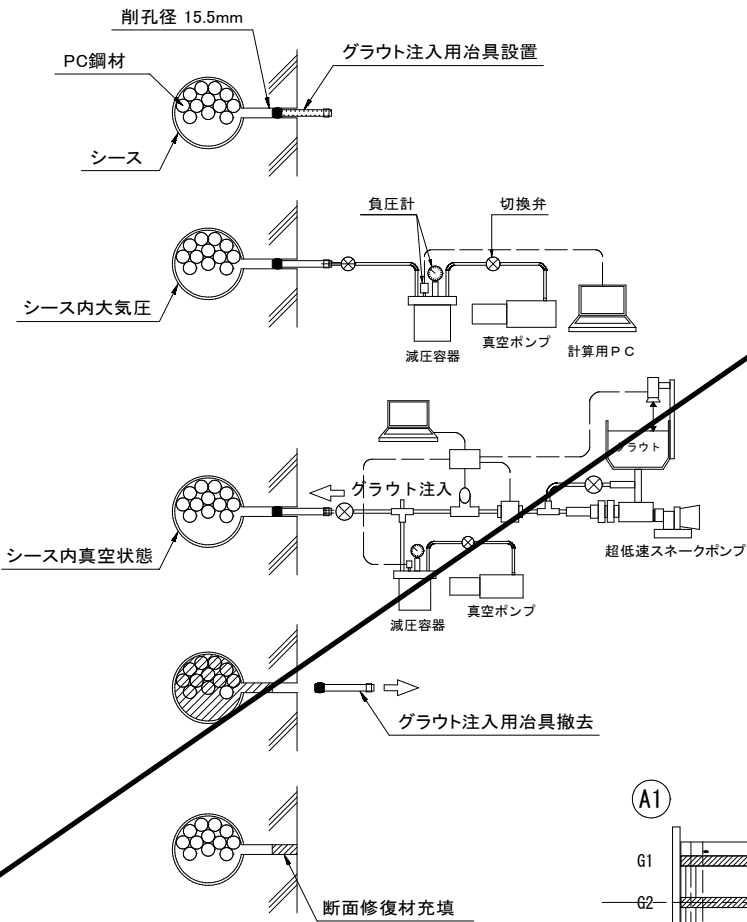
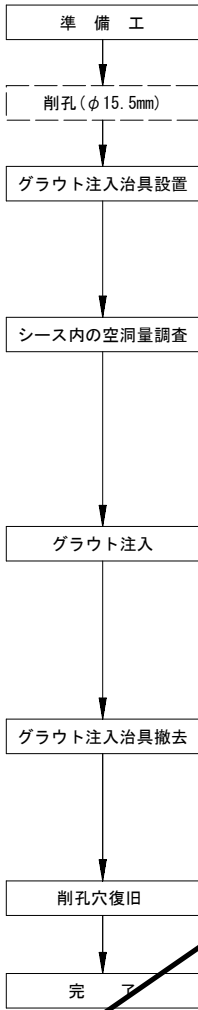


PCグラウト再注入工施工要領図

断面図 S=1:50

PCケーブル位置 S=1:20

施工フロー



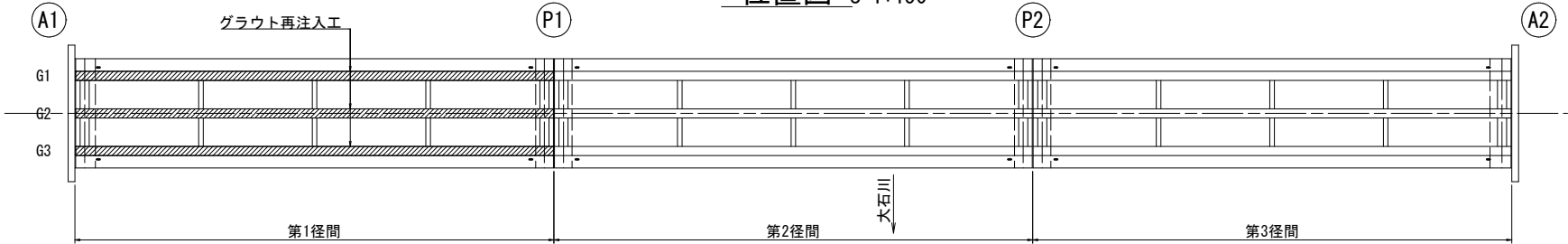
※本平面図は橋面からの見下ろし図として作図したものである。

グラウト再注入数量表

ケーブル番号	グラウト再注入量 (L)※1	延長 (m)	シース管断面積-PCケーブル 断面積(12本)(mm ²)	シース管内径 (mm)	PCケーブル内径 (mm)	グラウト未充填 割合(%)
C1	5.81	13.33	726.5	35.0	5.0	60 (想定)
C2	6.76	15.50				
C3	7.51	17.24				
C4	8.43	19.34				
C5	9.10	20.88				
C6	9.05	20.77				
C7	9.01	20.67				
桁1本当たり	55.67	127.73				
1径間当り計	167.01	383.19				

※1グラウト再注入量はロス率を含まない値である。

位置図 S=1:150

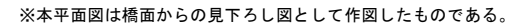


- 注記)
1. PCケーブル、鉄筋位置は既存図面資料による推定である。
 2. 本工事は橋面防水工、主桁補修工（ひびわれ補修工、断面修復工）完了後の施工とすること。
 3. 本図は全主桁の全ケーブルに対して全数再注入を行うことを想定した図面である。実際の施工にあたっては、充填不良部の全数調査を行い、再注入数量および施工方法を適切に見直すこと。
 4. 再注入を行うための削孔は、1ケーブル当り3箇所（両端部1箇所、中央部1箇所）を標準として想定したものである。その位置および箇所数は鉄筋調査、充填不良部の調査結果に基づいて監督員と協議のうえ決定すること。
 5. 側面削孔位置は、垂直方向にハンチ入隅部から100mm以上の離隔をとり、桁端部からの水平距離を50mmラウンドとして想定したものである。
 6. 削孔にあたっては既設鉄筋及びPCケーブルに損傷を与えないよう留意すること。
 7. グラウトの再注入方法は、現地状況および調査結果に応じて適宜見直しを行うこと。

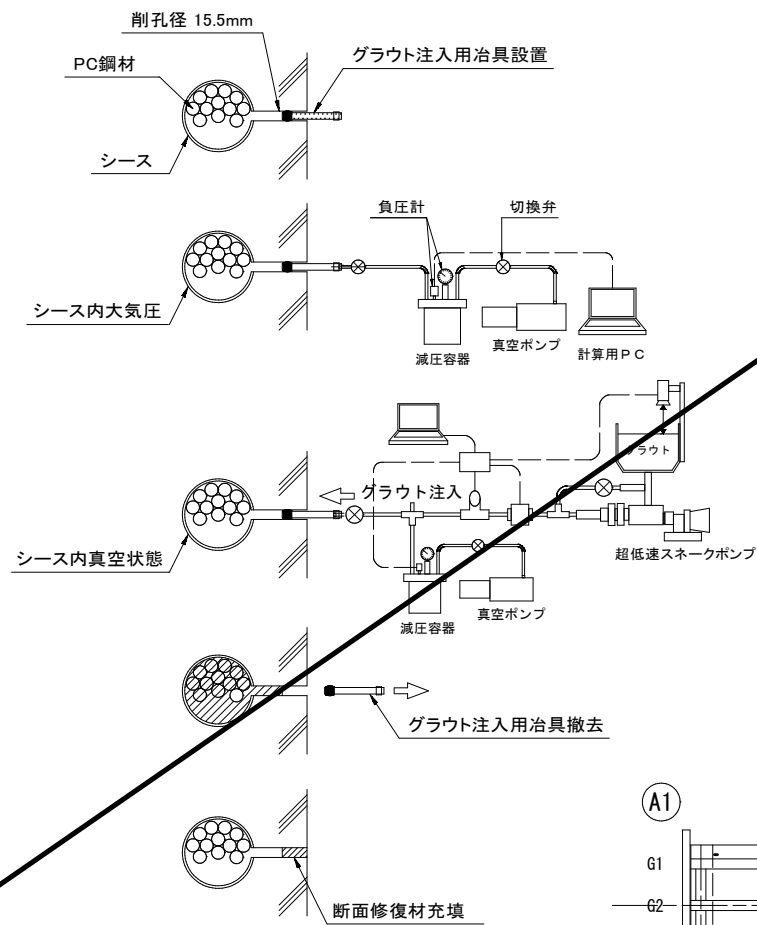
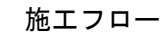
令和 6年度 工事番号		補第1号	
村道 七ヶ谷郷51号	筋	鯨谷 町 関川 市	鯨谷 町 関川 市
鯨谷橋補修工事			
鯨谷橋 PCグラウト再注入工詳細図(その1)			
縮尺	図 示	図面全 23 葉の 9	
測 量		令和 2 年 3 月 日	主 任 技 術 者
設 計	株式会社 キタック	令和 2 年 3 月 日	主 任 技 術 者
関 川 村			

注) [] は、グラウト充填調査時施工。
注) 調査孔を利用する場合はφ15.5mm以外の削孔径となる場合もある。

主桁側面 削孔位置図 S=1:30

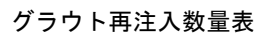


断面図 S=1:50



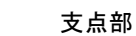
注) は、グラウト充填調査時施工。

注) 調査孔を利用する場合はφ15.5mm以外の削孔径となる場合もある。



ケーブル番号	グラウト再注入量 (L)※1	延長 (m)	シース管断面積－PCケーブル 断面積 (12本) (mm ²)	シース管内径 (mm)	PCケーブル内径 (mm)	グラウト未充填 割合 (%)
C1	5.81	13.33	726.5	35.0	5.0	60 (想定)
C2	6.76	15.50				
C3	7.51	17.24				
C4	8.43	19.34				
C5	9.10	20.88				
C6	9.05	20.77				
C7	9.01	20.67				
桁1本当り	55.67	127.73				
1径間当り計	167.01	383.19	－	－	－	－

※1グラウト再注入量はロス率を含まない値である。



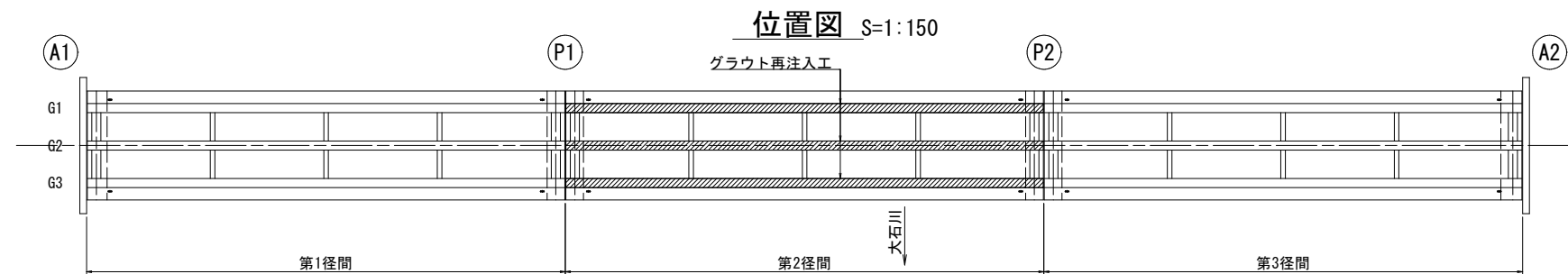
支点部：C5～C7(3本)

中間部

中間部：C1～C7(7本)

(注記)

1. PCケーブル、鉄筋位置は既存図面資料による推定である。
2. 本工事は橋面防水工、主桁補修工（ひびわれ補修工、断面修復工）完了後の施工とすること。
3. 本図は全主桁の全ケーブルに對して全数再注入を行うことを想定した図面である。実際の施工にあたっては、充填不良部の全数調査を行い、再注入数量および施工方法を適切に見直すこと。
4. 再注入を行うための削孔は、1ケーブル当り3箇所（両端部1箇所、中央部1箇所）を標準として想定したものである。その位置および箇所数は鉄筋探査、充填不良部の調査結果に基づいて監督員と協議のうえ決定すること。
5. 側面削孔位置は、垂直方向にハンチ入部から100mm以上の離隔をとり、桁端部からの水平距離を50mmラウンドとして想定したものである。
6. 削孔にあたっては既設鉄筋及びPCケーブルに損傷を与えないよう留意すること。
7. 削孔の再注入方法は、現地状況および調査結果に応じて適宜見直しを行うこと。

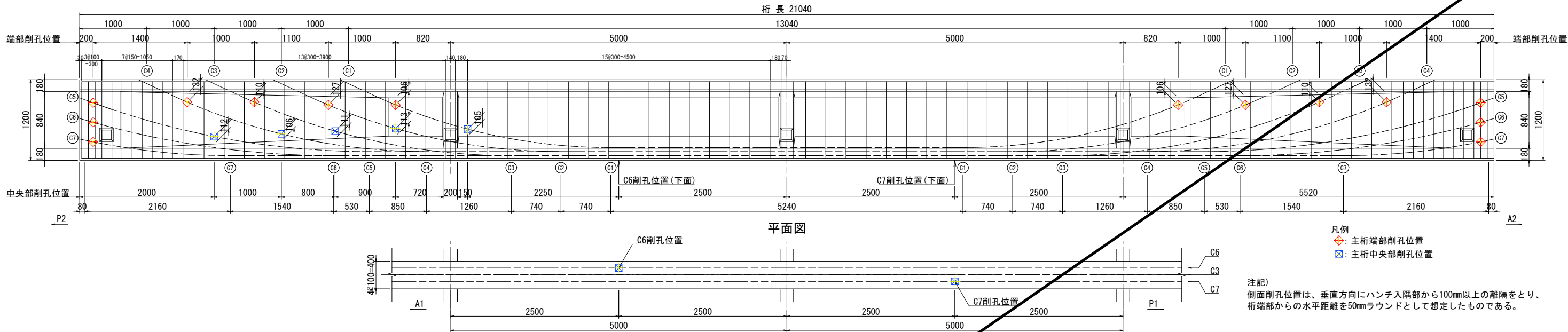


位置図 S=1:150

令和 6年度 工事番号		補第1号	
村道 七ヶ谷郷51号	  岩船 関 町 筋 市 (村)	砥谷	地内
砥谷橋補修工事			
砥谷橋 PCグラウト再注入工詳細図(その2)			
縮 尺	図 示	図面全 23 葉の 10	
測 量		令和 2 年 3 月 日	主 任 技 術 者
設 計	株式会社 キタツク	令和 2 年 3 月 日	主 任 技 術 者
			
関 川 村			

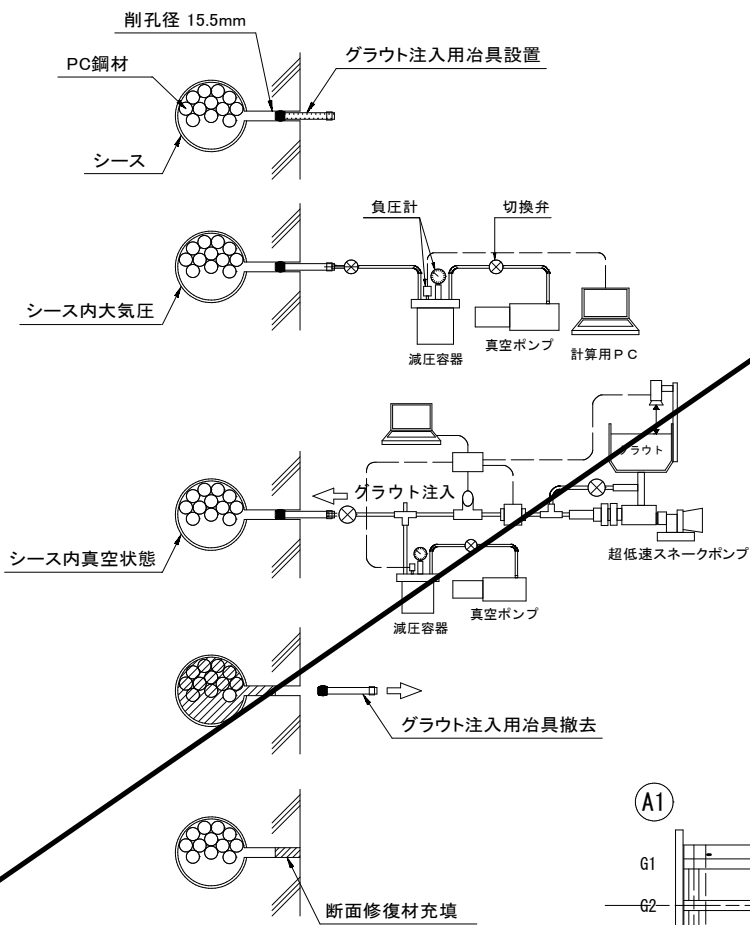
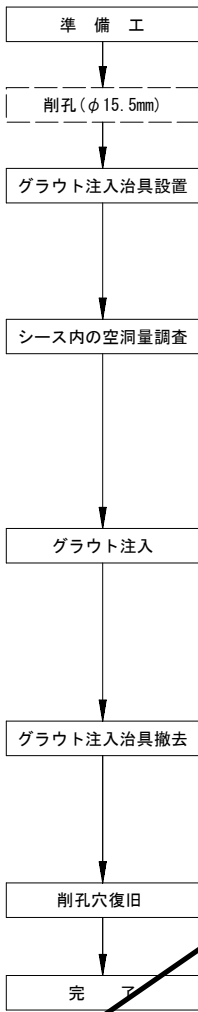
鯨谷橋 PCグラウト再注入工詳細図(その3)

主桁側面 削孔位置図 S=1:30

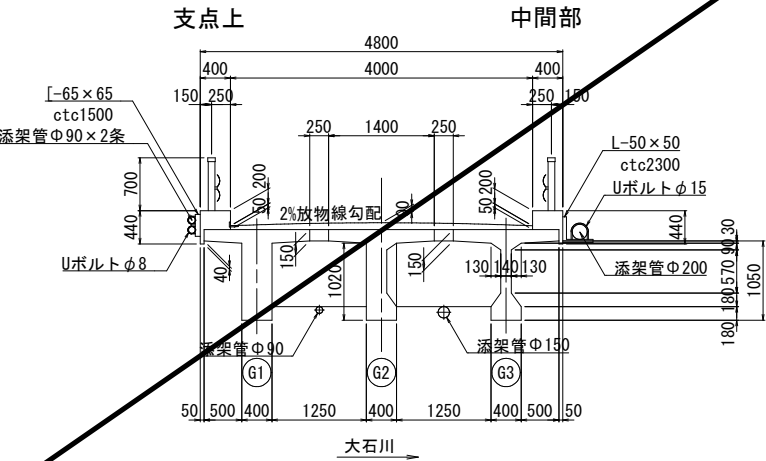


PCグラウト再注入工施工要領図

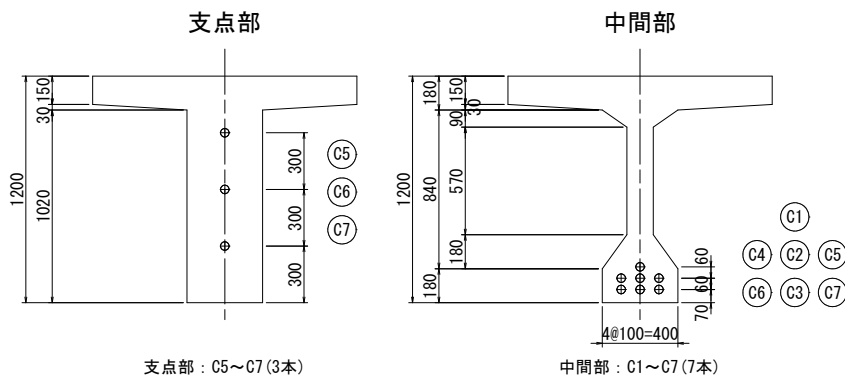
施工フロー



断面図 S=1:50



PCケーブル位置 S=1:20

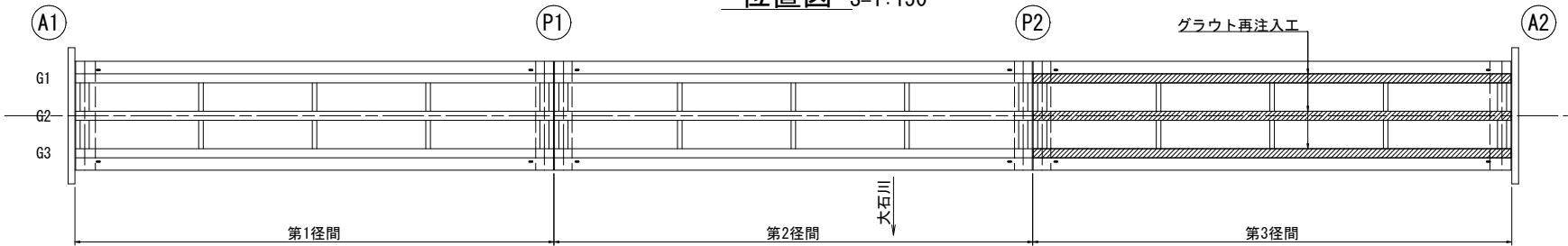


グラウト再注入数量表

ケーブル番号	グラウト再注入量 (L)※1	延長 (m)	シース管断面積-PCケーブル 断面積(12本)(mm ²)	シース管内径 (mm)	PCケーブル内径 (mm)	グラウト未充填 割合(%)
C1	5.81	13.33	726.5	35.0	5.0	60 (想定)
C2	6.76	15.50				
C3	7.51	17.24				
C4	8.43	19.34				
C5	9.10	20.88				
C6	9.05	20.77				
C7	9.01	20.67				
桁1本当たり	55.67	127.73				
1径間当り計	167.01	383.19				

※1グラウト再注入量はロス率を含まない値である。

位置図 S=1:150



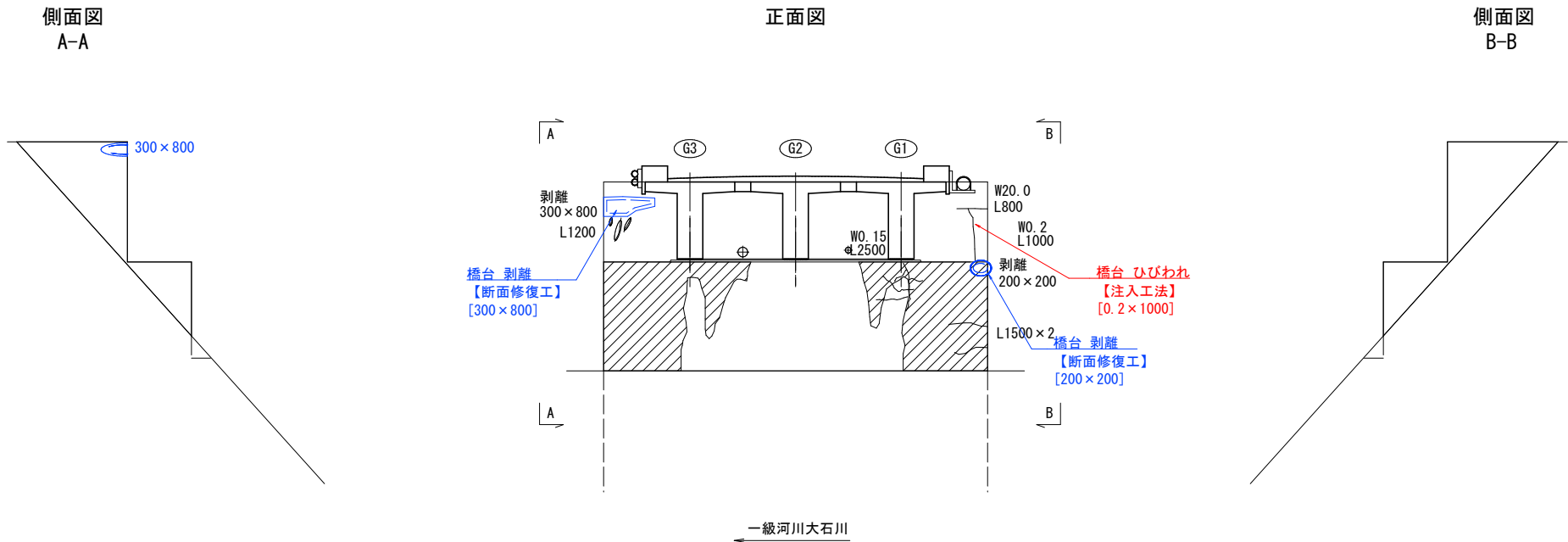
- 注記)
1. PCケーブル、鉄筋位置は既存図面資料による推定である。
 2. 本工事は橋面防水工、主桁補修工（ひびわれ補修工、断面修復工）完了後の施工とすること。
 3. 本図は全主桁の全ケーブルに対して全数再注入を行うことを想定した図面である。実際の施工にあたっては、充填不良部の全数調査を行い、再注入数量および施工方法を適切に見直すこと。
 4. 再注入を行うための削孔は、1ケーブル当り3箇所（両端部1箇所、中央部1箇所）を標準として想定したものである。その位置および箇所数は鉄筋調査、充填不良部の調査結果に基づいて監督員と協議のうえ決定すること。
 5. 側面削孔位置は、垂直方向にハンチ入隅部から100mm以上の離隔をとり、桁端部からの水平距離を50mmラウンドとして想定したものである。
 6. 削孔にあたっては既設鉄筋及びPCケーブルに損傷を与えないよう留意すること。
 7. グラウトの再注入方法は、現地状況および調査結果に応じて適宜見直しを行うこと。

令和 6年度 工事番号	補第1号
村道 七ヶ谷郷51号 筋 鯨谷 町 鯨谷 地内	
鯨谷橋補修工事	
鯨谷橋 PCグラウト再注入工詳細図(その3)	
縮尺	図面全 23 葉の 11
測量	令和 2 年 3 月 日 主 任 技 術 者
設計	株式会社 キタック 令和 2 年 3 月 日 主 任 技 術 者 (印)
関 川 村	

注) [] は、グラウト充填調査時施工。
注) 調査孔を利用する場合はφ15.5mm以外の削孔径となる場合もある。

鮎谷橋 下部工補修図(その1)

A1橋台



ひびわれ補修数量表

位置	幅 (mm)	長さ (m)	箇所	延長 (m)	補修工法
A1橋台	0.20	1.00	1	1.00	注入工法
合 計				1.00	

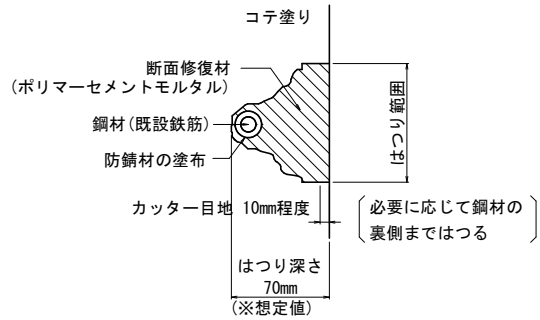
断面修復工数量表

位置	幅 (m)	長さ (m)	箇所	面積 (m2)	備考
A1橋台	0.30	0.80	1	0.240	剥離
〃	0.20	0.20	1	0.040	〃
合 計				0.280	

断面修復工要領図

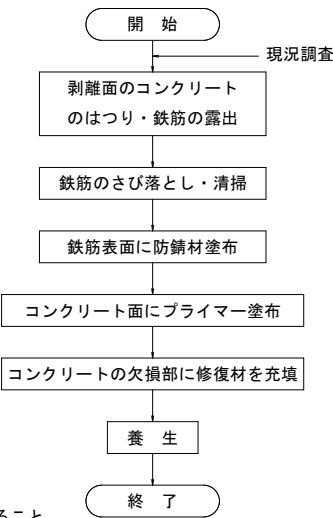
(剥離・鉄筋露出、うき)

左官工法



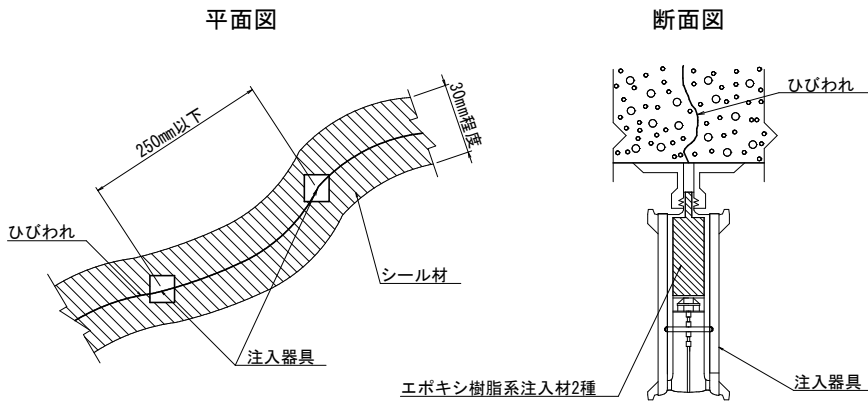
- ※浮き・剥離が既設鉄筋に達し、かつ鉄筋に発錆が認められる場合には防錆処理を施すこと。
- ※断面修復範囲は、補修前に打音点検により浮きの範囲を確認し決定すること。
- ※鉄筋かぶり不足箇所は、増打ちにより鉄筋かぶりを確保すること。

施 工 フ ロ ー



ひびわれ補修要領図

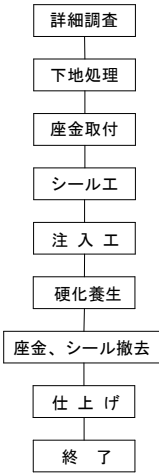
【注入工法詳細図】
(ひびわれ幅0.2mm～1.0mm)



※ 遊離石灰を伴う補修対象ひび割れは、表面の遊離石灰を除去して行うこととする。

施 工 フ ロ ー

注 入 工



- 注記)
- 断面修復およびひびわれの補修範囲は、近接目視や打音検査により損傷範囲を確認したうえで適切に見直しを行うこと。
 - 断面修復部のはつり深さは最外縁鉄筋の裏側までを標準とし、損傷状況に応じて適切に見直しを行うこと。
 - 既設コンクリートはつりの際は、マイクロクラックが生じないよう留意し、浮き石等を除去するとともにひびわれ等が確認された場合には別途補修を行うこと。また、既設鉄筋を切断しないこと。
 - はつり範囲に木片等の異物混入が認められた場合はこれを除去のうえ、断面修復を行うこと。
 - 橋座面の断面修復は、既設橋座モルタル及び支承本体に影響しない範囲で行うこと。調査により損傷範囲がこれに及ぶ場合は監督員と協議のうえ補修を行うこと。
 - 既設鉄筋の腐食が著しく、大きく断面欠損が生じている場合は監督員と協議のうえ別途補修を行うこと。
 - 既設鉄筋のかぶり厚不足箇所は増打ちにより鉄筋かぶりを確保すること。

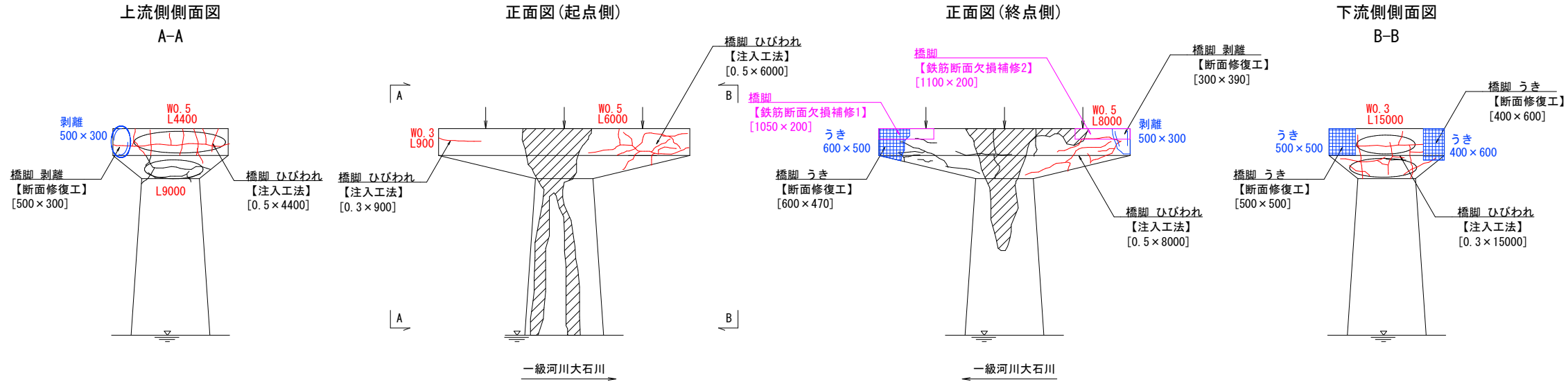
損傷の凡例

損傷の種類	表 示	損傷の種類	表 示
ひびわれ		う き	
剥 離		漏 水	
鉄筋露出		変形・欠損	
遊離石灰		そ の 他	

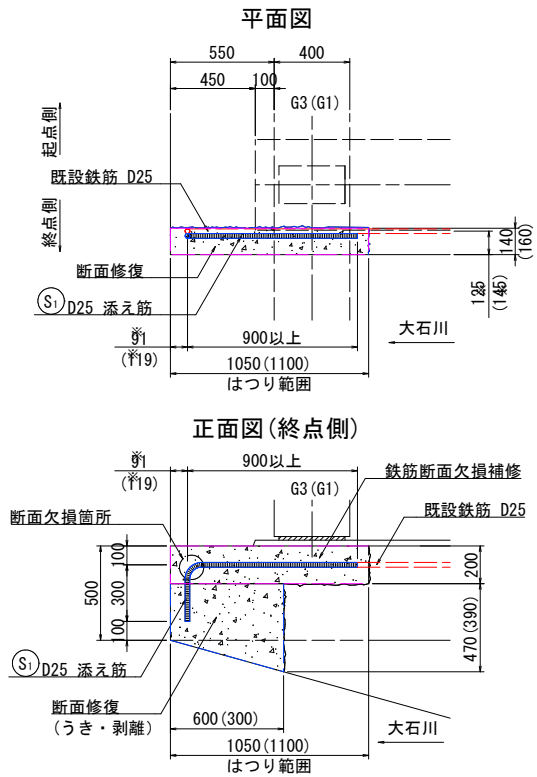
令和 6年度 工事番号		補第1号	
村道 七ヶ谷郷51号	総 筋	岩 船 市	町 関 川 鮎 谷 地 内
鮎谷橋補修工事			
鮎谷橋 下部工補修図(その1)			
縮 尺	図 示	図面全 23 葉の 12	
測 量		令和 2 年 3 月 日	主 任 技 術 者
設 計	株式会社 キタック	令和 2 年 3 月 日	主 任 技 術 者 (円)
関 川 村			

鮎谷橋 下部工補修図(その2)

P1橋脚



鉄筋断面欠損補修部詳細図 S=1:20



ひびわれ補修数量表

位置	幅(mm)	長さ(m)	箇所	延長(m)	補修工法
上流側	0.50	4.40	1	4.40	注入工法
起点側	0.30	0.90	1	0.90	〃
〃	0.50	6.00	1	6.00	〃
終点側	0.50	8.00	1	8.00	〃
下流側	0.30	15.00	1	15.00	〃
合 計				34.30	

断面修復工数量表

位置	幅(m)	長さ(m)	箇所	面積(m2)	はつり深さ(mm)	備考
上流側	0.50	0.30	1	0.150	※140	剥離
終点側	0.60	0.47	1	0.282	※140	うき
〃	1.05	0.20	1	0.210	※140	鉄筋補修
〃	0.30	0.39	1	0.117	※160	剥離
〃	1.10	0.20	1	0.220	※160	鉄筋補修
下流側	0.50	0.50	1	0.250	※110	うき
〃	0.40	0.60	1	0.240	※110	〃
上面	0.60	0.80	1	0.480	120	〃
〃	1.30	0.40	1	0.520	120	〃
合 計				2.469		

沓座モルタル打替数量表

位置			幅(mm)	長さ(mm)	数量(m3)
P1橋脚	第1径間	G1	125	500	0.002
		G3	125	500	0.002
	第2径間	G3	125	500	0.003

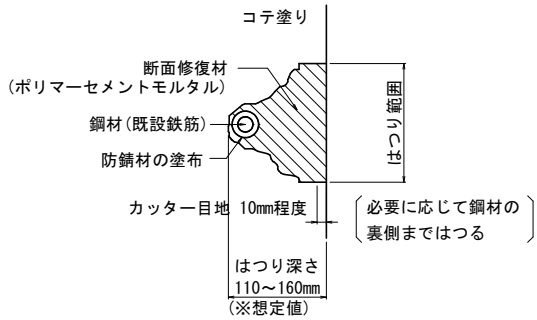
※数値は現地計測結果に基づく。

注記) はつり深さの※印数値は、現地はつり調査結果により、その他の深さは既存図面からの推定値による。

断面修復工要領図

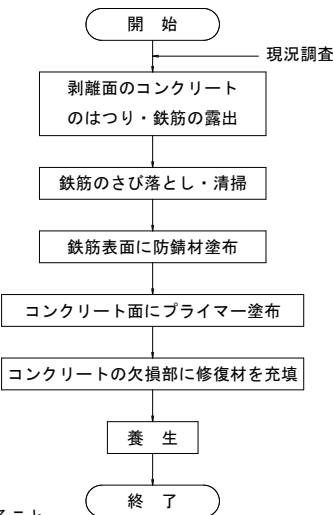
(剥離・鉄筋露出、うき)

左官工法



- ※浮き・剥離が既設鉄筋に達し、かつ鉄筋に発錆が認められる場合には防錆処理を施すこと。
- ※断面修復範囲は、補修前に打音点検により浮きの範囲を確認し決定すること。
- ※鉄筋かぶり不足箇所は、増打ちにより鉄筋かぶりを確保すること。

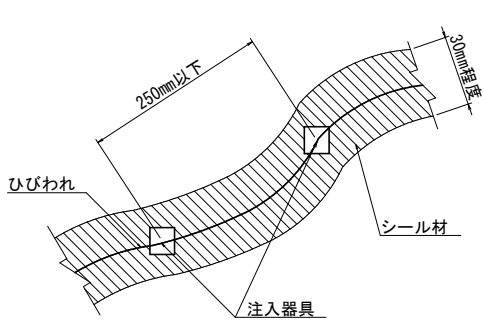
施工程序



ひびわれ補修要領図

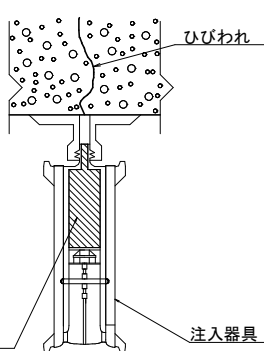
【注入工法詳細図】
(ひびわれ幅0.2mm～1.0mm)

平面図



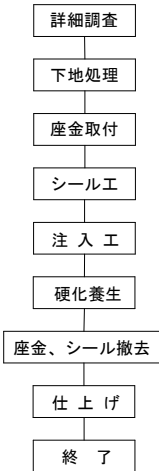
※ 遊離石灰を伴う補修対象ひび割れは、表面の遊離石灰を除去して行うこととする。

断面図



施工程序

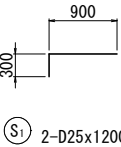
注入工



- 注記) 1. 断面修復およびひびわれの補修範囲は、近接目視や打音検査により損傷範囲を確認したうえで適切に見直しを行うこと。
- 2. 断面修復部のはつり深さは最外縁鉄筋の裏側までを標準とし、損傷状況に応じて適切に見直しを行うこと。
- 3. 既設コンクリートはつりの際は、マイクログラックが生じないよう留意し、浮き石等を除去するとともにひびわれ等が確認された場合には別途補修を行うこと。また、既設鉄筋を切断しないこと。
- 4. はつり範囲に木片等の異物混入が認められた場合はこれを除去のうえ、断面修復を行うこと。
- 5. 橋座面の断面修復は、既設沓座モルタル及び支承本体に影響しない範囲で行うこと。調査により損傷範囲がこれに及ぶ場合は監督員と協議のうえ補修を行うこと。
- 6. 既設鉄筋の腐食が著しく、大きく断面欠損が生じている場合は監督員と協議のうえ別途補修を行うこと。
- 7. 既設鉄筋のかぶり厚不足箇所は増打ちにより鉄筋かぶりを確保すること。

鉄筋表

記号	径	長さ(mm)	本数	単位質量(kg/m)	1本当り質量(kg)	質量(kg)	摘要
S1	D25	1200	2	3.980	4.776	10	10 kg

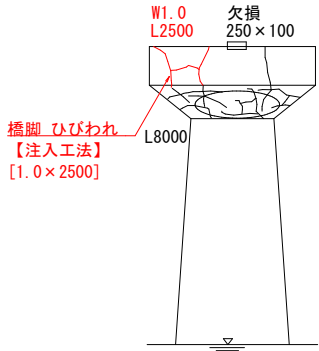


令和 6年度 工事番号	補第1号
村道 七ヶ谷郷51号 筋 岩船 市 関川 町 鮎谷 地内	
鮎谷橋補修工事	
鮎谷橋 下部工補修図(その2)	
縮尺	図面全 23 葉の 13
測量	令和 2 年 3 月 日 主 任 技 術 者
設計	株式会社 キタック 令和 2 年 3 月 日 主 任 技 術 者 (円)
関 川 村	

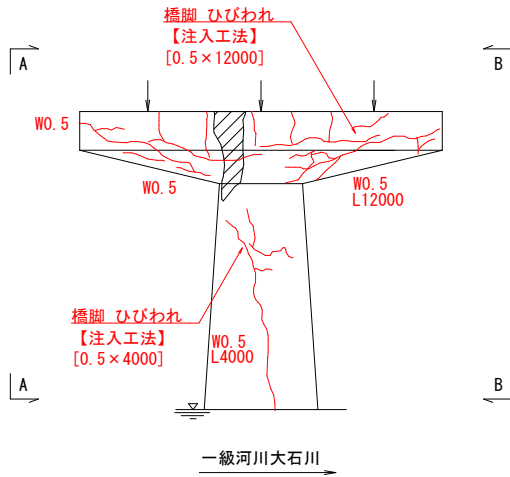
鮎谷橋 下部工補修図(その3)

P2橋脚

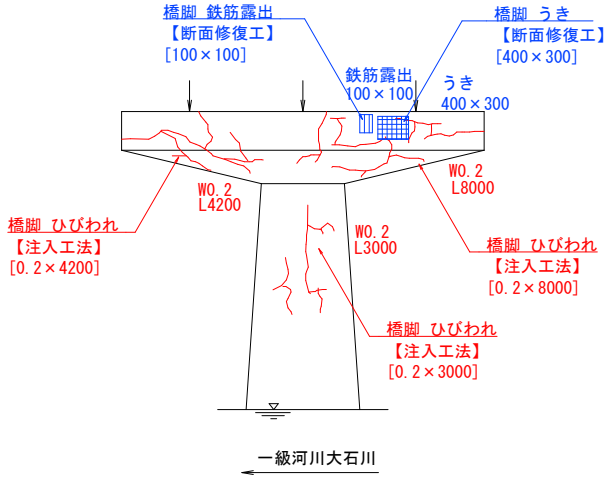
上流側側面図
A-A



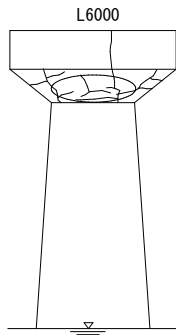
正面図(起点側)



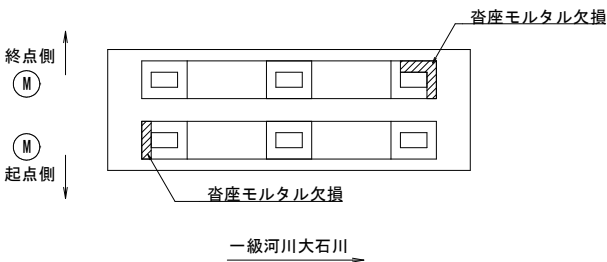
正面図(終点側)



下流側側面図
B-B



橋座面



ひびわれ補修数量表

位置	幅(mm)	長さ(m)	箇所	延長(m)	補修工法
上流側	1.00	2.50	1	2.50	注入工法
起点側	0.50	12.00	1	12.00	〃
〃	0.50	4.00	1	4.00	〃
終点側	0.20	4.20	1	4.20	〃
〃	0.20	8.00	1	8.00	〃
〃	0.20	3.00	1	3.00	〃
合 計				33.70	

断面修復工数量表

位置	幅(m)	長さ(m)	箇所	面積(m2)	はつり深さ(mm)	備考
終点側	0.10	0.10	1	0.010	140	鉄筋露出
〃	0.40	0.30	1	0.120	140	うき
合 計				0.130		

注記) はつり深さは、P1橋脚の現地はつり調査結果に基づく推定値である。

沓座モルタル打替数量表

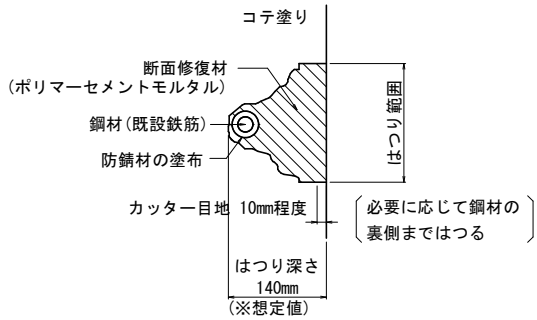
	位置	幅(mm)	長さ(mm)	数量(m3)
P2橋脚	第2径間	G1	125	500
	第3径間	G3	125	500
			150	350

※数値は現地計測結果に基づく。

断面修復工要領図

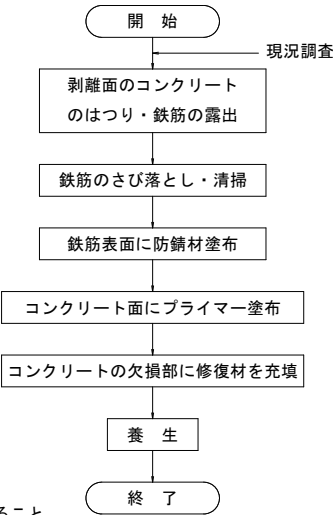
(剥離・鉄筋露出、うき)

左官工法



- ※浮き・剥離が既設鉄筋に達し、かつ鉄筋に発錆が認められる場合には防錆処理を施すこと。
- ※断面修復範囲は、補修前に打音点検により浮きの範囲を確認し決定すること。
- ※鉄筋かぶり不足箇所は、増打ちにより鉄筋かぶりを確保すること。

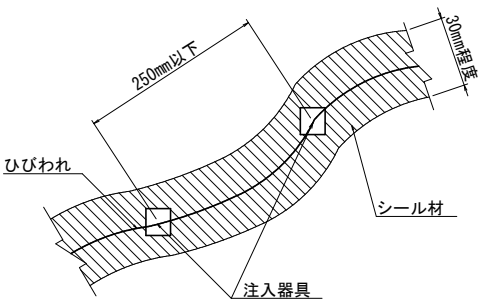
施エフロー



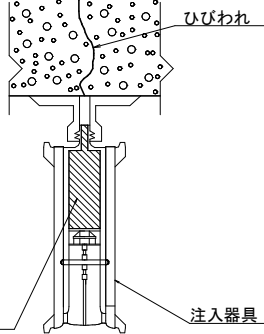
ひびわれ補修要領図

【注入工法詳細図】
(ひびわれ幅0.2mm～1.0mm)

平面図



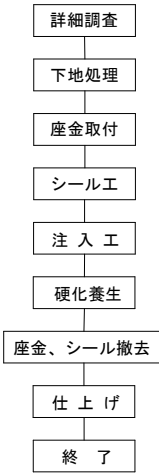
断面図



※ 遊離石灰を伴う補修対象ひび割れは、表面の遊離石灰を除去して行うこととする。

施エフロー

注 入 工



- 注記) 1. 断面修復およびひびわれの補修範囲は、近接目視や打音検査により損傷範囲を確認したうえで適切に見直しを行うこと。
- 2. 断面修復部のはつり深さは最外縁鉄筋の裏側までを標準とし、損傷状況に応じて適切に見直しを行うこと。
- 3. 既設コンクリートはつりの際は、マイクロクラックが生じないよう留意し、浮き石等を除去するとともにひびわれ等が確認された場合には別途補修を行うこと。また、既設鉄筋を切断しないこと。
- 4. はつり範囲に木片等の異物混入が認められた場合はこれを除去のうえ、断面修復を行うこと。
- 5. 橋座面の断面修復は、既設沓座モルタル及び支承本体に影響しない範囲で行うこと。調査により損傷範囲がこれに及ぶ場合は監督員と協議のうえ補修を行うこと。
- 6. 既設鉄筋の腐食が著しく、大きく断面欠損が生じている場合は監督員と協議のうえ別途補修を行うこと。
- 7. 既設鉄筋のかぶり厚不足箇所は増打ちにより鉄筋かぶりを確保すること。

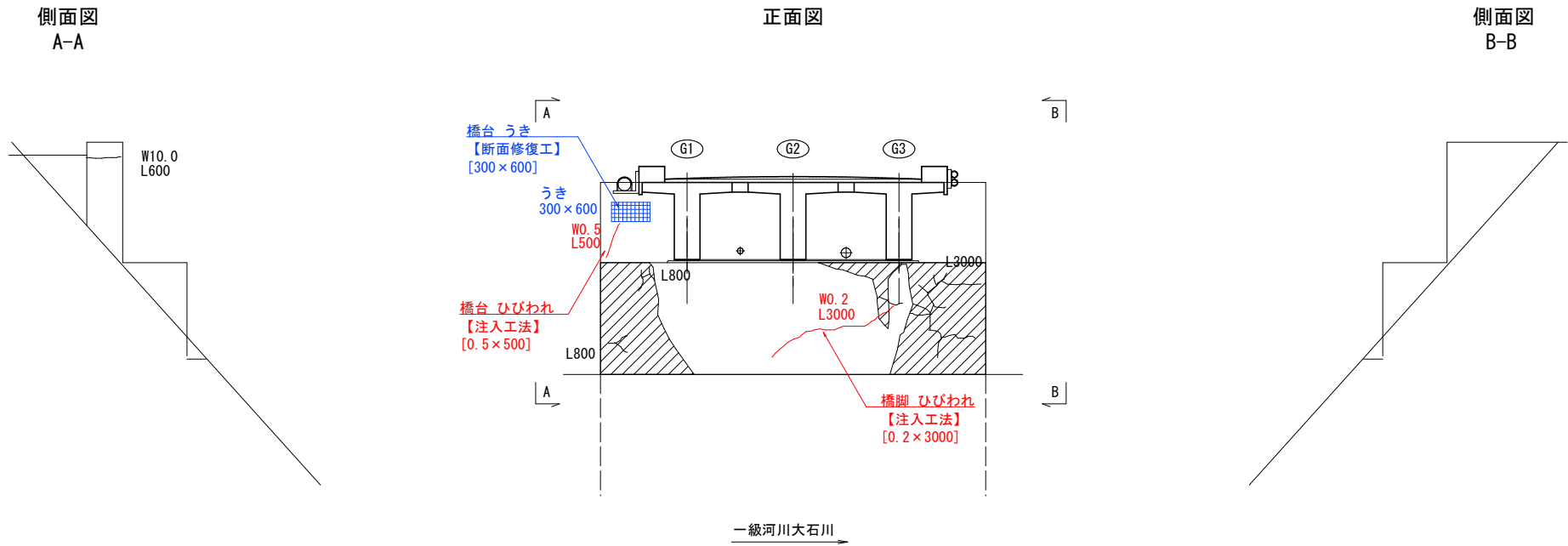
損傷の凡例

損傷の種類	表 示	損傷の種類	表 示
ひびわれ		う き	
剥 離		湧 水	
鉄筋露出		変形・欠損	
遊離石灰		そ の 他	

令和 6年度 工事番号	補第1号
村道 七ヶ谷郷51号 筋 岩船 市 関川 町 鮎谷 地内	
鮎谷橋補修工事	
鮎谷橋 下部工補修図(その3)	
縮 尺	図面全 23 葉の 14
測 量	令和 2 年 3 月 日 主 任 技術者
設 計	株式会社 キタック 令和 2 年 3 月 日 主 任 技術者 (門 口)
関 川 村	

鯨谷橋 下部工補修図(その4)

A2橋台



ひびわれ補修数量表

位置	幅(mm)	長さ(m)	箇所	延長(m)	補修工法
A2橋台	0.50	0.50	1	0.50	注入工法
〃	0.20	3.00	1	3.00	〃
合 計				3.50	

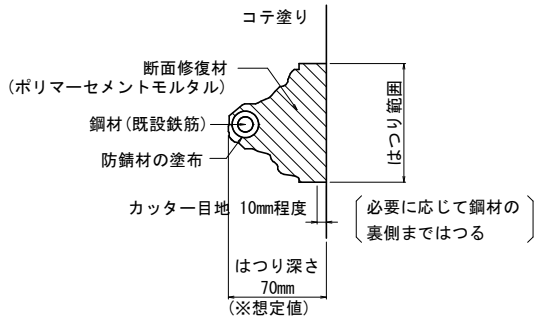
断面修復工数量表

位置	幅(m)	長さ(m)	箇所	面積(m2)	備考
A2橋台	0.30	0.60	1	0.180	うき
合 計				0.180	

断面修復工要領図

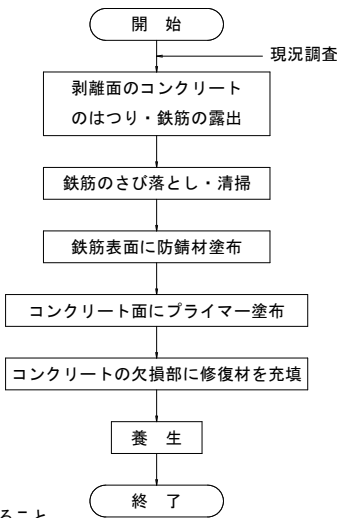
(剥離・鉄筋露出、うき)

左官工法



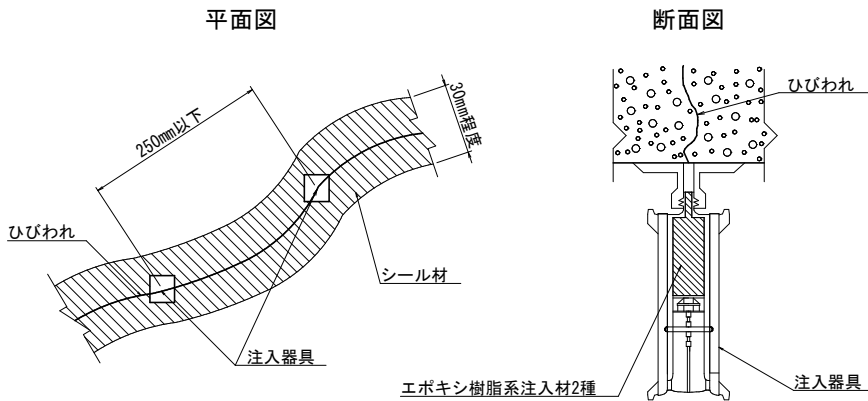
- ※浮き・剥離が既設鉄筋に達し、かつ鉄筋に発錆が認められる場合には防錆処理を施すこと。
- ※断面修復範囲は、補修前に打音点検により浮きの範囲を確認し決定すること。
- ※鉄筋かぶり不足箇所は、増打ちにより鉄筋かぶりを確保すること。

施エフロー



ひびわれ補修要領図

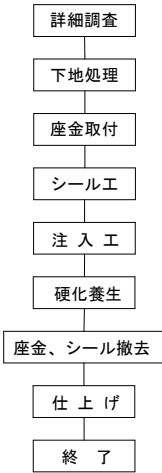
【注入工法詳細図】
(ひびわれ幅0.2mm～1.0mm)



※ 遊離石灰を伴う補修対象ひび割れは、表面の遊離石灰を除去して行うこととする。

施エフロー

注 入 工



- 注記)
- 断面修復およびひびわれの補修範囲は、近接目視や打音検査により損傷範囲を確認したうえで適切に見直しを行うこと。
 - 断面修復部のはつり深さは最外縁鉄筋の裏側までを標準とし、損傷状況に応じて適切に見直しを行うこと。
 - 既設コンクリートはつりの際は、マイクロクラックが生じないよう留意し、浮き石等を除去するとともにひびわれ等が確認された場合には別途補修を行うこと。また、既設鉄筋を切断しないこと。
 - はつり範囲に木片等の異物混入が認められた場合はこれを除去のうえ、断面修復を行うこと。
 - 橋座面の断面修復は、既設宍座モルタル及び支承本体に影響しない範囲で行うこと。調査により損傷範囲がこれに及ぶ場合は監督員と協議のうえ補修を行うこと。
 - 既設鉄筋の腐食が著しく、大きく断面欠損が生じている場合は監督員と協議のうえ別途補修を行うこと。
 - 既設鉄筋のかぶり厚不足箇所は増打ちにより鉄筋かぶりを確保すること。

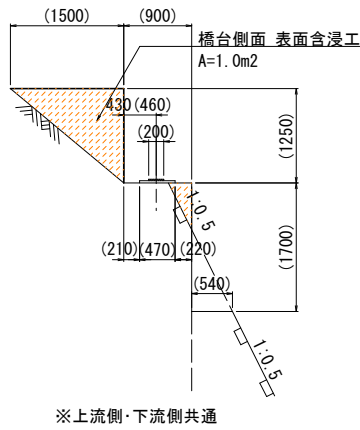
損傷の凡例

損傷の種類	表 示	損傷の種類	表 示
ひびわれ		う き	
剥 離		漏 水	
鉄筋露出		変形・欠損	
遊離石灰		そ の 他	

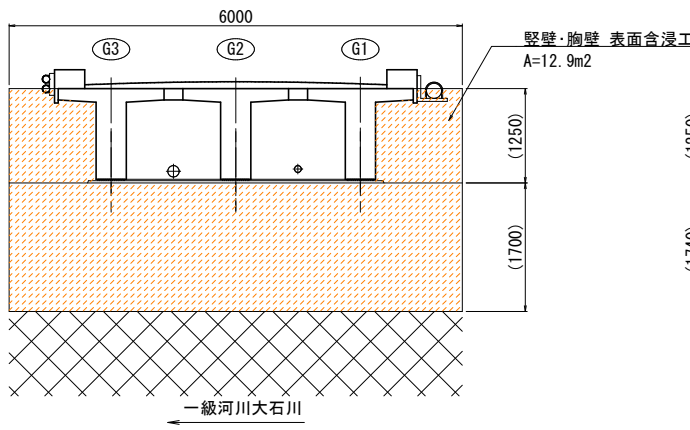
令和 6年度 工事番号		補第1号	
村道 七ヶ谷郷51号	鯨 谷 橋	町 関 川	地内 鯨 谷
鯨谷橋補修工事			
鯨谷橋 下部工補修図(その4)			
縮 尺	図 示	図面全 23 葉の 15	
測 量		令和 2 年 3 月 日	主 任 技 術 者
設 計	株式会社 キタック	令和 2 年 3 月 日	主 任 技 術 者
関 川 村			

鯨谷橋 下部工補修図(その5)

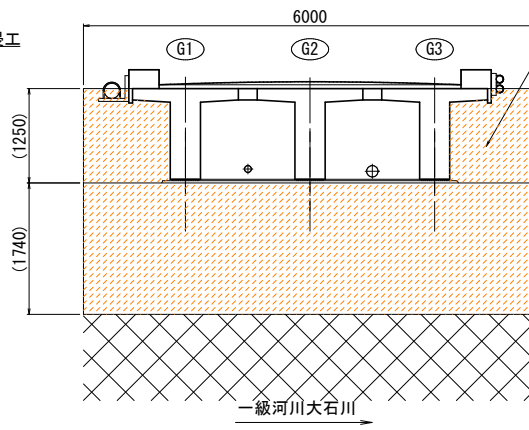
A1橋台側面図 S=1:50



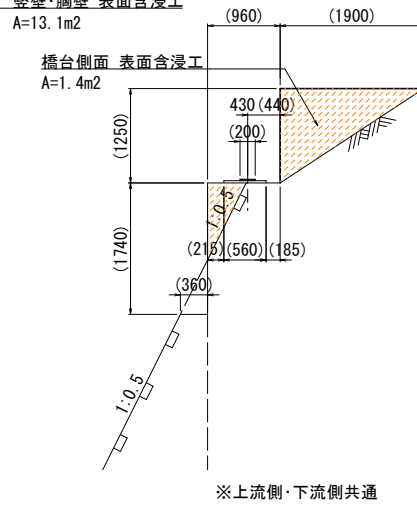
A1橋台正面図 S=1:50



A2橋台正面図 S=1:50

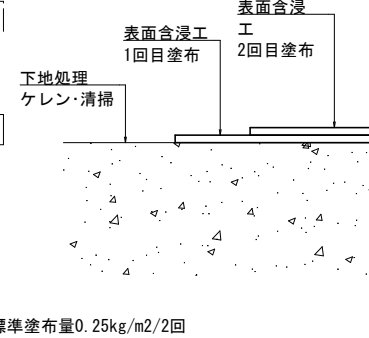
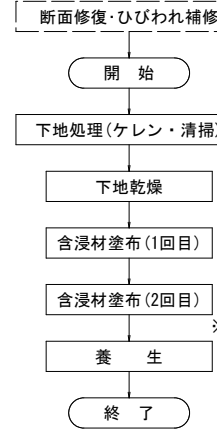


A2橋台側面図 S=1:50

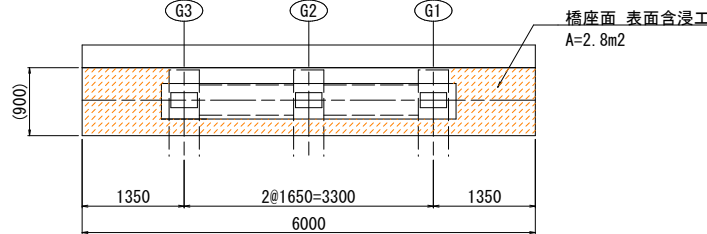


表面含浸工要領図

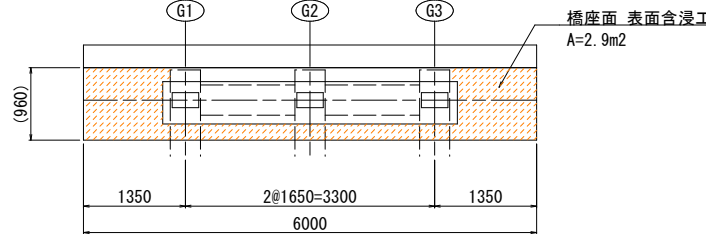
施工フロー



A1橋台平面図 S=1:50

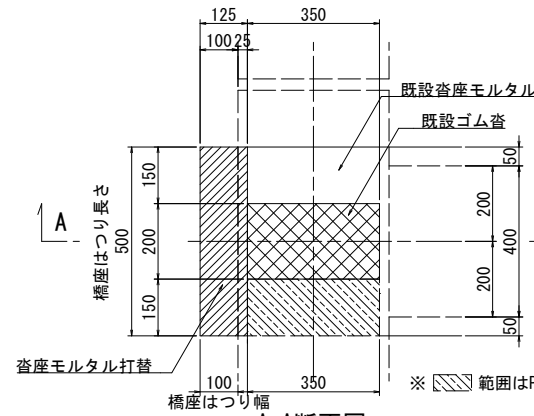


A2橋台平面図 S=1:50

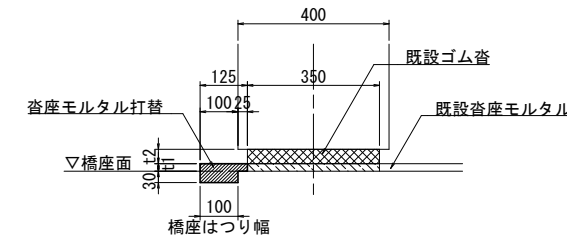


沓座モルタル打替詳細図 S=1:10

平面図



A-A断面図



沓座モルタル打替数量表

位置			幅(mm)	長さ(mm)	数量(m3)
P1橋脚	第1径間	G1	125	500	0.002
		G3	125	500	0.002
	第2径間	G3	125	500	0.003
P2橋脚	第1径間	G1	125	500	0.003
		G3	125	500	0.004
	150		350		

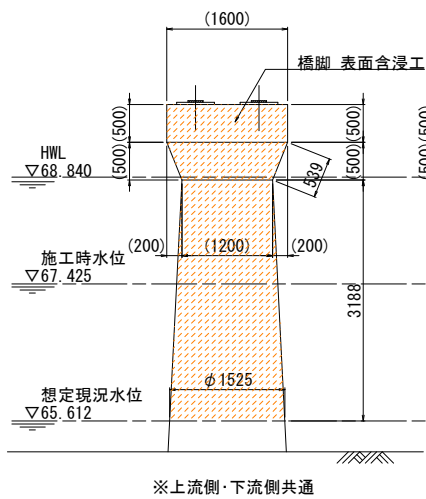
※数値は現地計測結果に基づく。

沓座モルタル寸法表 (mm)

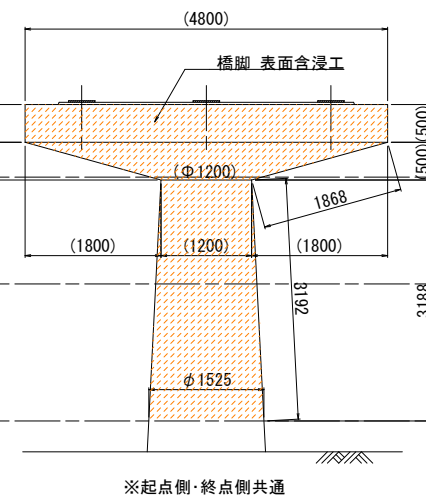
位置			t 1	t 2
P1橋脚	第1径間	G1	12	37
		G3	12	37
	第2径間	G3	20	25
P2橋脚		G1	19	34
	第3径間	G3	20	35

※数値は現地計測結果に基づく。

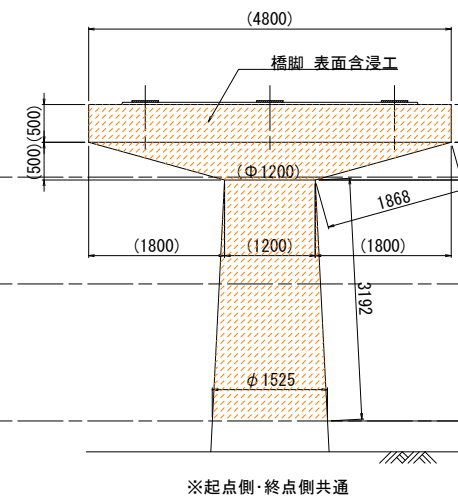
P1橋脚側面図 S=1:50



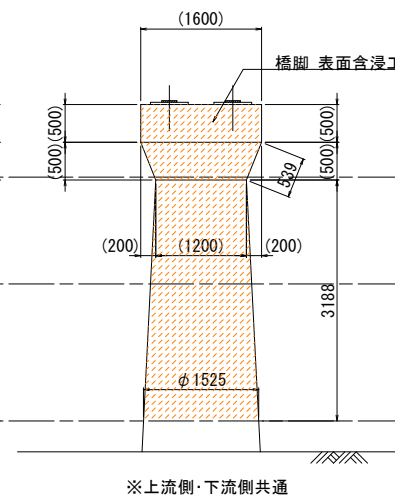
P1橋脚正面図 S=1:50



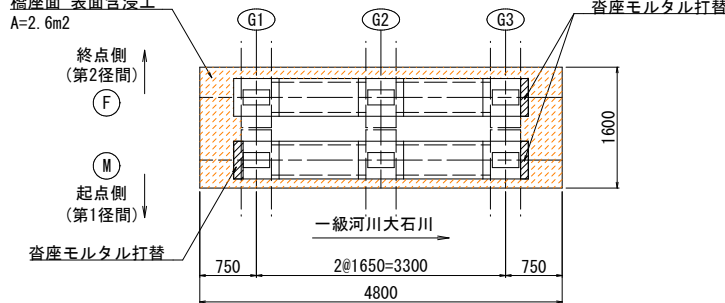
P2橋脚正面図 S=1:50



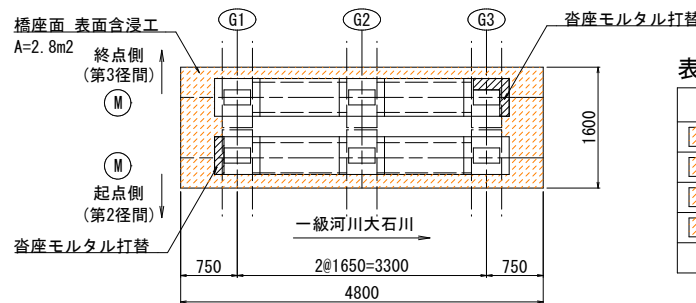
P2橋脚側面図 S=1:50



P1橋脚平面図 S=1:50



P2橋脚平面図 S=1:50



表面含浸工数量表

位置	面積 (m ²)	備考
A1橋台	17.7	
P1橋脚	35.4	
P2橋脚	35.6	
A2橋台	18.8	
合 計	107.5	

注記

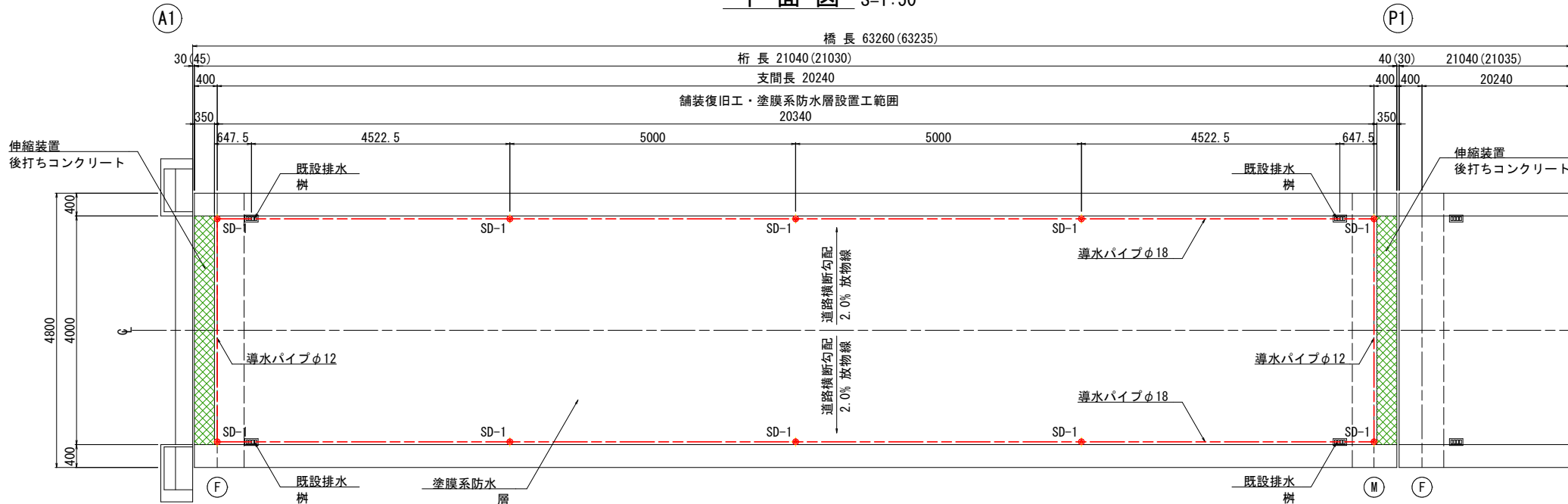
- 補修にあたっては施工前に現地状況を計測確認の上、補修範囲を決定すること。
- 表面含浸工の施工前にはコンクリート表面の汚れや付着物等をケレン・清掃により除去し、その後十分に乾燥させること。また、ジャンカや欠け、気泡が見られる場合は下地補修を行うこと。
- 表面含浸材は、下地の状況に応じて塗布回数を増やすなどにより、均質な塗膜が形成されるよう適宜調整すること。
- 橋脚柱部の表面保護工は、橋梁点検車による施工を想定する。また、施工範囲は、一般図に示す水位までとするが、現地状況及び橋梁点検車上からの作業可能箇所として範囲の見直しを行うこと。

令和 6年度 工事番号		補第1号	
村道 七ヶ谷郷51号 筋 岩 市 関 町 鯨 谷 地内			
鯨谷橋補修工事			
鯨谷橋 下部工補修図 (その5)			
縮 尺	図 示	図面全 23 葉の 16	
測 量		令和 2 年 3 月 日	主 任 技 術 者
設 計	株式会社 キタック	令和 2 年 3 月 日	主 任 技 術 者
関 川 村		門 口	

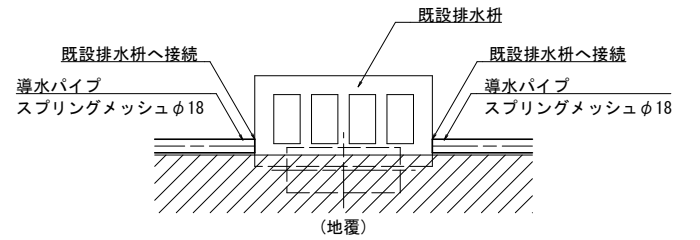
鯨谷橋 橋面防水工図(その1)

第1径間

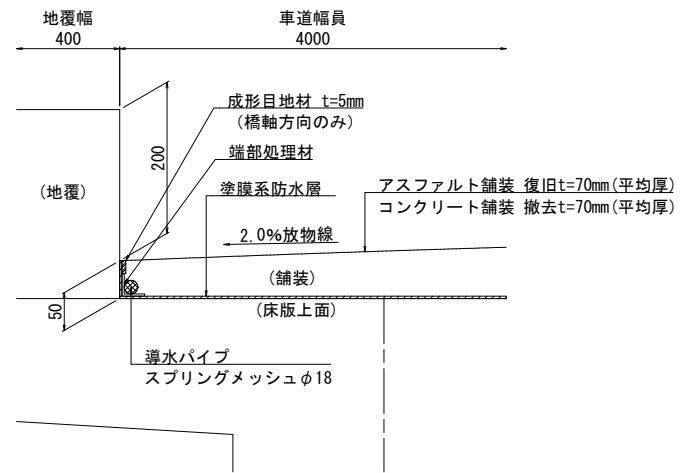
平面図 S=1:50



導水パイプ接続詳細図 S=1:5



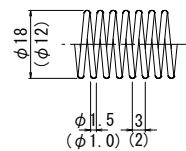
防水層端部処理詳細図 S=1:5



スラブドレン流末処理詳細図 S=1:20

導水パイプ詳細図 S=1:1

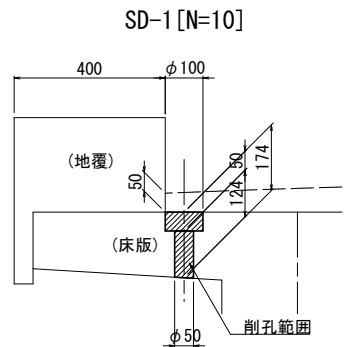
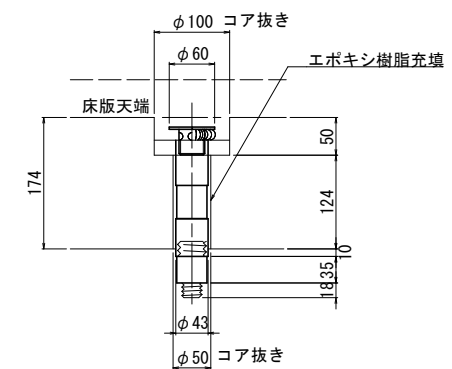
スパイラルパイプ
(スプリングメッシュφ18, 12)



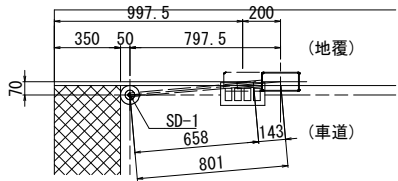
※()内数値はφ12の寸法を示す

スラブドレン詳細図 S=1:5

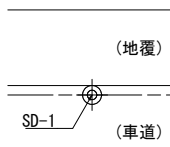
床版削孔詳細図 S=1:10



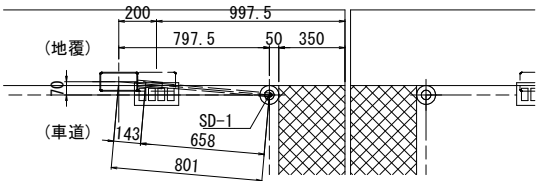
起点側 平面図
N=2



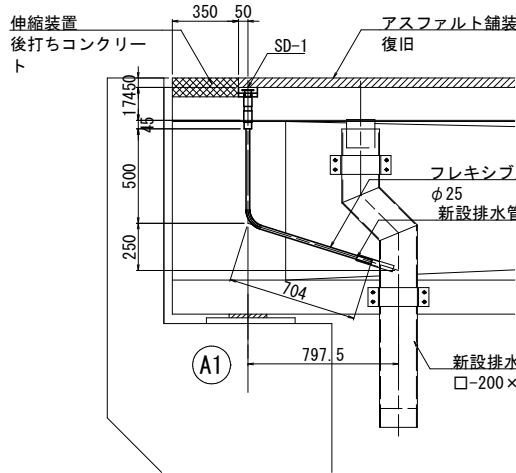
中間部 平面図
N=6



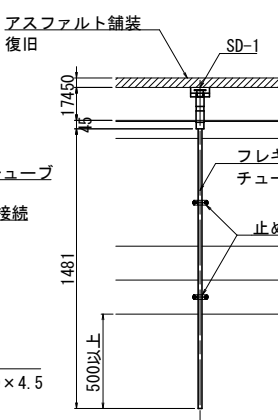
終点側 平面図
N=2



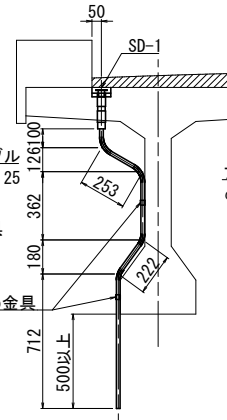
起点側 側面図



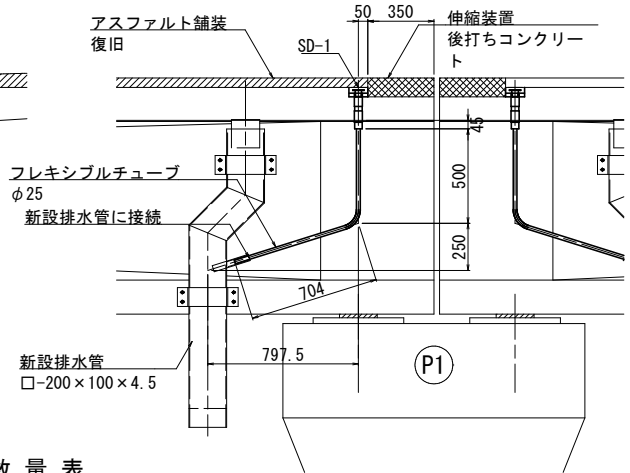
中間部 側面図



中間部 断面図



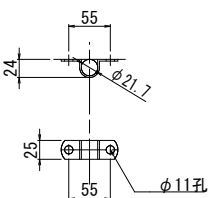
終点側 側面図



フレキシブルチューブ延長

位置	員数	計 算 式	mm/箇所	延長
A1橋台	2	500 + 704	1204	2408
中間部	6	100 + 253 + 362 + 222 + 712	1649	9894
P1橋脚	2	500 + 704	1204	2408
第1径間 合計				14710

止め金具 S=1:5



1 - φ25フレキシブルチューブ用止め金具 (SUS)
2 - ホールインアンカー M10x40

数 量 表

名 称	仕 様	単位	数 量	備 考
防水層設置面積	塗膜系防水層	m ²	81.4	
導水パイプ延長	φ18 スプリングメッシュ	m	40.7	溶融亜鉛メッキ同等品以上
	φ12 スプリングメッシュ	m	8.0	溶融亜鉛メッキ同等品以上
成形目地材	t=5mm	m	40.7	橋軸方向のみ
端部処理材		m	48.7	
スラブドレン	直管型 L=174 (SD-1)	個	10	
フレキシブルチューブ	外径φ25	m	14.7	樹脂
止め金具	φ25用	個	12	
舗装撤去面積	コンクリート舗装 t=7cm(平均厚)	m ²	84.2	
舗装復旧面積	アスファルト復旧 t=7cm(平均厚)	m ²	81.4	

注記)

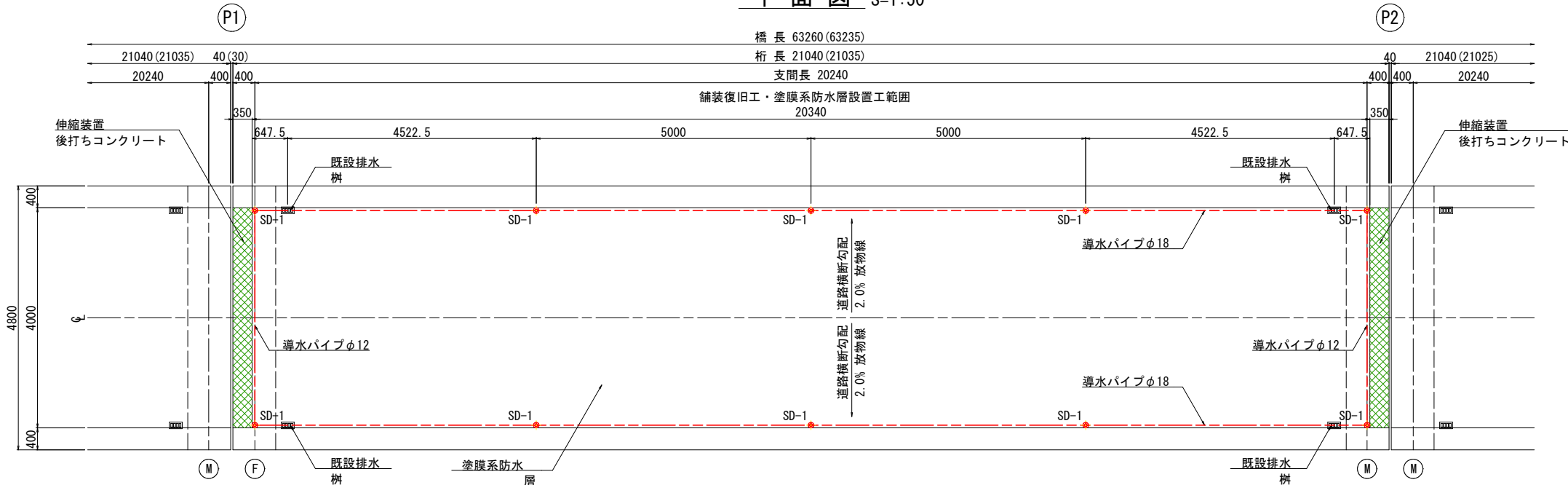
1. 本工事の施工にあたっては事前に現地実測確認のうえ施工計画を策定し補修・施工範囲を決定すること。
2. () 内の数字は、現地形状調査の結果であり既存資料図面が確認できない若しくは異なる場合に記載している。
3. 本図面の撤去・復旧舗装厚は既存図面および現地調査に基づく想定であり、現地確認により適切に見直しを行い、橋梁前後の現道舗装面との整合及び橋面排水計画との整合を図ること。
4. 既設舗装撤去により、既設床版に土砂化等の損傷が確認された場合は、対応について監督員と協議すること。
5. 現地実測確認において別途損傷箇所が確認された場合は、監督員と協議のうえ、別途補修を行うこと。
6. 導水パイプ流末は下部工近傍においては新設排水管に接続すること。
7. スラブドレンの削孔および既設桁へのアンカーにあたっては、事前に鉄筋探査により鉄筋位置を確認し、既設鉄筋及び横締めケーブルを切断しないように適切に配置を見直すこと。
8. フレキシブルチューブ長さは、新設排水管の位置・形状により適宜見直しを行うこと。
9. 止め金具の設置にあたっては、主桁鉄筋及び主桁ケーブルに干渉しないよう留意すること。

令和 6年度 工事番号	補第1号
村道 七ヶ谷郷51号 筋 岩船 市 関川 町 鯨谷	
鯨谷橋補修工事	
鯨谷橋 橋面防水工図(その1)	
縮 尺	図 示 図面全 23 葉の 17
測 量	令和 2 年 3 月 日 主 任 技 術 者
設 計	株式会社 キタック 令和 2 年 3 月 日 主 任 技 術 者 (円)
関 川 村	

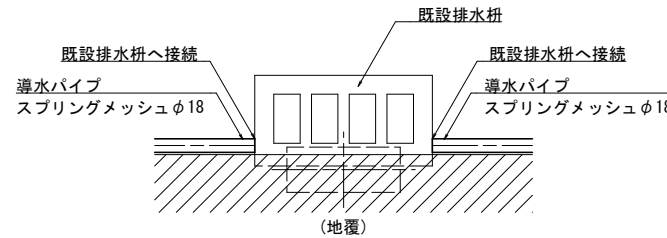
鯨谷橋 橋面防水工図(その2)

第2径間

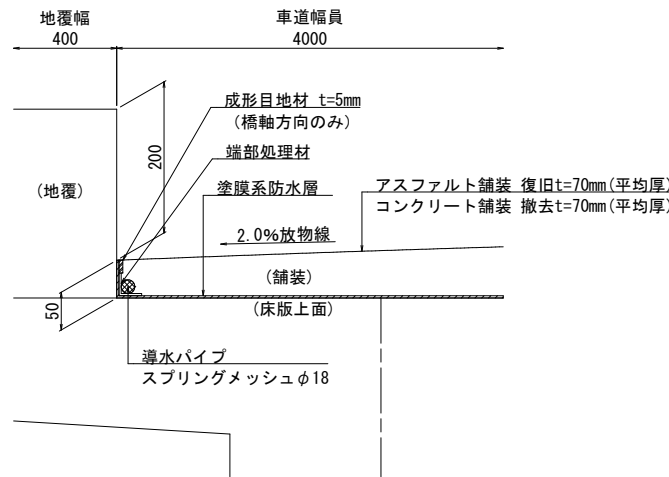
平面図 S=1:50



導水パイプ接続詳細図 S=1:5



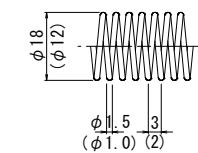
防水層端部処理詳細図 S=1:5



スラブドレン流末処理詳細図 S=1:20

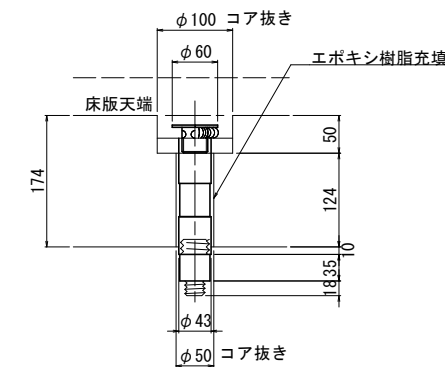
導水パイプ詳細図 S=1:1

スパイラルパイプ
(スプリングメッシュφ18, 12)

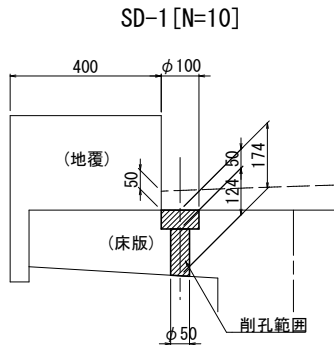


※()内数値はφ12の寸法を示す

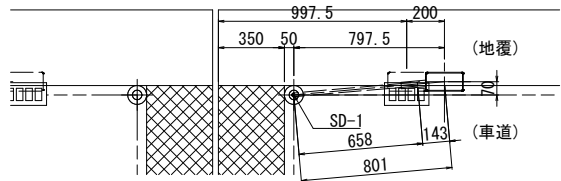
スラブドレン詳細図 S=1:5



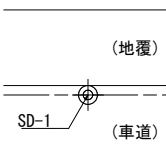
床版削孔詳細図 S=1:10



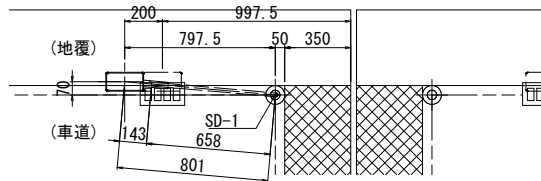
起点側 平面図
N=2



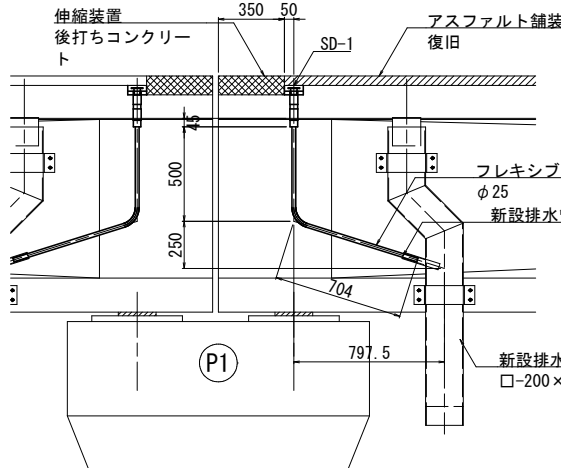
中間部 平面図
N=6



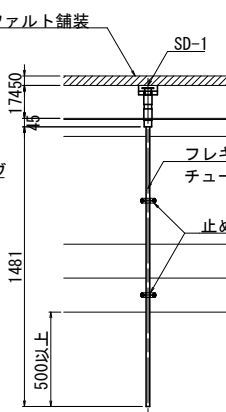
終点側 平面図
N=2



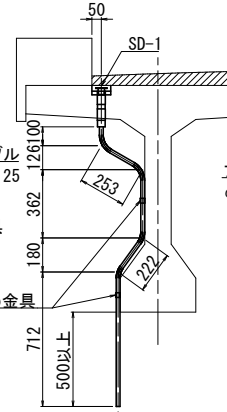
終点側 側面図



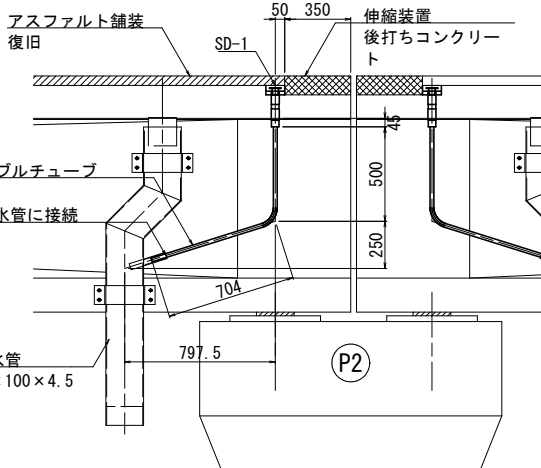
中間部 側面図



中間部 断面図



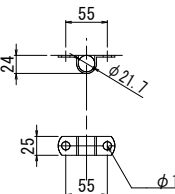
終点側 側面図



フレキシブルチューブ延長

位置	員数	計 算 式	mm/箇所	延長
P1橋脚	2	500 + 704	1204	2408
中間部	6	100 + 253 + 362 + 222 + 712	1649	9894
P2橋脚	2	500 + 704	1204	2408
第2径間 合計				14710

止め金具 S=1:5



- 1 - φ25フレキシブルチューブ用止め金具 (SUS)
2 - ホールインアンカー M10x40

数 量 表

名 称	仕 様	単位	数 量	備 考
防水層設置面積	塗膜系防水層	m2	81.4	
導水パイプ延長	φ18 スプリングメッシュ	m	40.7	溶融亜鉛メッキ同等品以上
	φ12 スプリングメッシュ	m	8.0	溶融亜鉛メッキ同等品以上
成形目地材	t=5mm	m	40.7	橋軸方向のみ
端部処理材		m	48.7	
スラブドレン	直管型 L=174 (SD-1)	個	10	
フレキシブルチューブ	外径φ25	m	14.7	
止め金具	φ25用	個	12	
舗装撤去面積	コンクリート舗装 t=7cm(平均厚)	m2	84.2	
舗装復旧面積	アスファルト復旧 t=7cm(平均厚)	m2	81.4	

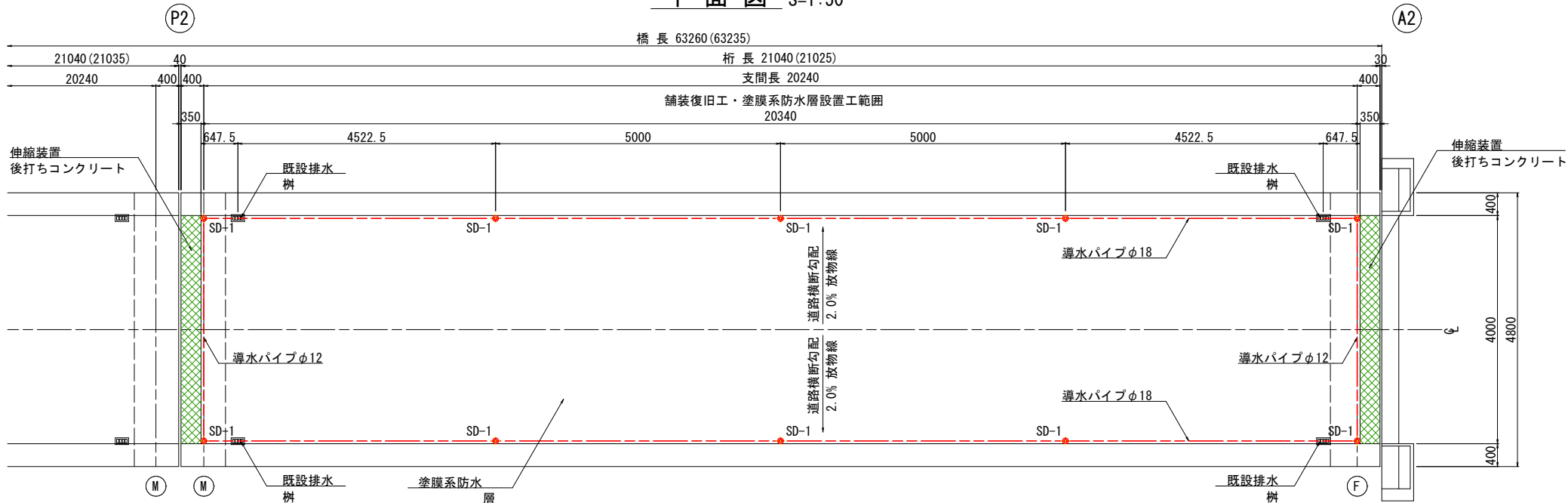
- 注記)
- 本工事の施工にあたっては事前に現地実測確認のうえ施工計画を策定し補修・施工範囲を決定すること。
 - () 内の数字は、現地形状調査の結果であり既存資料図面が確認できない若しくは異なる場合に記載している。
 - 本図面の撤去・復旧舗装厚は既存図面および現地調査に基づく想定であり、現地確認により適切に見直しを行い、橋梁前後の現道舗装面との整合及び橋面排水計画との整合を図ること。
 - 既設舗装撤去により、既設床版に土砂化等の損傷が確認された場合は、対応について監督員と協議すること。
 - 現地実測確認において別途損傷箇所が確認された場合は、監督員と協議のうえ、別途補修を行うこと。
 - 導水パイプ流末は下部工近傍においては新設排水管に接続すること。
 - スラブドレンの削孔および既設桁へのアンカーにあたっては、事前に鉄筋探査により鉄筋位置を確認し、既設鉄筋及び横締めケーブルを切断しないように適切に配置を見直すこと。
 - フレキシブルチューブ長さは、新設排水管の位置・形状により適宜見直しを行うこと。
 - 止め金具の設置にあたっては、主桁鉄筋及び主桁ケーブルに干渉しないよう留意すること。

令和 6年度 工事番号	補第1号
村道 七ヶ谷郷51号 筋 岩船 市 関川 町 鯨谷	
鯨谷橋補修工事	
鯨谷橋 橋面防水工図(その2)	
縮 尺	図 示 図面全 23 葉の 18
測 量	令和 2 年 3 月 日 主 任 技 術 者
設 計	株式会社 キタック 令和 2 年 3 月 日 主 任 技 術 者 (印)
関 川 村	

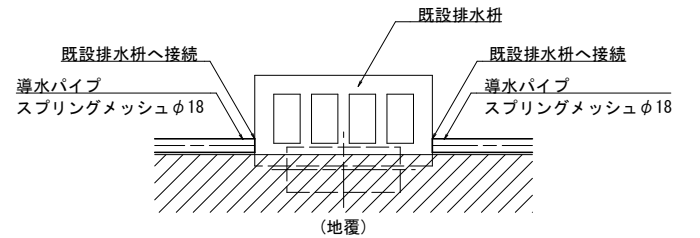
鯨谷橋 橋面防水工図(その3)

第3径間

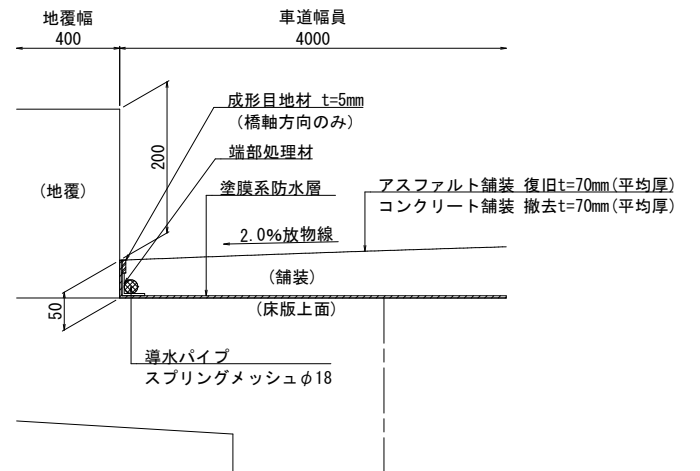
平面図 S=1:50



導水パイプ接続詳細図 S=1:5



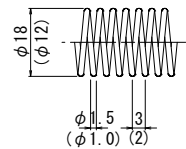
防水層端部処理詳細図 S=1:5



スラブドレン流末処理詳細図 S=1:20

導水パイプ詳細図 S=1:1

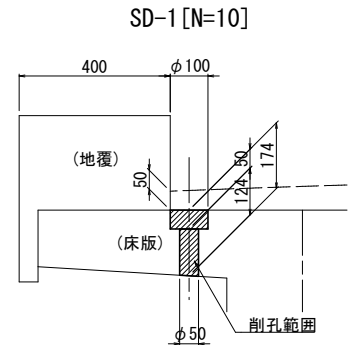
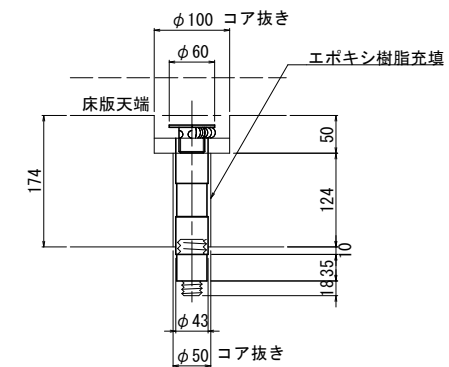
スパイラルパイプ
(スプリングメッシュφ18, 12)



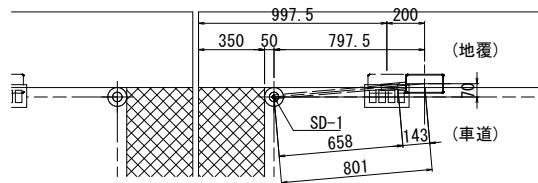
※()内数値はφ12の寸法を示す

スラブドレン詳細図 S=1:5

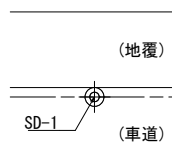
床版削孔詳細図 S=1:10



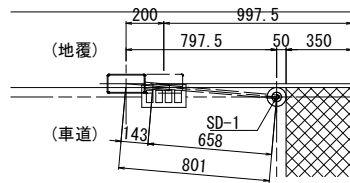
起点側 平面図
N=2



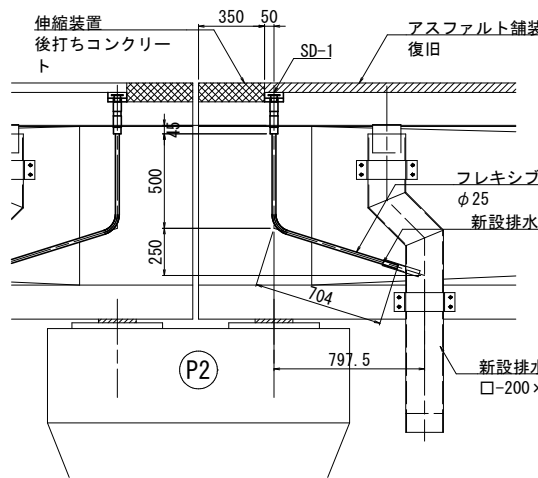
中間部 平面図
N=6



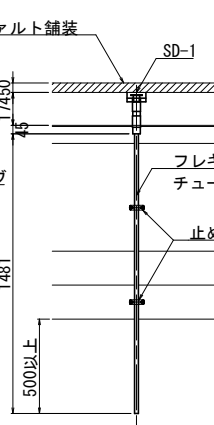
終点側 平面図
N=2



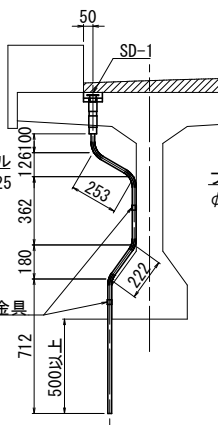
起点側 側面図



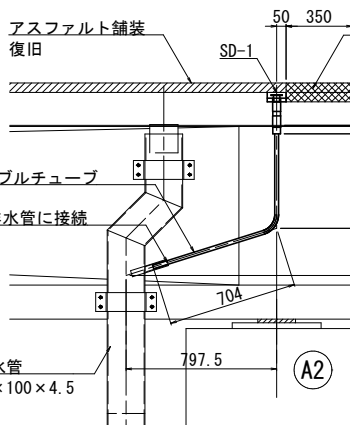
中間部 側面図



中間部 断面図



終点側 側面図



数量表

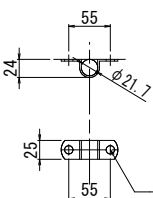
名称	仕様	単位	数量	備考
防水層設置面積	塗膜系防水層	m2	81.4	
導水パイプ延長	φ18 スプリングメッシュ	m	40.7	溶融亜鉛メッキ同等品以上
	φ12 スプリングメッシュ	m	8.0	溶融亜鉛メッキ同等品以上
成形目地材	t=5mm	m	40.7	橋軸方向のみ
端部処理材		m	48.7	
スラブドレン	直管型 L=174 (SD-1)	個	10	
フレキシブルチューブ	外径φ25	m	14.7	
止め金具	φ25用	個	12	
舗装撤去面積	コンクリート舗装 t=7cm(平均厚)	m2	84.2	
舗装復旧面積	アスファルト復旧 t=7cm(平均厚)	m2	81.4	

- 注記)
1. 本工事の施工にあたっては事前に現地実測確認のうえ施工計画を策定し補修・施工範囲を決定すること。
 2. () 内の数字は、現地形状調査の結果であり既存資料図面が確認できない若しくは異なる場合に記載している。
 3. 本図面の撤去・復旧舗装厚は既存図面および現地調査に基づく想定であり、現地確認により適切に見直しを行い、橋梁前後の現道舗装面との整合及び橋面排水計画との整合を図ること。
 4. 既設舗装撤去により、既設床版に土砂化等の損傷が確認された場合は、対応について監督員と協議すること。
 5. 現地実測確認において別途損傷箇所が確認された場合は、監督員と協議のうえ、別途補修を行うこと。
 6. 導水パイプ流末は下部工近傍においては新設排水管に接続すること。
 7. スラブドレンの削孔および既設桁へのアンカーにあたっては、事前に鉄筋探査により鉄筋位置を確認し、既設鉄筋及び横締めケーブルを切断しないように適切に配置を見直すこと。
 8. フレキシブルチューブ長さは、新設排水管の位置・形状により適宜見直しを行うこと。
 9. 止め金具の設置にあたっては、主桁鉄筋及び主桁ケーブルに干渉しないよう留意すること。

フレキシブルチューブ延長

位置	員数	計算式	mm/箇所	延長
P2橋脚	2	500 + 704	1204	2408
中間部	6	100 + 253 + 362 + 222 + 712	1649	9894
A2橋台	2	500 + 704	1204	2408
第3径間 合計				14710

止め金具 S=1:5

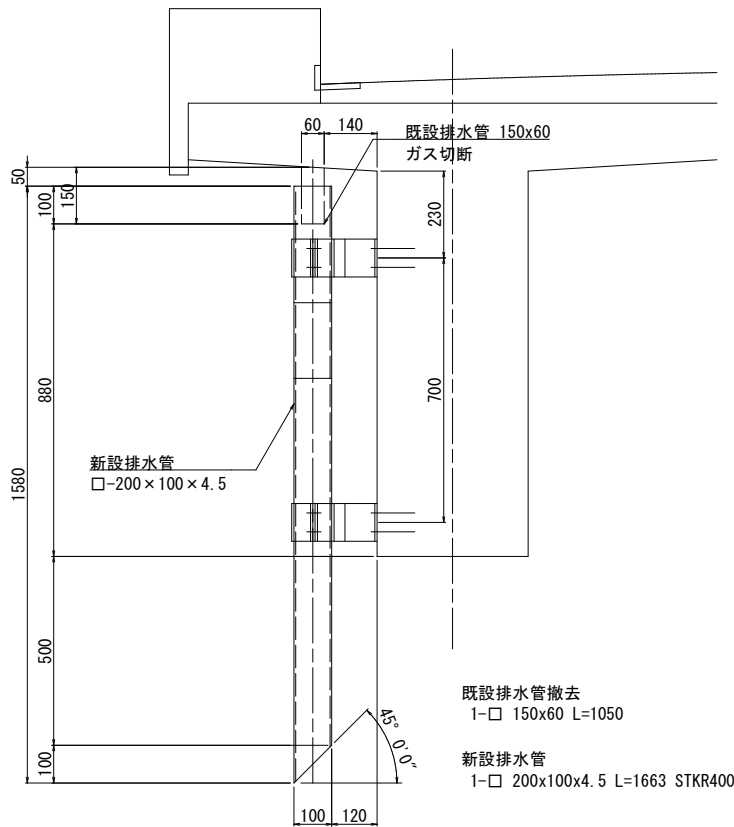


- 1 - φ25フレキシブルチューブ用止め金具 (SUS)
2 - ホールインアンカー M10x40

令和 6年度 工事番号	補第1号
村道 七ヶ谷郷51号 筋 岩船 市 関川 町 鯨谷	
鯨谷橋補修工事	
鯨谷橋 橋面防水工図(その3)	
縮尺	図示 図面全 23 葉の 19
測量	令和 2年 3月 日 主任 技術者
設計	株式会社 キタック 令和 2年 3月 日 主任 技術者 (円)
関川村	

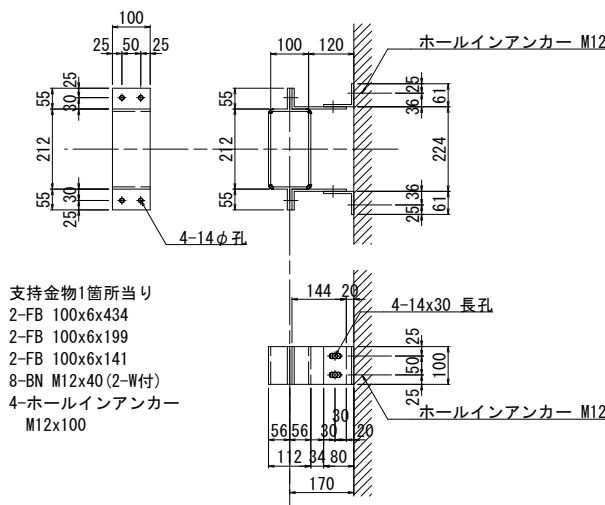
鯔谷橋 橋面防水工図(その4)

排水管断面図 S=1:10

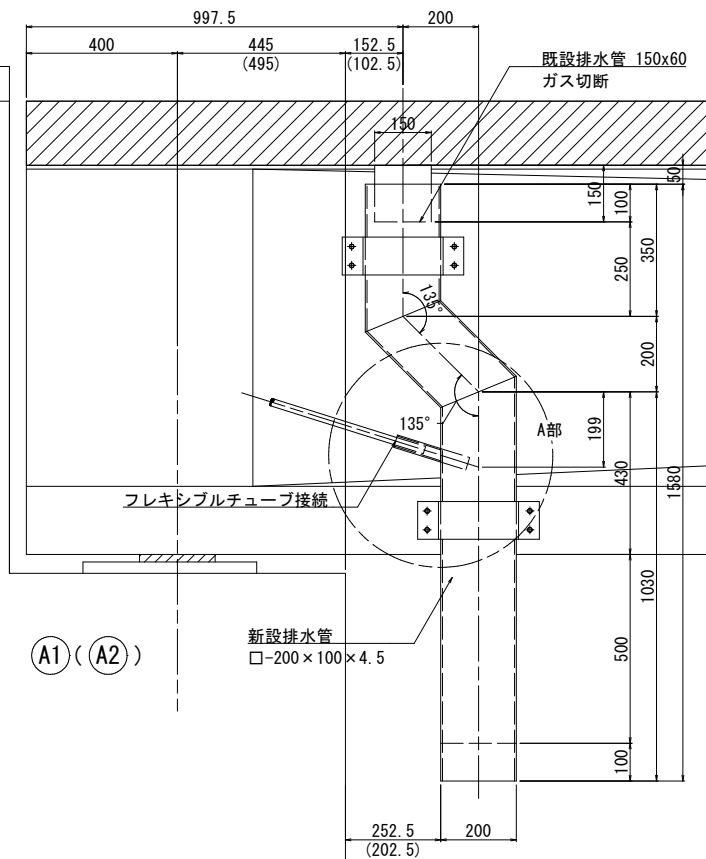


取付金具詳細図 S=1:10

N=2(排水管1箇所当り)

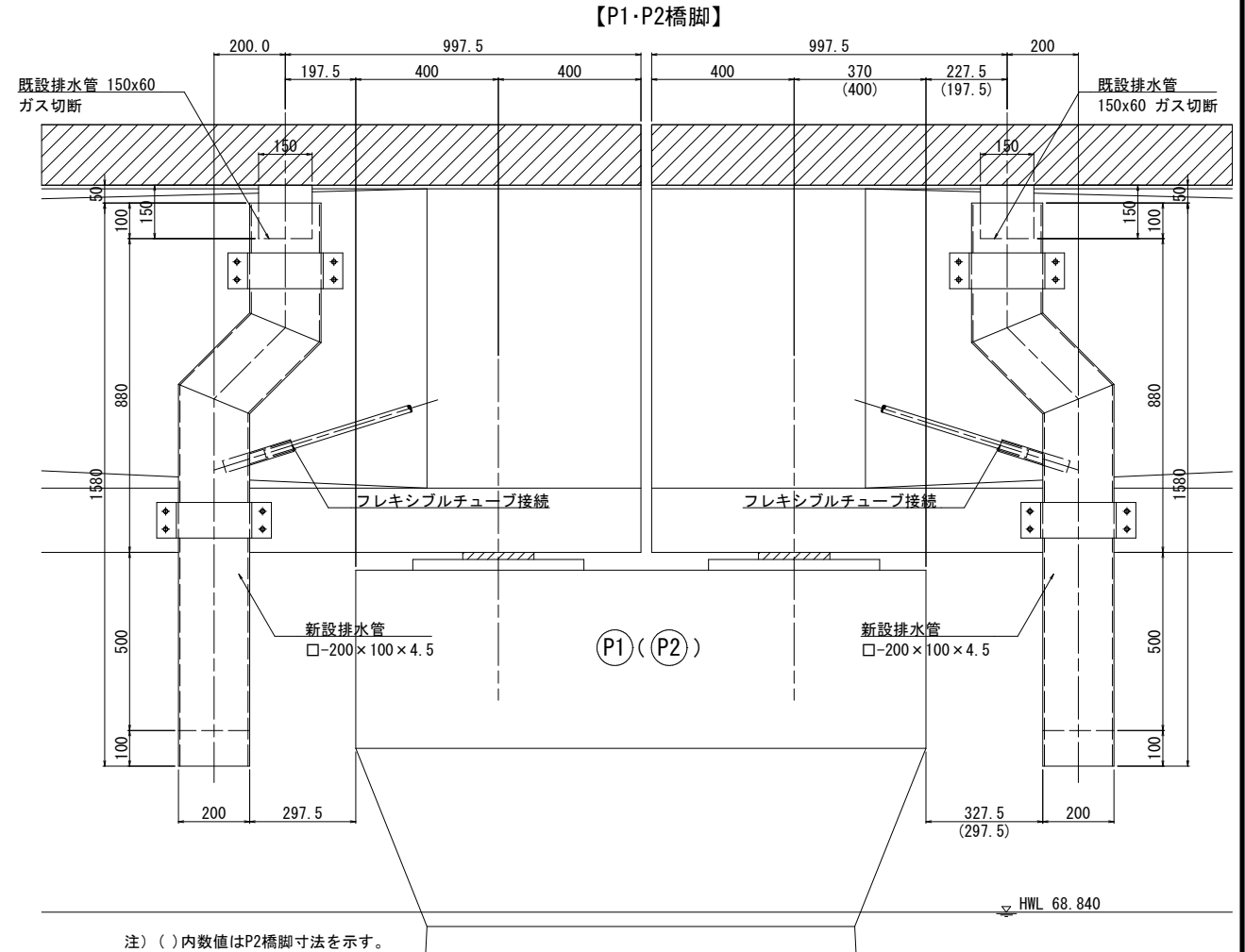


【A1・A2橋台】



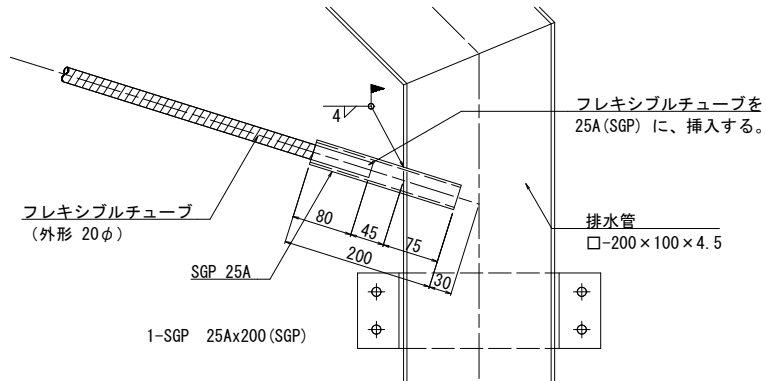
注) () 内数値はA2橋台寸法を示す。

排水管側面図 S=1:10



注) () 内数値はP2橋脚寸法を示す。

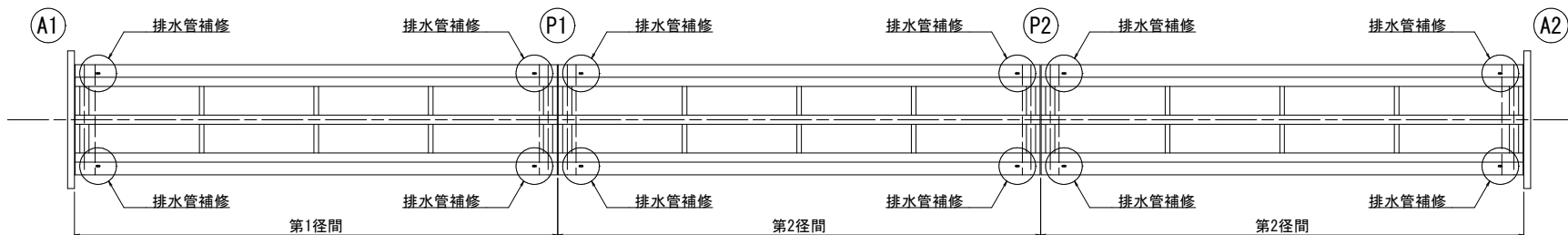
A部詳細図 S=1:5



数量表

名 称	仕 様	単位	数 量				備 考
			第1径間	第2径間	第3径間	合計	
既設排水菅ガス切断	□-150x60	本	4	4	4	12	
		m	1.68	1.68	1.68	5.04	
排水菅撤去	□-150x60 L=1050	本	4	4	4	12	
新設排水菅	□-200x100x4.5 L=1663	本	4	4	4	12	溶融亜鉛めっき
取付金具		箇所	8	8	8	24	溶融亜鉛めっき

配置図 S=1:150

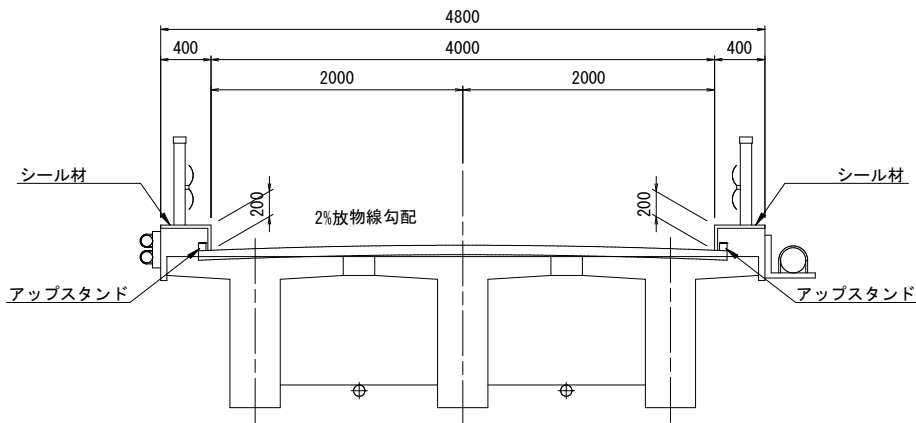


注記)
1. 本工事の施工にあたっては事前に現地実測確認のうえ施工計画を策定し補修・施工範囲を決定すること。
2. 製作部材については現地実測確認のうえ発注を行うこと。
3. 特記なき材質は、全てSS400とする。
4. 特記なき部材は、全て溶融亜鉛めっきとする。亜鉛の付着量は、JIS H8641 HDZ55とする。ただし、ボルト・ナット及び板厚3.2mm未満の鋼材はHDZ35とする。
5. ナットは全て、弛み止めナットを使用する。
6. 既設桁へのアンカーにあたっては、事前に鉄筋位置を確認し、既設鉄筋及び主桁ケーブルを切断しないように適切に配置を見直すこと。

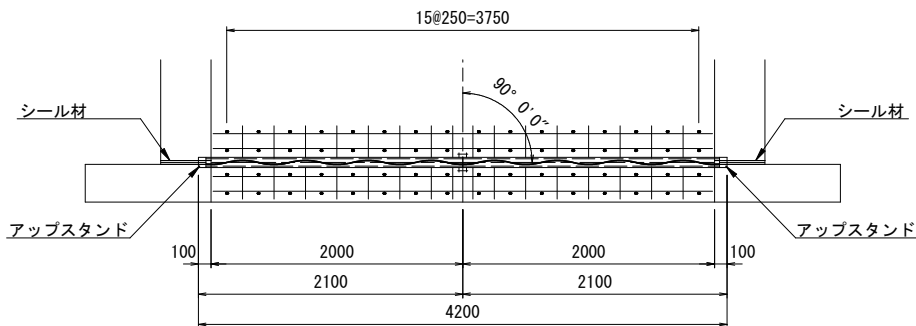
令和 6年度 工事番号	補第1号
村道 七ヶ谷郷51号 筋 岩船 市 関川 町 鯔谷	
鯔谷橋補修工事	
鯔谷橋 橋面防水工図(その4)	
縮 尺	図 示 図面全 23 葉の 20
測 量	令和 2 年 3 月 日 主 任 技 術 者
設 計	株式会社 キタック 令和 2 年 3 月 日 主 任 技 術 者 (印)
関 川 村	

鯨谷橋 伸縮装置詳細図

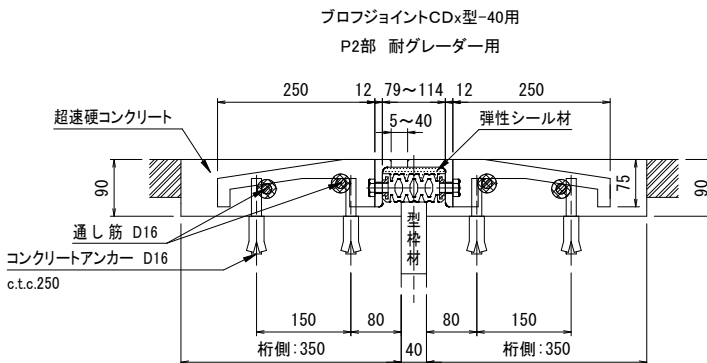
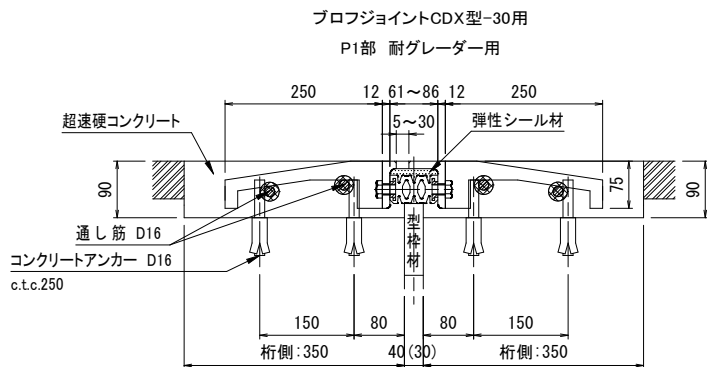
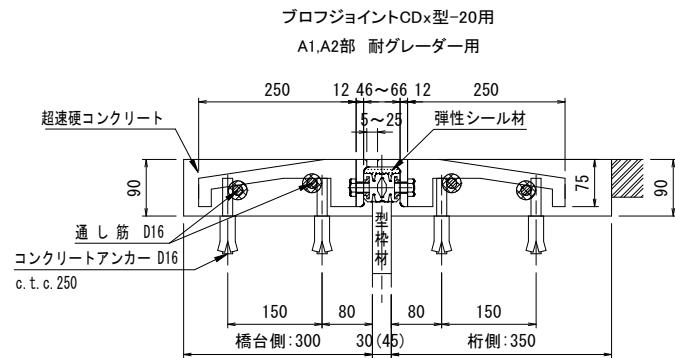
断面図 S= 1:30



平面図 S= 1:30

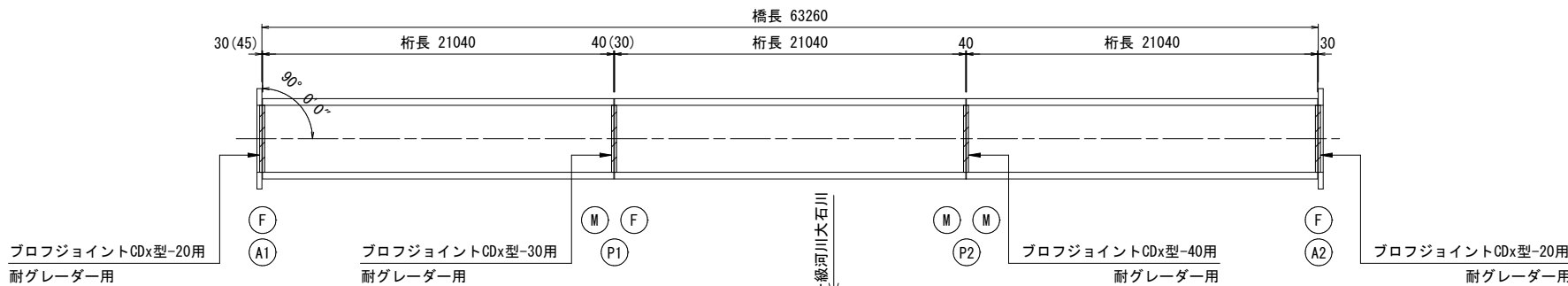


伸縮装置断面図 S= 1:6



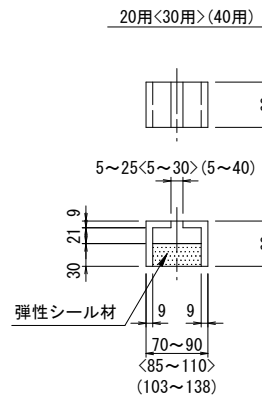
⊗: 現場接合位置
※() 内寸法は、現地形状調査結果を示す。

配置図 S= 1:200



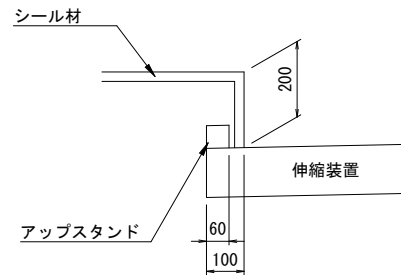
※() 内寸法は、現地形状調査結果を示す。

アップスタンド S= 1:5

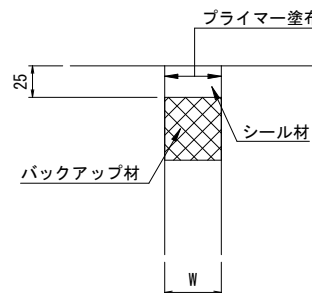


※< >内数値"25用"はP1橋脚数値を
() 内数値"35用"はP2橋脚での数値を示す。

止水処理図 S= 1:10



シール材充填図 S= 1:3



寸法表				
位置	A1橋台	P1橋脚	P2橋脚	A2橋台
W (mm)	45	30	40	30

伸縮装置材料表

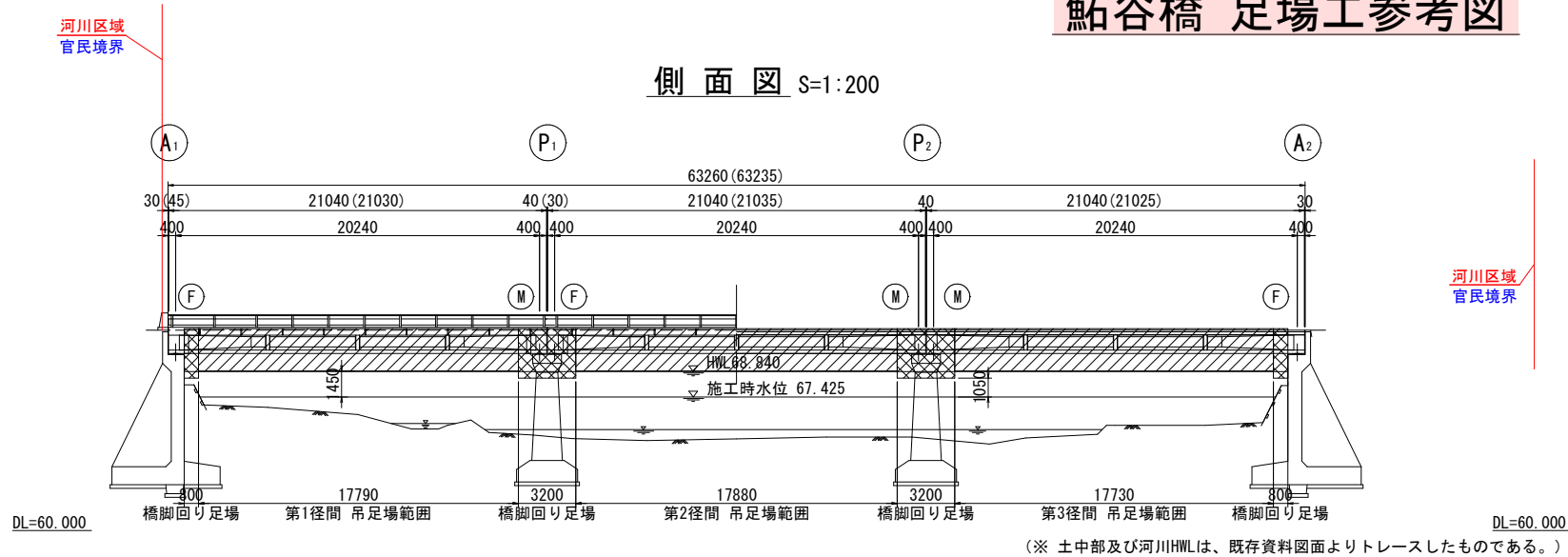
名 称	材質	単位	A1	P1	P2	A2	合計	備考
プロフジョイントCDx型-20用	SS400 合成ゴム SD345 弾性シール材	m	4.200			4.200	8.400	耐グレーダー用
プロフジョイントCDx型-30用	"	"		4.200			4.200	"
プロフジョイントCDx型-40用	"	"			4.200		4.200	"
シール材	シリコン系	リッター	1.35	0.90	1.20	0.90	4.35	
コンクリートアンカー D16	SD345	本	64	64	64	64	256	
超速硬コンクリート		m3	0.246	0.265	0.265	0.246	1.022	
アップスタンド	SS400 弾性シール材	箇所	2	2	2	2	8	

※材料寸法は、現場実測後に決定すること。
※シール材数量は参考に、現地調査結果値で算出。

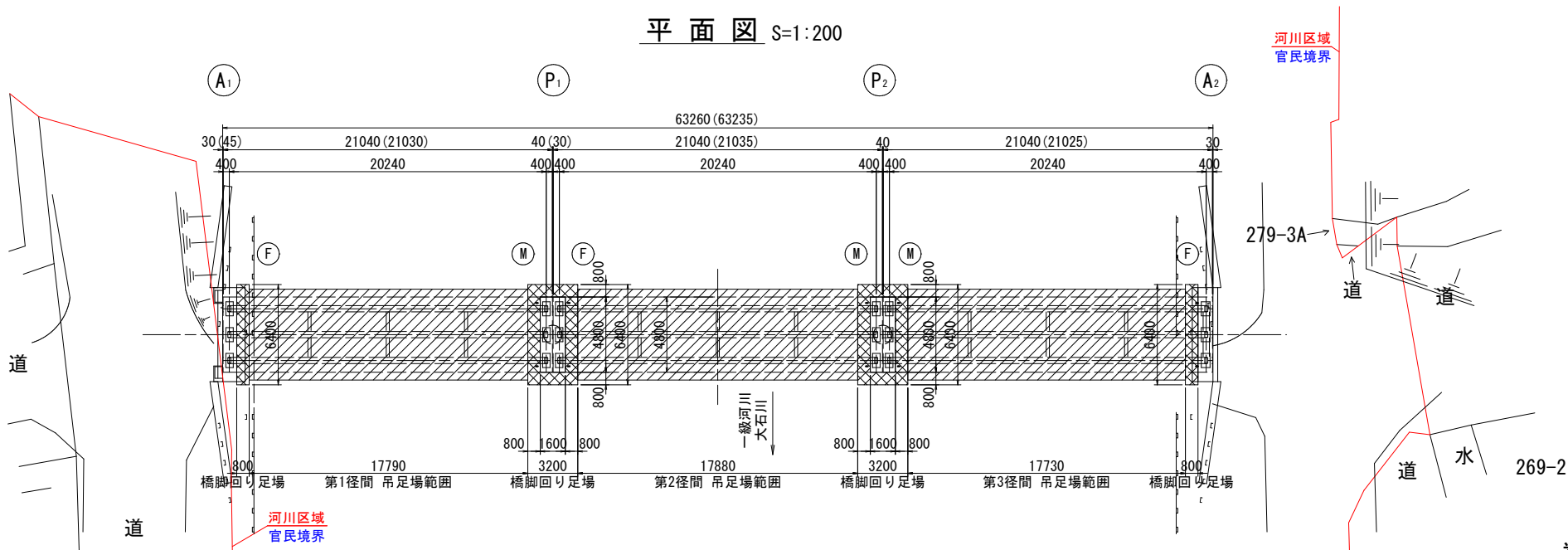
令和 6年度 工事番号	補第1号
村道 七ヶ谷郷51号 線 岩船 町 鯨谷	
鯨谷橋補修工事	
鯨谷橋 伸縮装置詳細図	
縮 尺	図 示
測 量	図面全 23 葉の 21
設 計	令和 2 年 3 月 日 主 任 技 術 者
株式会社 キタック	令和 2 年 3 月 日 主 任 技 術 者 (円)
関 川 村	

鮎谷橋 足場工参考図

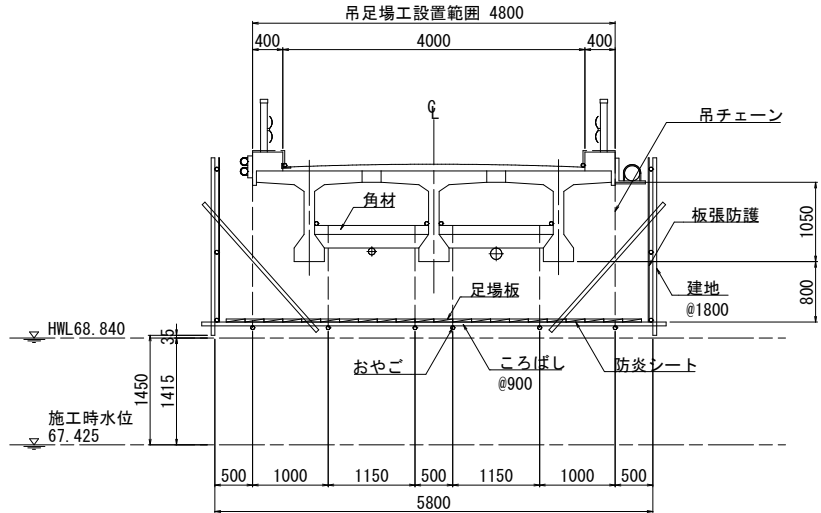
側面図 S=1:200



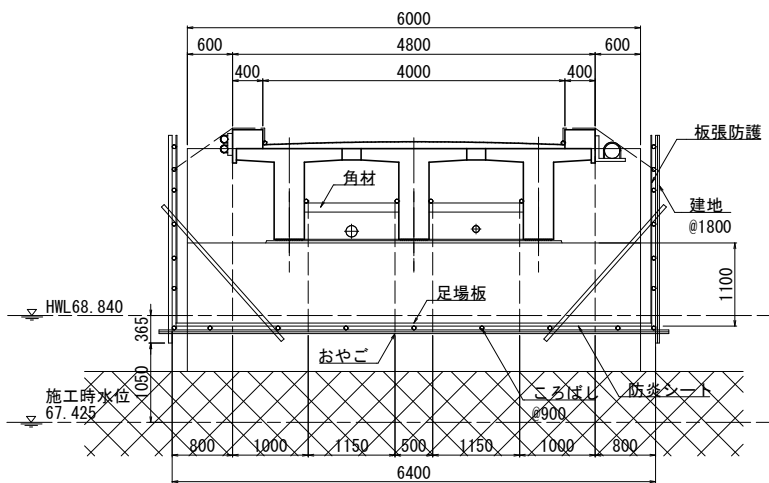
平面図 S=1:200



吊足場断面図 S=1:50



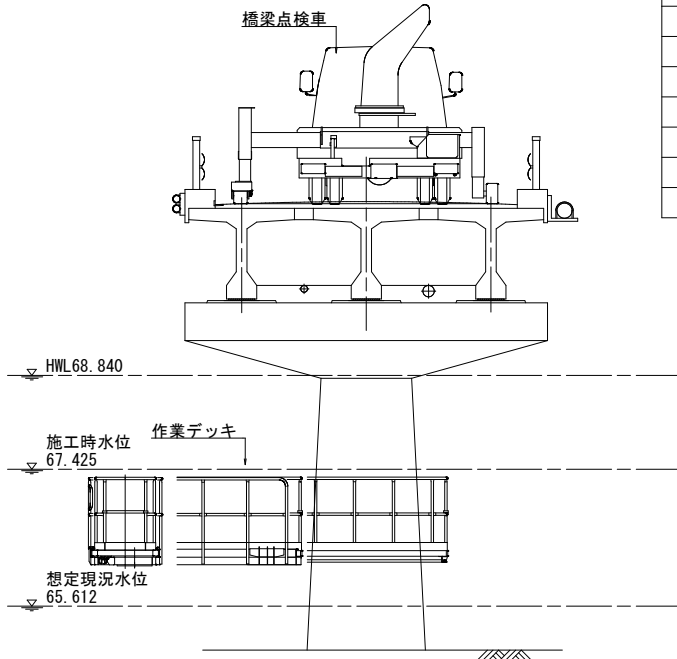
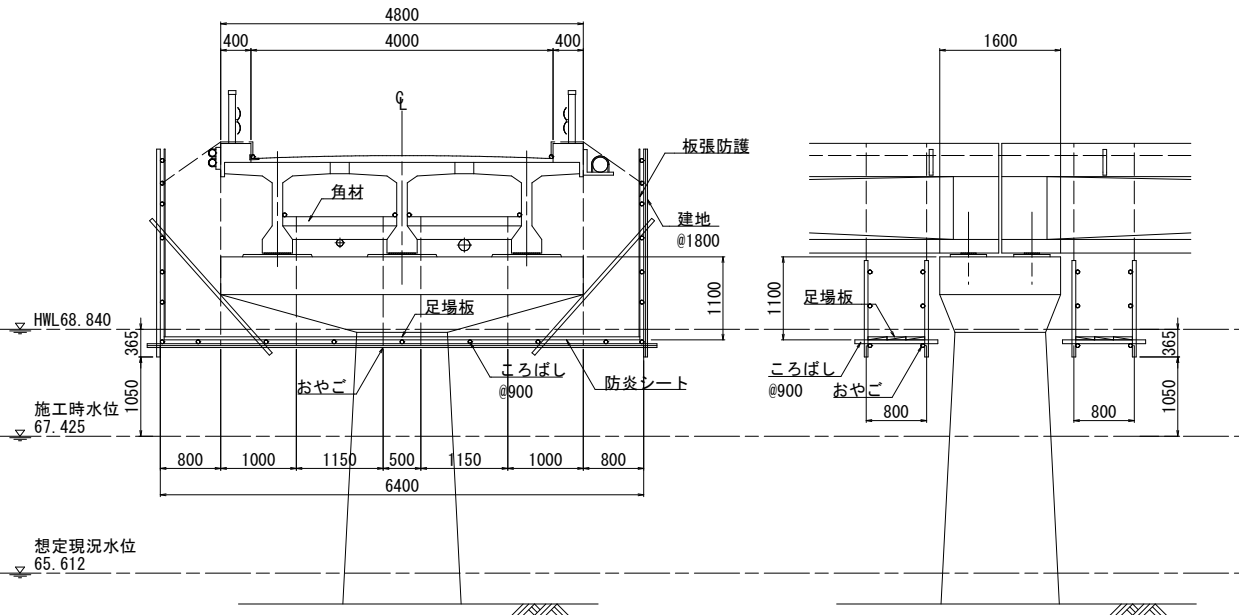
橋脚回り足場断面図(橋台部) S=1:50



橋脚回り足場断面図(橋脚部) S=1:50

橋脚回り足場側面図(橋脚部) S=1:50

橋脚柱部作業床展開図 S=1:50



数量表

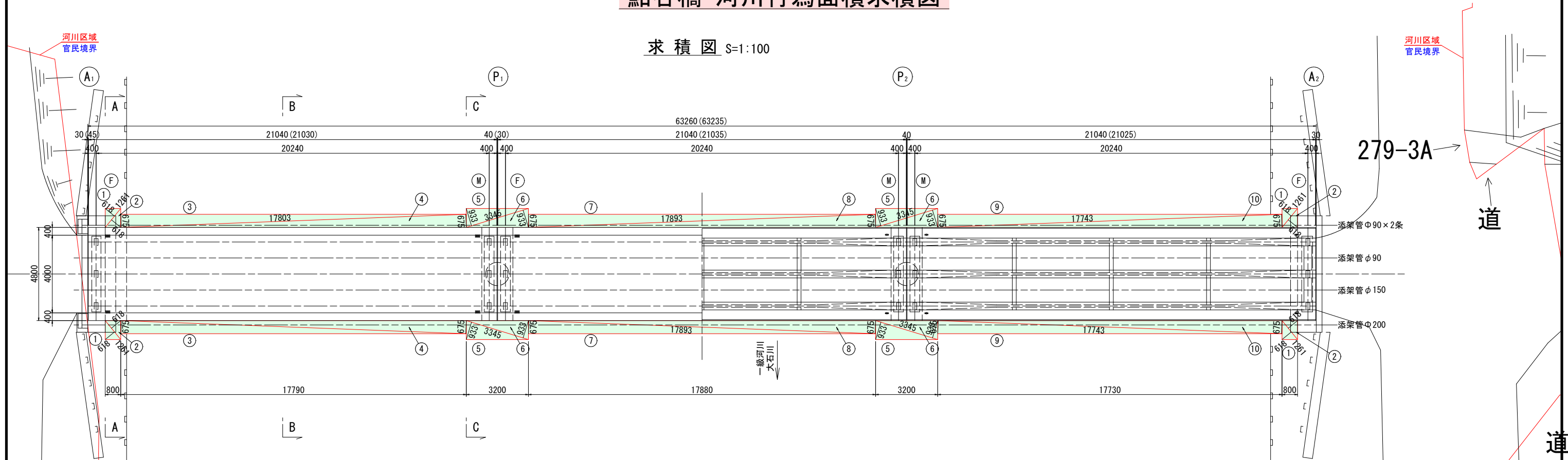
名称		計算式	単位	数量	備考
吊足場工設置面積	第1径間	4.800×17.790	m2	85.4	PC橋補修用足場 1.5>H
	第2径間	4.800×17.880	m2	85.8	PC橋補修用足場 1.5>H
	第3径間	4.800×17.730	m2	85.1	PC橋補修用足場 1.5>H
橋脚回り足場工設置面積	A1橋台	6.400×0.800	m2	5.1	タイプF
	P1橋脚	4.800×0.800×2+3.200×0.800×2	m2	12.8	タイプF
	P2橋脚	4.800×0.800×2+3.200×0.800×2	m2	12.8	タイプF
	A2橋台	6.400×0.800	m2	5.1	タイプF

注記)
1. 図面は、現地形状調査の結果及び既存図面、道路台帳附図より復元したものである。
2. カッコ（ ）内の数字は、現地形状調査の結果であり既存資料図面が確認できない若しくは異なる場合に記載している。
3. 支承の固定・可動条件(F:固定、M:可動)は、既存図面及び現地計測により判断した。
4. 図面中の河川区域・官民境界はH24年度国土調査結果を反映した集成図をもとに挿入したものである。
5. 橋脚柱部の損傷については橋梁点検車による補修を想定したものである。

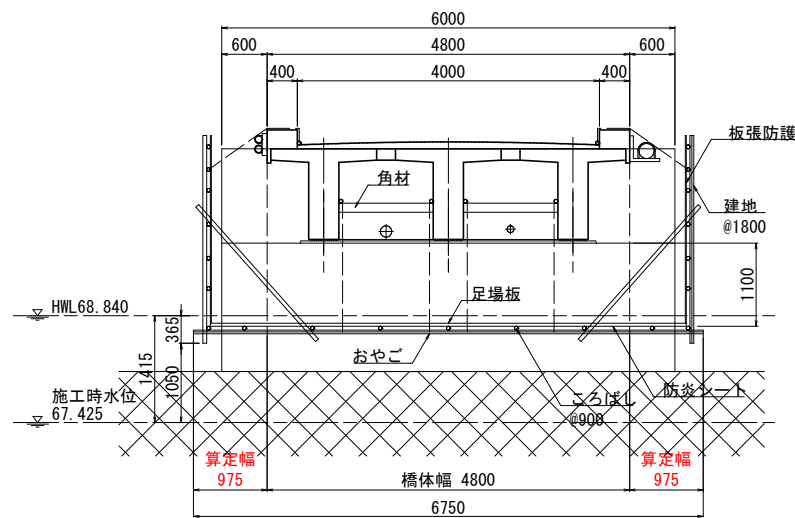
令和 6年度 工事番号		補第1号	
村道	七ヶ谷郷51号	岩船	鮎谷
鮎谷橋補修工事			
鮎谷橋 足場工参考図			
縮尺	図示	図面全 23 葉の	22
測量	令和 2 年 3 月 日	主任 技術者	
設計	株式会社 キタック	令和 2 年 3 月 日	主任 技術者 (円)
関 川 村			

鮎谷橋 河川行為面積求積図

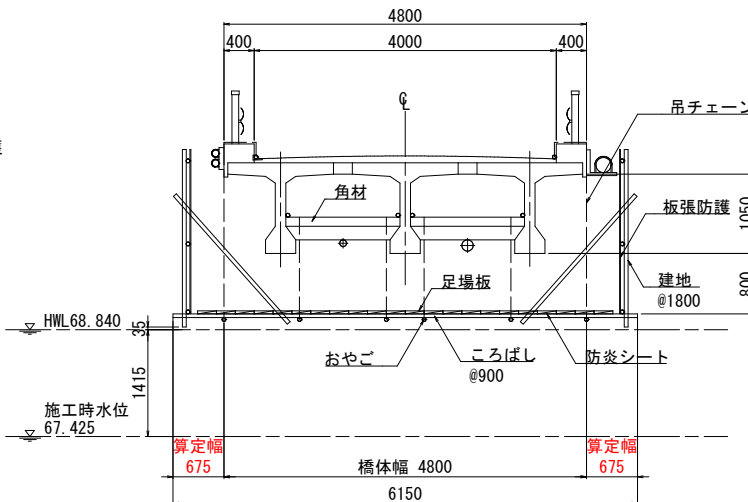
求積図 S=1:100



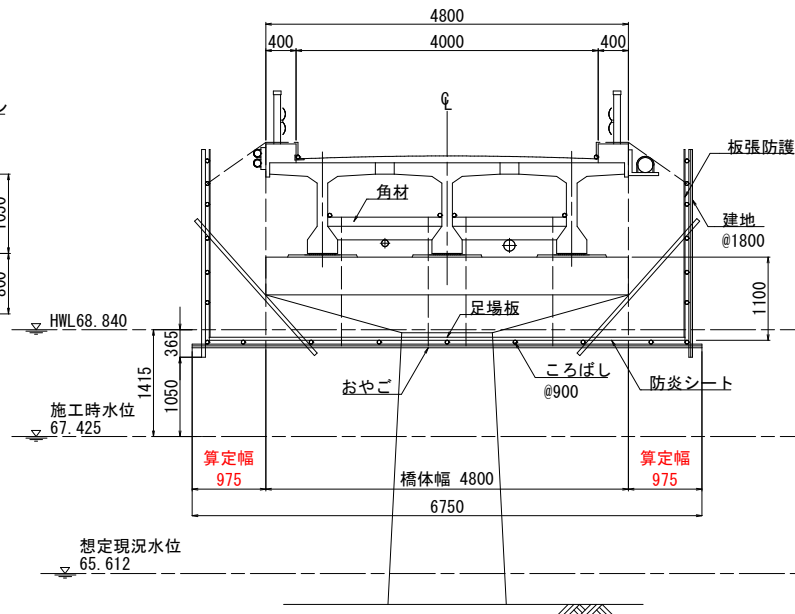
A-A断面図 S=1:50
橋脚回り足場工(橋台)



B-B断面図 S=1:50
吊足場工



C-C断面図 S=1:50
橋脚回り足場工(橋脚)



河川行為面積計算

番号	底辺 (m)	高さ (m)	面数	倍面積 (m2)
1	1.261	0.618	4	3.117
2	1.261	0.618	4	3.117
3	17.803	0.675	2	24.034
4	17.803	0.675	2	24.034
5	3.345	0.933	4	12.484
6	3.345	0.933	4	12.484
7	17.893	0.675	2	24.156
8	17.893	0.675	2	24.156
9	17.743	0.675	2	23.953
10	17.743	0.675	2	23.953
倍面積計 (m2)				175.49
面積計 (m2)				87.75

注記)
1. 図面は、現地形状調査の結果及び既存図面、道路台帳附図より復元したものである。
2. カッコ () 内の数字は、現地形状調査の結果であり既存資料図面が確認できない若しくは異なる場合に記載している。
3. 支承の固定・可動条件(F: 固定、M: 可動)は、既存図面及び現地計測により判断した。
4. 図面中の河川区域・官民境界はH24年度国土調査結果を反映した集成図をもとに挿入したものである。

令和 6年度 工事番号	補第1号
村道 七ヶ谷郷51号 鮎谷	鮎谷
鮎谷橋補修工事	
鮎谷橋 河川行為面積求積図	
縮尺	図面全 23 葉の 23
測 量	令和 2 年 3 月 日 主 任 技 術 者
設 計	株式会社 キタック 令和 2 年 3 月 日 主 任 技 術 者
関 川 村	